SLK-Class

取扱説明書

表記と記載内容について

マーク	内容
*	オプションや仕様により異なる装備には * マークが付いています。
⚠	**警告** 重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。
(環境マーク)	**環境** 環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことです。
!	**注意** けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。
i	**知識** 知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。
▶	操作手順などを示しています。
(▷ ページ)	関連する内容が他のページにもあることを示しています。

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をご使用になる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 表紙の画像はイメージであり、日本仕様とは異なる場合があります。
- この取扱説明書には、日本仕様には設定されない装備の記述が含まれている場合があります。
- この取扱説明書には、走行速度が100km/h を超えたときの車両機能や状態などについての記述がありますが、公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオやナビゲーションに関しては、別冊の「COMAND システム取扱説明書」をお読みください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店またはメルセデス·ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ メルセデス·ベンツ日本㈱ 公式サイト
http://www.mercedes-benz.co.jp/

メルセデス・ベンツ日本株式会社

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ヤ

ラ

ワ

A

B

E

S

環境保護について

Daimler AG では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- 短距離短時間の走行を控えることで、燃料の余分な消費を抑えられます。
- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- メルセデス･ベンツ指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。
- エンジン始動時は、アクセルペダルを踏み込まないでください。
- 慎重に運転をし、前車との車間距離を適切に保ってください。

環　境

Daimler AG は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

安全のために

警告ラベル

車両には警告ラベルが貼付されています。警告ラベルには危険な状況を回避するための情報や、車を安全に使用するための情報などが記されています。警告ラベルは絶対にはがさないでください。

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をお読みください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけトランクに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに、荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- ロールバー周辺に荷物を置かないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時または事故のときなどに、荷物が前方に放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物をシートのバックレストより高く積み上げないでください。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用し、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6 歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（▷40 ページ）を使用することが法律で義務付けられています。

子供は助手席に

子供を助手席に座らせるときは、シートを最後部にし、正しく座らせてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供には操作させない

ドアやバリオルーフ、ドアウインドウやリアクォーターウインドウは大人が操作してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。

ドアウインドウやバリオルーフの開口部から身体を出さない

子供がドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。「走行と停車」もあわせてお読みください（▷94 ページ）。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、セレクターレバーが P、N 以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときに、ペダルが一定のところで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

エンジンの始動

セレクターレバーが P に入っていることを確認して、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- セレクターレバーを D 、 R に入れるときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な上り坂で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込み、車がわずかに動き出すのを確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

走行中

- 走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため事故につながったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。また、安全装備が作動しなくなるおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが走行位置に入ると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂などでは、アクセルペダルの踏み加減によって停止状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。
- 完全に停車する前に、セレクターレバーを P に入れないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずセレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにセレクターレバーを P か N に戻すように心がけてください。R に入っていることを忘れてアクセルペダルを踏み込むと、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。

日射に関する注意事項

- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。
- メガネやサングラスを車内に放置しないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレームが変形したり、ひび割れするおそれがあります。

ライターに関する注意事項

- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ライターをグローブボックスや小物入れなどに入れたままにしたり、車内に落としたままにしないでください。

  荷物を押し込んだときやシートを操作したときにライターの操作部に触れてライターが誤作動し、火災が発生するおそれがあります。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。
- 定期交換部品などは純正品だけを使用し、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- 燃料やオイルの添加剤などは一切使用しないでください。故障の原因になります。
- 無線機やオーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

自動車電話、携帯電話の使用

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になります。安全な場所に停車してから使用してください。

COMAND システムの操作

COMAND システムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に COMAND ディスプレイを見るときは、必要最小限（約 1 秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、エンジンオイル、エンジンオイルフィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

車両に保存されるデータ

故障データ

車両には、故障時や異常時のデータを保存する機能があります。

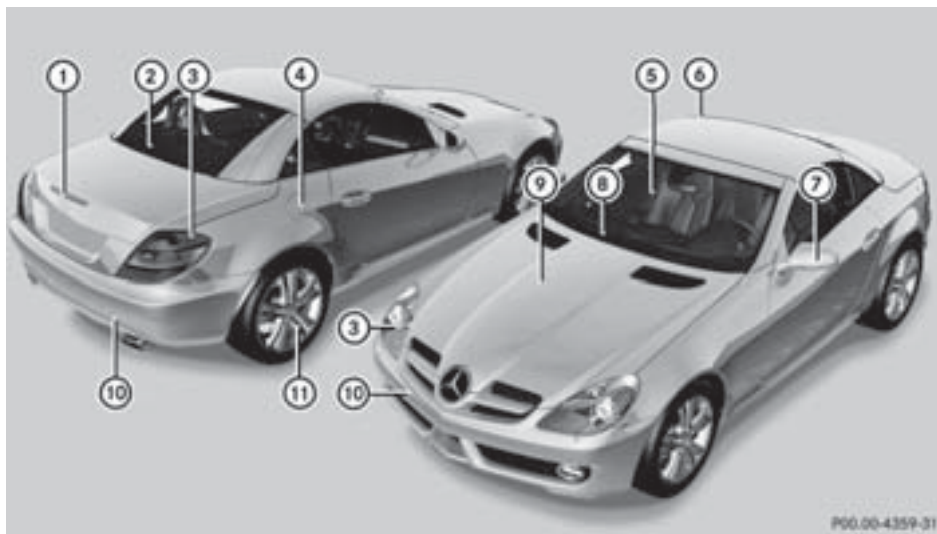
保存されたデータは、安全装備などが作動するとき、または故障や異常の原因の特定、車両開発などに使用されます。

データを使用して、車両の過去の移動経路を調べることはできません。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、故障診断機によって読み取られたデータは、使用後に消去されます。

データが保存されるその他の装備

COMAND システムでは、ナビゲーションや電話などでデータを保存したり、編集することができます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

外観

	名称	ページ
①	トランクルーム	59
	応急用スペアタイヤ	203
	車載工具	202
②	リアデフォッガー	146
③	ヘッドランプ	80
	テールランプ	233
④	燃料給油口	165
⑤	デフロスター	145
	ウインドウウォッシャー	89
⑥	バリオルーフ	149
	ドラフトストップ *	154
⑦	ドアミラー	70
⑧	ワイパー	87

	名称	ページ
⑨	ボンネット	167
	エンジンオイル	170
		269
	ブレーキ液	174
		271
	ウォッシャー液	175
		271
	冷却水	172
		270
	バッテリー	252
		271
⑩	けん引フック	258
⑪	タイヤとホイール	176
		273

* オプションや仕様により、異なる装備です。

インストルメントパネル

左ハンドル車

	名称	ページ
①	パドル *	101 103
②	メーターパネル	23 24 105
③	音声認識レバー	別冊
④	前席上方の操作部	28
⑤	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯 *	136
⑥	エンジンスイッチ	62
⑦	ステアリング調整レバー	68
⑧	ボンネットロック解除レバー	168
⑨	ランプスイッチ	79
⑩	コンビネーションスイッチ (ヘッドランプ / 方向指示 / ワイパー)	82 83 87
⑪	クルーズコントロールレバー / 可変スピードリミッターレバー	129 133

* オプションや仕様により、異なる装備です。

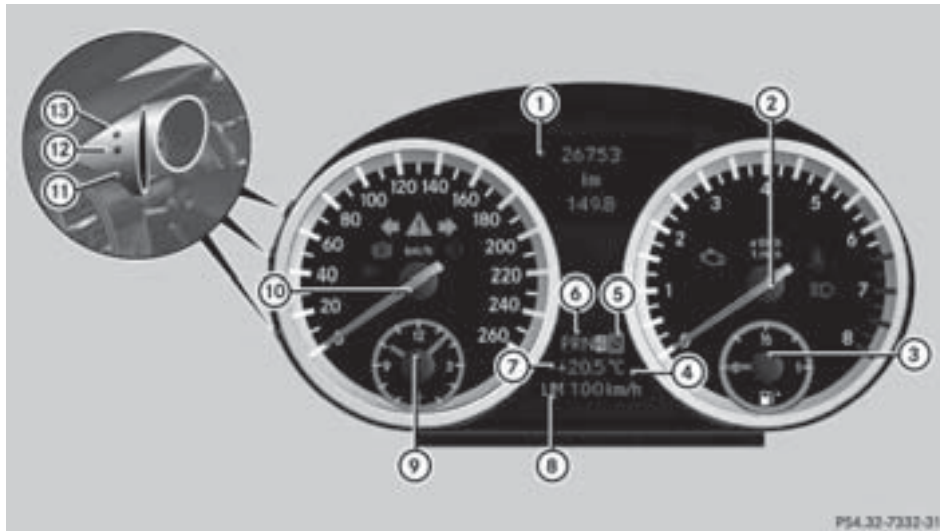
右ハンドル車

	名称	ページ
①	前席上方の操作部	28
②	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯 *	136
③	クルーズコントロールレバー / 可変スピードリミッターレバー	129 133
④	メーターパネル	23 24 105
⑤	パドル *	101 103
⑥	音声認識レバー	別冊

	名称	ページ
⑦	ランプスイッチ	79
⑧	ヘッドランプ照射角度調整ダイヤル *	84
⑨	ボンネットロック解除レバー	168
⑩	エンジンスイッチ	62
⑪	ステアリング調整レバー	68
⑫	コンビネーションスイッチ (ヘッドランプ / 方向指示 / ワイパー)	82 83 87

* オプションや仕様により、異なる装備です。

メーターパネル

メーターパネル

	名称	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ (車両情報メイン画面)	109
②	タコメーター	106
③	燃料計	106
④	マルチファンクションディスプレイ (車両情報サブ画面)	109
⑤	走行モード表示	98
⑥	シフト位置表示 ギアレンジ表示 ギア表示 *	98 100 102

	名称	ページ
⑦	外気温度 / 走行速度表示	110
⑧	クルーズコントロール / 可変スピードリミッター設定速度表示	130 134
⑨	時計	106
⑩	スピードメーター	106
⑪	リセットボタン	106
⑫ ⑬	メーターパネル照度調整ボタン	105

* オプションや仕様により、異なる装備です。

表示灯 / 警告灯

	名称	ページ
①	SRS 警告灯	33
②	ABS 警告灯	215
③	方向指示表示灯（左）	83
④	ESP® 表示灯	47
⑤	方向指示表示灯（右）	83
⑥	ブレーキ警告灯	187
⑦	エンジン警告灯	217
⑧	シートベルト警告灯	77
⑨	ハイビーム表示灯	82
⑩	燃料残量警告灯	106

マルチファンクションステアリング

	名称	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	107
②	COMAND システム	別冊
③	[通話開始] [通話終了] 通話開始 / 終了スイッチ（電話） [+] [−] 設定スイッチ / 音量スイッチ	107
④	[表示切り替え] [表示切り替え] 表示切り替えスイッチ [▲] [▼] スクロールスイッチ	107

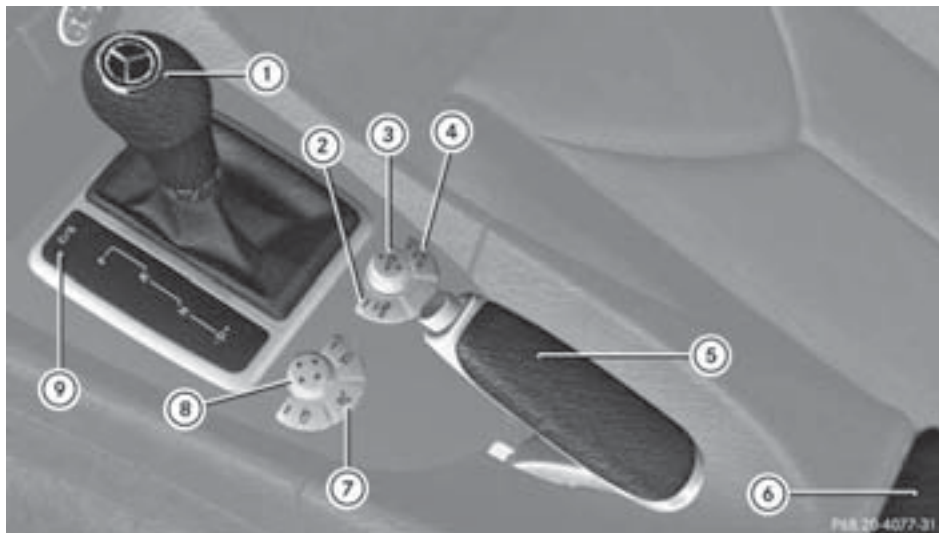
センターコンソール

センターコンソール上部

	名称	ページ
①	エアスカーフスイッチ *	66
②	シートヒータースイッチ	67
③	ESP® オフスイッチ	49
④	ドアロックスイッチ（施錠）	58
⑤	非常点滅灯スイッチ	82
⑥	ドアロックスイッチ（解錠）	58
⑦	パークトロニックオフスイッチ *	139

	名称	ページ
⑧	カップホルダー	157
⑨	COMAND システム	別冊
⑩	助手席エアバッグオフ表示灯	42
⑪	エアコンディショナーコントロールパネル	141
⑫	ライター	161
⑬	灰皿	160

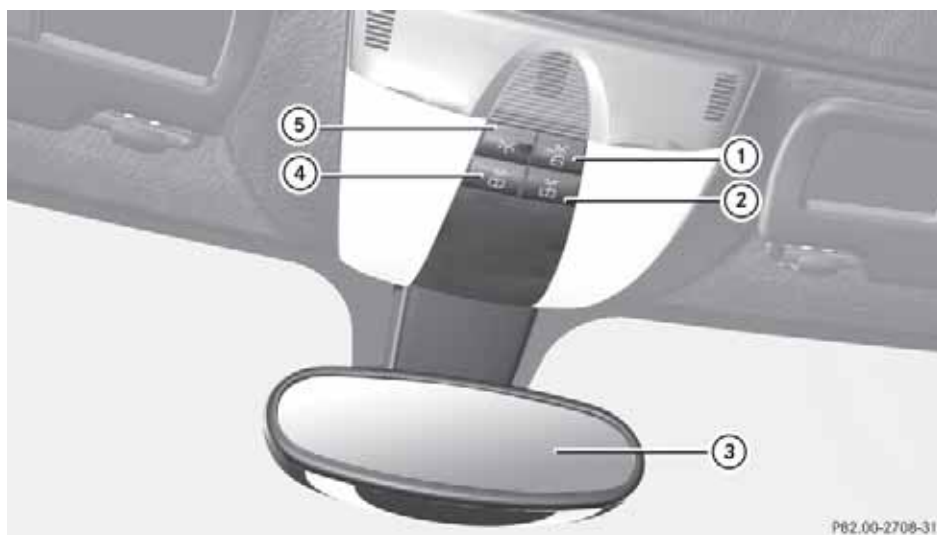
* オプションや仕様により、異なる装備です。

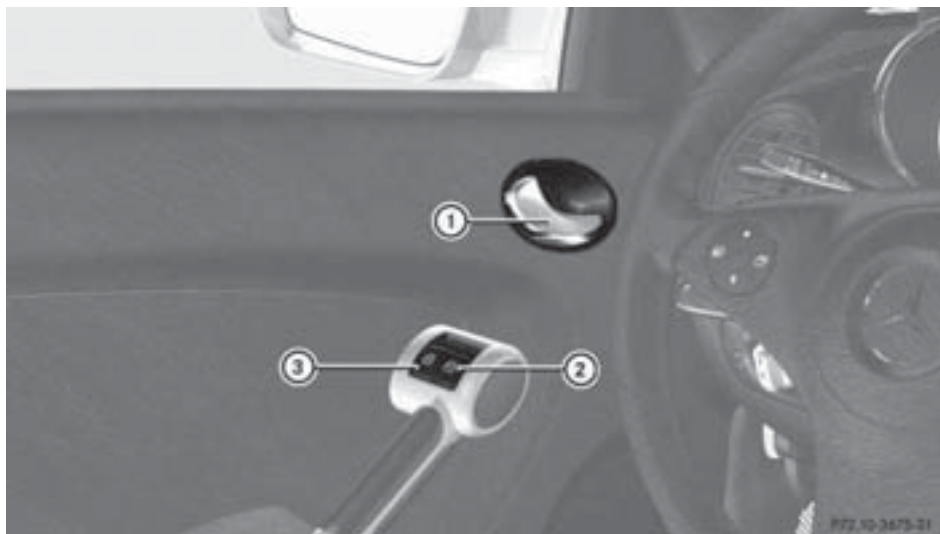
センターコンソール下部

左ハンドル車

	名称	ページ
①	セレクターレバー	97 101 103
②	室内センサー解除スイッチ *	51
③	バリオルーフスイッチ	151
④	けん引防止機能解除スイッチ *	50

	名称	ページ
⑤	パーキングブレーキレバー	96
⑥	アームレストの小物入れ	156
⑦	ドアミラー格納 / 展開スイッチ	70
⑧	ドアミラー調整スイッチ	70
⑨	走行モード選択スイッチ	99

* オプションや仕様により、異なる装備です。

前席上方の操作部

	名称	ページ
①	点灯モード選択スイッチ	85
②	読書灯（右側）スイッチ	85
③	ルームミラー	69
④	読書灯（左側）スイッチ	85
⑤	ルームランプスイッチ	85

ドアの操作部

	名称	ページ
①	ドアレバー	57 58
②	ドアウインドウスイッチ（右側）	91
③	ドアウインドウスイッチ（左側）	91

乗員安全装備

乗員保護装置

シートベルトやシートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター、エアバッグは、相互に補完する乗員保護装置です。

これらは、想定される事故の状況において、乗員が負傷する可能性を最小限に抑えて安全性を高めます。

シートベルトとエアバッグは、物が外部から車内に入り込んだときの衝撃から乗員を保護する効果はありません。

乗員保護装置が適切に機能するため、以下のことに注意してください。

- シートやヘッドレストは正しい位置に調整してください（▷63 ～ 65 ページ）。
- シートベルトを正しく着用してください（▷75 ページ）。
- エアバッグの作動が妨げられていないことを確認してください（▷35 ページ）。
- ステアリングを正しい位置に調整してください。
- 乗員保護装置を改造しないでください。

⚠ けがのおそれがあります

エアバッグはシートベルトの効果を補助する装置であり、シートベルトの代わりになるものではありません。必ず乗員全員がシートベルトを正しく着用し、シートのバックレストをできるだけ垂直の位置にして乗車してください。

ℹ エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。また、乗員が正しくシートベルトを着用している場合、状況によってはエアバッグによる補助的な保護を必要としないことがあります。

以下の理由から、エアバッグはシートベルトを正しく着用している場合にのみ、シートベルトの保護機能を高めることができます。

- シートベルトを着用することで、乗員とエアバッグの適切な位置関係を保つことができます。
- シートベルトを着用することで、正面からの衝突のときなどに乗員が前方に投げ出されるのを防ぐことができます。

⚠ 事故やけがのおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

⚠ けがのおそれがあります

乗員保護装置を取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。また、車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

誤作動でけがをしたり、事故などのとき、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS（乗員保護補助装置）

SRSは以下の装備により構成されます。

- SRS 警告灯
- シートベルトテンショナー
- ベルトフォースリミッター
- エアバッグ

SRS SRS 警告灯

エンジンスイッチを **1** の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。

エンジンスイッチを **2** の位置にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときは、一定間隔で自己診断を行ない、SRS の異常を検出します。

けがのおそれがあります

以下のようなときは、SRS に異常が発生しています。衝撃を受けてもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないおそれや、不意に作動するおそれがあります。ただちにメルセデス·ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にしたときに SRS 警告灯が点灯しないとき
- エンジンスイッチを **1** の位置にしたときは数秒後に、エンジンスイッチを **2** の位置にしたときはエンジンを始動してから数秒後に SRS 警告灯が消灯しないとき
- エンジンがかかっているときなどに SRS 警告灯が点灯したとき

シートベルトテンショナーと運転席 / 助手席エアバッグの作動

シートベルトテンショナーとエアバッグの作動は、衝撃の強さによって変わります。

衝突などで衝撃が発生した際、センサーは衝撃の強さや方向などを検知し、シートベルトテンショナーを作動させる必要があるか判断します。

さらに前方から一定以上の衝撃を検知したときに、運転席 / 助手席エアバッグが作動します。

ℹ 事故の状況によってはエアバッグが作動しない場合があります。

事故の際にすべてのエアバッグが作動するわけではありません。

各エアバッグの作動条件はそれぞれ異なります。

いずれのエアバッグも、衝突の最初の段階において検知された衝撃の強さや方向などに基づいて作動します。

ℹ センサーが検知する衝撃の強さや方向は、以下の要素によって決まります。

- 衝撃の集中度 / 分散度
- 衝撃の角度
- 車体の変形度合い
- 衝突物の特性

シートベルトテンショナー / ベルトフォースリミッター

シートベルトテンショナー

シートベルトテンショナーは、車の前後方向から大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。

シートベルトテンショナーは、エンジンスイッチが **2** の位置で、以下のときに作動します。

- SRS に異常がないとき
- 運転席のシートベルトテンショナーは、シートベルトが正しくバックルに差し込まれているとき
- 助手席のシートベルトテンショナーは、助手席に乗員がいることを検知して、シートベルトが正しくバックルに差し込まれているとき
- 衝撃を受けた最初の段階で、車両の前後方向に急激に強い衝撃が加わったとき
- 車の左右方向から強い衝撃を受けたとき
- 車両の横転時には、シートベルトテンショナーの作動がシートベルトの効果の向上になると判断されたとき

⚠ けがのおそれがあります

作動したシートベルトテンショナーは、必ずメルセデス･ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス･ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

! 助手席に乗車していないときは、シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。衝突時などに、シートベルトテンショナーが作動することがあります。

i シートベルトテンショナーは、シート位置が不適切なときや、シートベルトが正しく着用されていないときは、効果を発揮できません。

i シートベルトテンショナーは、バックレストに乗員の身体を密着させるためのものではありません。

i シートベルトテンショナーが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターは、シートベルトに一定以上の荷重がかかったとき、乗員の胸にかかる力を分散・軽減します。

ベルトフォースリミッターは、運転席 / 助手席エアバッグと連動して作動します。

エアバッグ

⚠ **けがのおそれがあります**

エアバッグの乗員保護機能を正しく発揮するため、以下の点に注意してください。

- 乗員全員がシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直の位置にしてください。

  ヘッドレストの中央が目の高さになるように調整してください。
- 身長 150cm 未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 運転席シートは正しい位置に調整し、助手席シートはできるだけ後部に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 頭部をドアウインドウに寄りかけないでください。ヘッドソラックスサイドバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物を入れないでください。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。エアバッグの作動が妨げられるおそれや、エアバッグが作動したときにけがをするおそれがあります。
- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間にペットや荷物を置かないでください。
- エアバッグ収納部やその近くに物を置かないでください。
- ウインドウやピラーの周囲にアクセサリーなどを取り付けないでください。
- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。誤作動でけがをしたり、正しく作動しなくなります。

⚠ **けがのおそれがあります**

以下のエアバッグ収納部には、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼付したり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。

- ステアリングパッド部
- 助手席側のダッシュボードパネル部
- シートのバックレスト側面

エアバッグの作動

車が一定以上の衝撃を受けると、高温のガスが排出されて、収納されているエアバッグが瞬時にふくらみます。

これにより、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

⚠ **けがのおそれがあります**

- エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。
  ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- 関連部品に身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。
- 作動したエアバッグは、必ずメルセデス･ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。
  未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス･ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

! エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。

! エアバッグの作動時に聞こえる作動音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

i エアバッグが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

エアバッグの種類と収納場所

エアバッグ名	収納場所
運転席 エアバッグ	ステアリング パッド部
助手席 エアバッグ	助手席ダッシュ ボードパネル部
ヘッドソラックス サイドバッグ	シートのバック レスト側面

運転席 / 助手席エアバッグ

右ハンドル車

前方からの強い衝撃を受けると作動し、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

運転席 / 助手席エアバッグ ①② は、他のエアバッグの作動に関わらず、以下のときに作動します。

- 衝突の最初の段階で、前方から一定以上の衝撃を検知したとき
- シートベルトを正しく着用しているとき
- 車両の横転などにより、前後方向から一定以上の衝撃を検知したとき

助手席には乗員検知機能を装備しており、助手席に乗員がいないと判断したときは助手席エアバッグは作動しません。

ℹ 助手席に重い荷物などを積んで、シートベルトをバックルに差し込んでいるときは、助手席エアバッグが作動することがあります。

ℹ 車の前方からの衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、運転席 / 助手席エアバッグは作動しないことがあります。

ヘッドソラックスサイドバッグ

ドアやその付近に横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のヘッドソラックスサイドバッグ①が作動し、頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

ヘッドソラックスサイドバッグは、シートベルトテンショナーや他のエアバッグの作動に関わらず、以下のときに作動します。

- 衝突の最初の段階で、側方から一定以上の衝撃を検知したとき
- ヘッドソラックスサイドバッグの作動がシートベルトの効果の向上になると判断されたとき
- シートベルトを正しく着用しているとき
- 助手席のヘッドソラックスサイドバッグは、乗員検知機能が助手席の乗員を検知しているとき

⚠ **けがのおそれがあります**

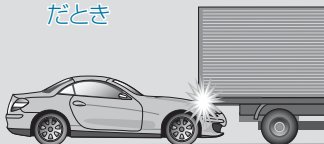
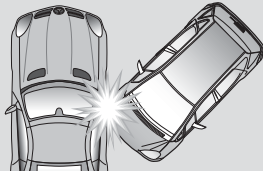
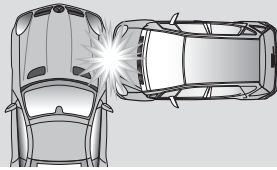
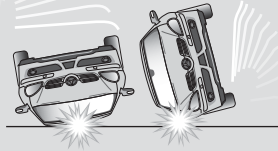
シートに市販のシートカバーを使用しないでください。ヘッドソラックスサイドバッグの作動が妨げられるおそれがあります。

エアバッグの作動条件

運転席 / 助手席エアバッグが作動するとき

ヘッドソラックスサイドバッグが作動するとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しないとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しない場合があるとき

ヘッドソラックスサイドバッグが作動しない場合があるとき

いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき

子供を乗せるとき

シートベルトは身長 150cm 以上の乗員が使用することを前提にしています。シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

⚠ けがのおそれがあります

- チャイルドセーフティシートを使用している場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。
  - ◇ 運転装置に触れてけがをするおそれがあります。
  - ◇ 誤ってドアを開き、事故の原因になります。
  - ◇ 炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。
  - ◇ 寒冷時には車内が低温になり、命にかかわるおそれがあります。
- 重い物やかたい物を積載するときは、確実に固定してください。
- 荷物が固定されていなかったり適切な位置に置かれていないと、以下のような場合に子供がけがをする危険性が増加します。
  - ◇ 急ブレーキ
  - ◇ 急な進路変更
  - ◇ 事故

荷物の積み方 / 小物入れについて、詳しくは（▷155 ページ）をご覧ください。

チャイルドセーフティシート

⚠ けがのおそれがあります

- シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、チャイルドセーフティシートを使用してください。急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供が、そのままシートベルトを着用すると、首を締め付けたり、腹部を強く圧迫したりして致命的なけがをするおそれがあります。
- 6 歳未満の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務付けられています。
- 6 歳以上の子供でも、シートベルトが正しく着用できない子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 身長 150cm 未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 子供の体格に適合したチャイルドセーフティシートを使用し、子供を正しい姿勢で座らせ、身体をシートベルトで確実に固定してください。
- 子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。

- 後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着するときは、以下の状態を確認してください。

  ◇ チャイルドセーフティシートがセンサー付き純正チャイルドセーフティシートであり、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していること

  または

  ◇ 助手席の乗員の体重が一定以下であり、シートベルトのバックルを差し込んだときに助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していること

  後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着して助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、チャイルドセーフティシートを装着しないでください。助手席エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

  チャイルドセーフティシートに関する注意事項を記載したステッカーが、助手席側のサンバイザーに貼付されています。

- 前向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着して助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、助手席シートをもっとも後ろおよびもっとも高い位置にしてください。
- チャイルドセーフティシートは確実に装着してください。急ブレーキ時などに、チャイルドセーフティシートが放り出されてけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。
- チャイルドセーフティシートのクッションカバーが損傷したときは、純正品に交換してください。
- チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。チャイルドセーフティシートが確実に装着されないおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートを使用しないときは、車から取り外すか、確実に固定してください。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートの取り扱いや装着方法については、製品に添付されている取扱説明書をお読みください。

純正チャイルドセーフティシート

Daimler AG では、子供の体重や年齢に応じた純正チャイルドセーフティシートを用意しています。

選択の目安

シート名	体　重	年　齢
ベビーセーフプラス	約 10kg 以下 または 約 13kg 以下	新生児～ 9 カ月位 または 18 カ月位
デュオプラス	9 ～ 18kg	8 カ月～ 4 歳位
キッド	15 ～ 36kg	3 歳半～ 12 歳位

※ チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

助手席エアバッグオフ表示灯

助手席エアバッグの機能が解除されているときは、助手席エアバッグオフ表示灯 ① が点灯します。

助手席エアバッグオフ表示灯①は以下のときに点灯します。

- センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着して、エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にしたとき（チャイルドセーフティシート検知システム）

または

- 一定以下の体重の乗員が助手席に乗車して、シートベルトをバックルに差し込み、エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にしたとき（助手席検知機能）

詳しくは（▷43 ページ）をご覧ください。

! チャイルドセーフティシート検知システムまたは助手席検知機能が作動していないときに、エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にすると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときや点灯後に消灯しないときは、システムの故障です。すみやかにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

i 助手席エアバッグオフ表示灯①が点灯して、助手席エアバッグの機能が解除されても、ヘッドソラックスサイドバッグとシートベルトテンショナーの機能は解除されません。

⚠ **けがのおそれがあります**

チャイルドセーフティシート検知システムに関する警告

- センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着したときは、必ず助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することを確認してください。
- センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着しても助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、助手席エアバッグの機能は解除されていません。助手席エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。
  - ◇ 後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは装着しないでください。また、タイプにかかわらずチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。
  - ◇ チャイルドセーフティシートを装着するときは、必ず前向きに装着するタイプのみを使用して、助手席シートをもっとも後ろおよびもっとも高い位置にしてください。
  - ◇ すみやかにメルセデス·ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

助手席検知機能に関する警告

- チャイルドセーフティシートを装着して子供を乗車させるときは、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していることを確認してください。
- チャイルドセーフティシートを装着して子供を乗車させたときに助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、助手席エアバッグの機能は解除されていません。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。
  - ◇ 後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは装着しないでください。また、タイプにかかわらずチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。
  - ◇ チャイルドセーフティシートを装着するときは、必ず前向きに装着するタイプのみを使用して、助手席シートをもっとも後ろおよびもっとも高い位置にしてください。

チャイルドセーフティシート検知システム

助手席シートの座面に検知システムが装備されており、センサー付き純正チャイルドセーフティシートとの間で自動的に信号の発信 / 受信を行ない、チャイルドセーフティシートの有無を判断し、助手席エアバッグの機能を解除するシステムです。

助手席エアバッグの機能が解除されると、助手席エアバッグオフ表示灯(▷42ページ)が点灯します。

! 助手席のシート座面とセンサー付き純正チャイルドセーフティシートの間に物を入れないでください。チャイルドセーフティシートを検知できなくなるおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

助手席のシートクッションに、電源の入ったパソコンや携帯電話などの電子機器、または磁気カードやICカードなどを置かないでください。チャイルドセーフティシート検知システムが誤作動して、事故のときに助手席エアバッグが作動しないおそれがあります。また、センサー付きチャイルドセーフティシートを検知できずに、助手席エアバッグが作動するおそれがあります。

助手席検知機能

助手席に乗車している乗員の体重が一定以下であるとき、または助手席に乗員が乗車していないと判断したときに、シートベルトのバックルが差し込まれているときは、助手席エアバッグの機能が解除されます。

助手席エアバッグの機能が解除されると、助手席エアバッグオフ表示灯(▷42ページ)が点灯します。

走行安全装備

走行安全装備には、以下のものがあります。

- ABS(アンチロック·ブレーキング·システム)
- BAS(ブレーキアシスト)
- ESP®(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)

ℹ 雪道や凍結路を走行するときは、ウィンタータイヤやスノーチェーンの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤやスノーチェーンを装着することで、ABSやBAS、ESP®の効果が発揮されます。

⚠ 事故のおそれがあります

走行安全装備が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保、制動距離の短縮には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

また、タイヤのグリップが失われた状況では、走行安全装備は効果を発揮しません。

ABS

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）は、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、タイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両操縦性を確保する装置です。

ABS は路面の状態に関わらず、走行速度が約 8km/h を超えると作動できるようになります。

滑りやすい路面では、軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでも ABS は作動します。

⚠ 事故のおそれがあります

ブレーキ操作をするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。ポンピングブレーキを行なうと制動距離が長くなるおそれがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

- ABS はブレーキ操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ABS が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。

  また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ABS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- ABS に異常があるときは、ブレーキペダルを強く踏み込むとタイヤはロックします。その結果、ステアリングでの車両操縦性が制限され、制動距離が長くなるおそれがあります。
- 故障により、ABS の機能が解除されたときは、BAS と ESP® の機能も解除されます。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を確保して運転してください。

! ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下のような路面が滑りやすい状況では、ABS を装備していない車と比べ制動距離が長くなることがあります。

- 雪の積もった路面や凍結した路面
- 砂利道などの荒れた路面
- 石だたみのように摩擦係数が連続して変化する路面
- スノーチェーン装着時

! マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷207 ページ）をご覧ください。

i ABS に異常があると、ESP® に関する故障 / 警告メッセージが表示されることがあります。すみやかにメルセデス·ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

i バッテリー電圧が低下すると ABS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると、機能も元に戻ります。

ABS が作動したとき

ABS が作動すると、ブレーキペダルに脈動を感じたり車体が振動することがありますが、異常ではありません。そのままペダルを踏み続けてください。

強い制動力が必要なときは、ブレーキペダルをいっぱいに踏み込んでください。

ⓘ エンジン始動後や発進直後にブレーキペダルを踏み込むと、ペダルがわずかに振動したりモーターの音が聞こえることがありますが、これは、システムが自己診断をしているときの音で異常ではありません。

BAS

BAS（ブレーキアシスト）は、緊急ブレーキの操作時に、短い時間で大きな制動力を確保するブレーキの補助装置です。

BAS の操作は、通常のブレーキ操作と同じですが、ブレーキペダルを踏み込む速さなどをセンサーが検知して、緊急ブレーキと判断したときに自動的に作動します。

BAS はブレーキペダルから足を放せば自動的に解除されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

- BAS は緊急ブレーキの操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。BAS が作動しても制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- BAS に異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、緊急ブレーキ時には制動距離が長くなるおそれがあります。
- BAS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

! マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは BAS は作動しません。詳しくは（▷207 ページ）をご覧ください。

ⓘ BAS に異常があると、ABS も正しく作動しなくなることがあります。

ⓘ BAS に異常があるときは、マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されますが、ブレーキは通常通り作動します。

ⓘ バッテリー電圧が低下すると BAS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると機能も元に戻ります。

ESP®

ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）は、タイヤの空転時や横滑り時など、車が不安定な状況になったときに、個々のタイヤに独立してブレーキを効かせたり、エンジン出力を制御することによって、車両操縦性や走行安定性を確保しようとするシステムです。

発進時または走行中に ESP® 表示灯が点滅したときは、ESP® が作動しています。

⚠ ESP® 表示灯

エンジンスイッチを **2** の位置にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

⚠ 事故のおそれがあります

ESP® は車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESP® が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。

ESP® 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

⚠ 事故のおそれがあります

ESP® 表示灯が点滅したときは、車輪が空転しているか、車が横滑りしています。アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ
- ESP® の機能の解除

! 車輪を上げてけん引されるときや、ダイナモメーターでパーキングブレーキをテストするときは、エンジンスイッチを **2** の位置にしないでください。ESP® が作動して、接地している車輪のブレーキが作動します。また、ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! ESP® が故障すると、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示され、エンジンの出力が低下することがあります。走行が困難なときは、すみやかに安全な場所に停車し、メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! マルチファンクションディスプレイに ESP® に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷207 ページ）をご覧ください。

ℹ エンジンがかかっている状態で、駐車場などのターンテーブルで回転させたり、駐車場のらせん状のアプローチを走行しているときなどに、マルチファンクションディスプレイに ESP® に関する故障 / 警告メッセージが表示され、ESP® 表示灯や ABS 警告灯が点灯することがあります。

このようなときは、安全な場所に停車して、エンジンスイッチを **0** の位置に戻し、エンジンを再始動してください。しばらく走行すると、メッセージや表示灯、警告灯は消灯します。

ℹ ABS が故障したときは、ESP® の機能も解除されます。

ℹ ABS 警告灯が点灯しているときは、ESP® の機能も解除されています。メルセデス·ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ℹ 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、ESP® が正常に作動しないことがあります。

ESP® の機能の解除

以下のような状況では、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行しているとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

このときは ESP® の機能を解除します。

⚠ **事故のおそれがあります**

ESP® の機能を解除したときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

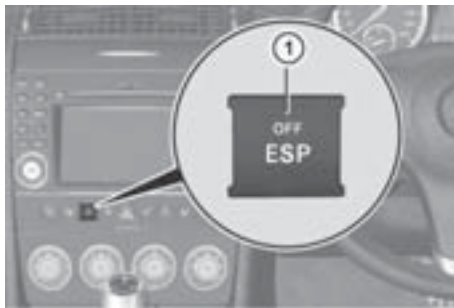
- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ

⚠ **事故のおそれがあります**

ESP® の機能を解除する必要がなくなったときは、ESP® を待機状態にしてください。車が不安定な状況になったときに、車両操縦性や走行安定性を高めることができません。

ESP® の機能が解除されると、以下の状態になります。

- ESP® は作動せず、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができなくなります。
- 駆動輪が空転した場合、ブレーキ制御による駆動力の確保は行なわれますが、エンジンの出力制御による駆動力の確保は行なわれません。
- トラクションコントロールは作動します。
- ブレーキを効かせたときは ESP® は自動的に作動します。

ℹ ESP® の機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを検知すると、ESP® 表示灯が点滅しますが、ESP® は作動しません。

ESP® の機能を解除する

▶ ESP® オフスイッチ ① を押します。

メーターパネルの ESP® 表示灯 （▷24 ページ）が点灯します。

⚠ **事故のおそれがあります**

走行中に ESP® 表示灯が点灯しているときは、ESP® の機能が解除されています。路面や天候の状況にあわせて慎重に運転してください。

ESP® を待機状態にする

▶ ESP® オフスイッチ ① を押します。

メーターパネルの ESP® 表示灯が消灯します。

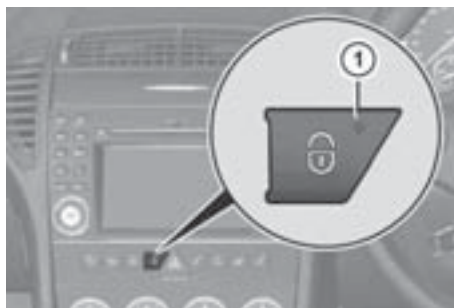
ℹ エンジンを始動したとき、ESP® は常に待機状態になります。

盗難防止システム

盗難防止警報システム *

盗難防止警報システムが待機状態のときに以下の状況を検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。また、ルームランプも約 5 分間点灯します。

- ドアが開けられたとき
- トランクが開けられたとき
- ボンネットのロックが解除されたとき
- グローブボックスやアームレストの小物入れが開けられたとき

盗難防止警報システムは、リモコン操作で施錠した後、エマージェンシーキーを使用して運転席ドアやトランクを解錠し、開いたときも作動します。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作で車を施錠します。

表示灯 ① が点滅し、約 10 秒後に待機状態になります。

システムが待機状態のときは、表示灯 ① が点滅を続けます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ システムを待機状態にするときはボンネットが確実に閉じていることを確認してください。ボンネットのロックが解除された状態でシステムを待機状態にしても、ボンネットが開けられたときに警報は作動しません。

ℹ システムが待機状態のときに車内からドアを開いたり、ボンネットロック解除レバーでボンネットのロックを解除すると警報が作動します。車内に人がいるときは待機状態にしないでください。

待機状態を解除する

▶ リモコン操作で車を解錠します。

表示灯 ① が消灯します。

警報が作動したときの停止方法

▶ エンジンスイッチにキーを差します。

または

▶ キーの解錠ボタンか施錠ボタンを押します。

ℹ ドア、トランク、グローブボックス、アームレストの小物入れなどが開けられたり、ボンネットのロックが解除されて警報が作動したときは、それらをすぐに閉じても、警報は停止しません。

けん引防止機能 *

車を施錠して、けん引防止機能を待機状態にしたときは、車両の傾きを感知すると、サイレンが鳴り、非常点滅灯が点滅します。

例えば、けん引やジャッキアップなどにより車両が持ち上げられたときなどに警報が作動します。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作で車を施錠します。

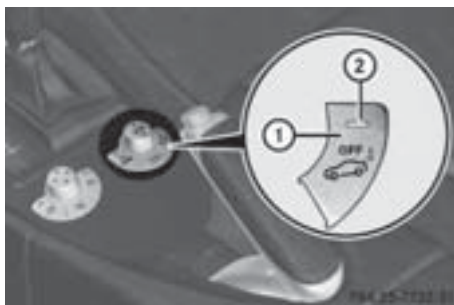
ドアロックスイッチの表示灯（▷58ページ）が点滅し、約 30 秒後に待機状態になります。

待機状態を解除する

▶ リモコン操作で車を解錠します。

けん引防止機能を解除する

誤作動を防止するために、以下のような状況で車を施錠する場合は、けん引防止機能を解除してください。

- けん引されるとき
- カーフェリーや車両運搬車に載せて移動するとき
- 機械式駐車場などに駐車するとき

左ハンドル車

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ けん引防止機能解除スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が数秒間点灯し、その後消灯して、けん引防止機能が解除されます。

▶ リモコン操作で車を施錠します。

室内センサー *

車を施錠して、室内センサーを待機状態にしたときは、車内で物体の動きを検知すると、サイレンが鳴り、非常点滅灯が点滅します。

例えば、ウインドウが割られたり、車内に手や物などが侵入したときなどに警報が作動します。

システムを待機状態にする

▶ システムを待機状態にする前に、室内センサーの誤作動を防止するために以下のことを確認してください。

- ドアウインドウとリアクォーターウインドウが完全に閉じていること
- グローブボックスやアームレストの小物入れが完全に閉じていること
- ルームミラーにマスコットなどをかけていないこと

▶ バリオルーフが完全に閉じていることを確認します。

▶ トランクが完全に閉じていることを確認します。

▶ リモコン操作で車を施錠します。

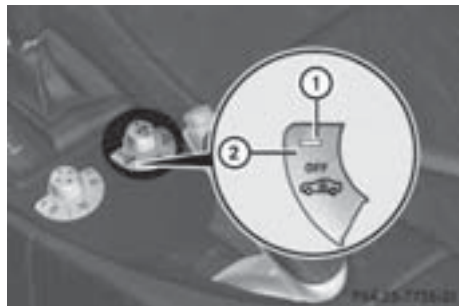
ドアロックスイッチの表示灯（▷58ページ）が点滅し、約 30 秒後に待機状態になります。

待機状態を解除する

▶ リモコン操作で車を解錠します。

室内センサーを解除する

誤作動を防止するために、以下のような状況で車を施錠する場合は、室内センサーを解除してください。

- 車内に人や動物が残るとき
- ドアウインドウを少し開いた状態で車から離れるとき

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 室内センサー解除スイッチ ② を押します。

表示灯 ① が数秒間点滅し、その後消灯して、室内センサーが解除されます。

▶ リモコン操作で車を施錠します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

オープン / クローズ

キー

リモコン機能付きのキーが 2 本付属しています。

エンジンの始動および車の解錠 / 施錠に使用します。

また、それぞれのキーにはエマージェンシーキーを収納しています。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。
- 短時間でも、車内にキーを残したまま車から離れないでください。事故や盗難のおそれがあります。
- 重い物や必要以上に大きな物、ステアリングなどの操作部に接触する物をキーホルダーとして使用しないでください。

  キーホルダー自体の重みや、キーホルダーがステアリングなどに接触することでキーがまわると、エンジンが停止して事故を起こすおそれがあります。

! キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちにメルセデス·ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! キーを強い電磁波にさらすと、リモコンに障害が発生するおそれがあります。

! キーは強い衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。

! キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。故障や誤作動の原因になります。

! エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、わずかに電力を消費しています。走行しないときは、バッテリー保護のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

ℹ 新たにキーをつくる場合は、メルセデス·ベンツ指定サービス工場におたずねください。

リモコン機能

① 施錠ボタン
② トランクオープナーボタン
③ 解錠ボタン
④ 表示灯

エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに以下の操作ができます。

- 以下の各部の解錠 / 施錠
  - ◇ドア
  - ◇トランク
  - ◇燃料給油フラップ
  - ◇グローブボックス
  - ◇アームレストの小物入れ
- トランクを開く
- ドアウインドウを開く *
- ドアウインドウとリアクォーターウインドウを閉じる *
- バリオルーフの開閉 *

操作時に表示灯 ④ が 1 回点滅します。

解錠する

▶ 解錠ボタン ③ を押します。

ドア、トランク、燃料給油フラップ、グローブボックス、アームレストの小物入れが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

施錠する

▶ 施錠ボタン ① を押します。

ドア、トランク、燃料給油フラップ、グローブボックス、アームレストの小物入れが施錠され、非常点滅灯が 3 回点滅します。

トランクを開く

▶ トランクオープナーボタン ② を押し続けます。

トランクが少し開きます。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。

! リモコン操作でドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフを閉じるとき * は、身体や物が挟まれないように注意してください。

! リモコン操作で施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したこと、ドア、トランク、燃料給油フラップが確実に施錠されていることを確認してください。

! トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。

! 車の後部左側にあるアンテナを取り外すと、リモコン機能の感度が低下します。

! 貴重品は絶対に車内やトランク内に置いたままにしないでください。盗難のおそれがあります。

i リモコン操作での解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- トランクを開く
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ 車が施錠されているときにトランクオープナーボタン ⑤ を押し続けると、トランクだけが解錠されて、少し開きます。その後トランクを閉じると、トランクは施錠されます。

ℹ トランクが独立施錠（▷61 ページ）されているときは、解錠ボタンまたはトランクオープナーボタンを押して、トランクを解錠したり開くことはできません。

ℹ バッテリーあがりを起こしたときは、キーの電池が正常でもリモコン操作はできません。

ℹ キーの電池が消耗すると操作時に表示灯が点滅せず、リモコン操作ができなくなりますが、エンジンは始動できます。

リモコン機能の設定切替

リモコン操作で解錠するときの作動内容を切り替えることができます。

リモコン機能の設定を切り替える

▶ 施錠ボタン ① と解錠ボタン ③ を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯 ④ が 2 回点滅し、設定が切り替わります。

この状態では以下のように作動します。

- 解錠ボタン ③ を 1 回押すと、以下の各部が解錠されます。

  ◇運転席ドア

  ◇燃料給油フラップ

  ◇グローブボックス

  ◇アームレストの小物入れ

- 続けて約 40 秒以内に解錠ボタン ④ を押すと、助手席ドアとトランクが解錠されます。

リモコン機能の設定を元に戻す

▶ 再度、施錠ボタン ① と解錠ボタン ③ を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯 ④ が 2 回点滅し、元の設定に戻ります。

ロケイターライティング

周囲が暗いとき、リモコン操作で車を解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。

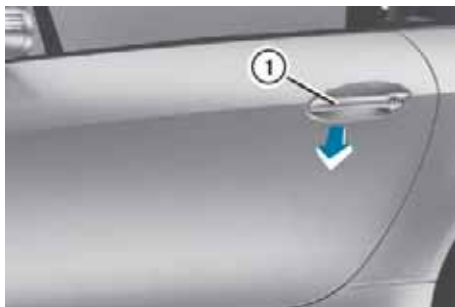
点灯したランプは運転席ドアを開いたとき、または約 40 秒後に消灯します。

この機能の設定と解除については（▷119 ページ）をご覧ください。

ドアの開閉

⚠ **事故のおそれがあります**

- ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じかたが不完全（半ドア）な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。
- ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。
- 同乗者がドアを開くときは、危険がないことを運転者が確認してください。

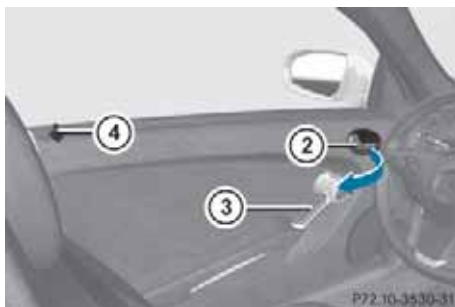
車外からの開閉

① ドアハンドル

開く

▶ ドアハンドル ① を引きます。

閉じる

▶ ドアハンドル ① を持って確実に閉じます。

車内からの開閉

② ドアレバー
③ インナーグリップ
④ ロックノブ

開く

▶ ドアレバー ② を矢印の方向に引きます。

ドアが施錠されているときは、ロックノブ ④ が上がり、解錠されます。

閉じる

▶ インナーグリップ ③ を持って確実に閉じます。

ⓘ ドアウインドウが全閉のとき、ドアを開くとドアウインドウが少し下降し、ドアを閉じると上昇します。

ⓘ 助手席のドアは、開いているときにロックノブを押し込んでから閉じると施錠されます。

ⓘ ドアが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マーク（▷209 ページ）が表示されます。

！ 車から離れるときは、エンジンを停止し、必ず施錠してください。

！ ドアを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

！ ドアウインドウが凍結していたり、バッテリーがあがっているときは、ドアを開いたときにドアウインドウは下降しません。

このときは、無理にドアを閉じないでください。ドアやドアウインドウ、シール部などを損傷するおそれがあります。

車内からの解錠 / 施錠

⚠ 事故のおそれがあります

- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。
- ロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開きます。子供を乗せているときは特に注意してください。

! 施錠後は、ロックノブが完全に下がっていることを確認してください。

ドアごとの解錠 / 施錠

① ロックノブ
② ドアレバー

解錠する

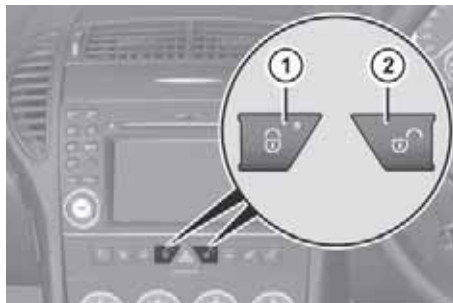
▶ ドアレバー ② を矢印の方向に引きます。

このときドアも開きます。

施錠する

▶ ロックノブ ① を押し込みます。

! 運転席ドアは、完全に閉じていないときはロックノブを押し込むことはできません。

ドアロックスイッチでの解錠 / 施錠

① ドアロックスイッチ（施錠）
② ドアロックスイッチ（解錠）

ドアとトランクを解錠 / 施錠できます。

解錠する

▶ ドアロックスイッチ（解錠）② を押します。

ロックノブが上がります。

施錠する

▶ ドアロックスイッチ（施錠）① を押します。

ロックノブが下がります。

ℹ 以下のような場合はドアロックスイッチで解錠 / 施錠できません。

- リモコン操作で施錠しているとき
- 助手席ドアが開いているとき

ℹ 運転席ドアが開いているときは、助手席ドアとトランクの解錠 / 施錠ができます。

ドアロックスイッチでは、燃料給油フラップ、グローブボックス、アームレストの小物入れの解錠 / 施錠はできません。

トランクが独立施錠されているときは、ドアロックスイッチで解錠しても、トランクは解錠されません。

ドアロックスイッチで施錠されているときに、車内のドアレバーを引いてドアを開くと、他のドアとトランクも解錠されます。

車速感応ドアロック

走行速度が約 15km/h 以上になると、ドアとトランクを自動的に施錠します。

この機能の設定と解除については（▷122 ページ）をご覧ください。

! 車速感応ドアロックを設定した状態で、車を押すときやタイヤ交換などで車を持ち上げるとき、ダイナモメーターでのテストを行なうときなどは、エンジンスイッチを **0** の位置にしてください。車輪が回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

車速感応ドアロックで施錠されているときも、車内のドアレバーを引いてドアを解錠して開くことができます。

車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、ドアを開くかエンジンを再始動するまで、車速感応ドアロックは作動しません。

トランク

⚠ 中毒のおそれがあります

エンジンをかけた状態でトランクを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

! トランク内には乗車しないでください。事故などのとき、けがをするおそれがあります。

! 子供などがトランク内に閉じ込められないように注意してください。

! トランクを開くときは、トランクの周りに障害物がなく、身体や物に当たるおそれがないことを確認してください。

! トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。

! 強風のときにトランクを開くと、風にあおられ、トランクが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、トランクに雪が積もっているときも同様に注意してください。

! トランクを閉じたときは、トランクが確実に閉じていることを確認してください。

! 貴重品は絶対に車内やトランク内に置いたままにしないでください。

! 車が施錠されているときにリモコン操作やエマージェンシーキーでトランクを開き、再度トランクを閉じるとトランクは施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

ⓘ トランク内にはラゲッジカバーがあります（▷153 ページ）。

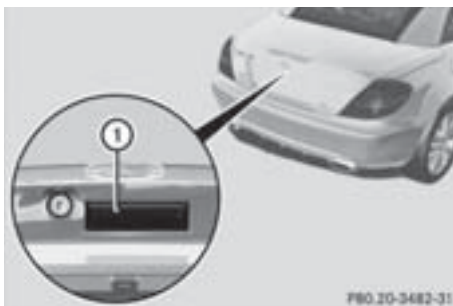
ラゲッジカバーのフックがホルダーに正しく固定されていないときはバリオルーフを開くことはできません。このときは警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾄﾗﾝｸﾙｰﾑ ﾗｹﾞｯｼﾞ ｶﾊﾞｰ ｦ ﾄｼﾞ ﾃｸﾀﾞｻｲ !" と表示されます。

ⓘ トランクが完全に閉じていないときはバリオルーフを開閉することはできません。このときは警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マーク（▷209 ページ）が表示されます。

ⓘ トランクが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マーク（▷209 ページ）が表示されます。

ⓘ トランクは、車が完全に停車していて、バリオルーフが完全に開いているか完全に閉じているときにのみ、開くことができます。

ⓘ トランクを開くと、トランク内部左側のトランクランプが点灯します。

トランクを開く

① ハンドル

▶ リモコン操作で解錠します。

▶ ハンドル ① を引きます。

トランクが少し開きます。

▶ トランクを引き上げます。

または

▶ キーのトランクオープナーボタン（▷54 ページ）を押し続けます。

トランクが少し開きます。

▶ トランクを引き上げます。

! 車の後部左側にあるアンテナを取り外すと、リモコン機能の感度が低下します。

トランクを閉じる

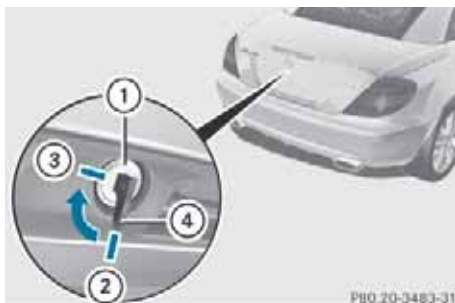
⚠ **けがのおそれがあります**

トランクを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! トランク内にキーを残したままにしないでください。トランクが施錠されるとキーが取り出せなくなります。

① 凹部

▶ トランク内側の凹部 ① に手をかけ、トランクを下げてから、押さえます。

トランクの独立施錠

① キーシリンダー
② 独立施錠解除位置
③ 独立施錠位置
④ エマージェンシーキー

車の解錠 / 施錠に関わらず、トランクを独立して施錠できます。

トランクを独立施錠しているときは、トランクハンドルやキーのトランクオープナーボタンでトランクを開くことはできません。

また、キーの解錠ボタンやドアロックスイッチ（解錠）でトランクを解錠することはできません。

トランクを独立施錠する

▶ トランクを閉じます。

▶ 図のような向きで、トランクのキーシリンダー ① にエマージェンシーキー ④（▷227 ページ）を差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを独立施錠位置 ③ にまわします。

▶ キーシリンダー ① からエマージェンシーキーを抜きます。

! エマージェンシーキーは、必ず図のような向きに差し込んでください。トランクを損傷するおそれがあります。

! トランクを開いた状態でも、上記の操作を行なってトランクを閉じると独立施錠されます。このときは、エマージェンシーキーの閉じ込みに注意してください。

i 駐車場などでキーを預ける場合に、この機能を使用してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外して携帯してください。

独立施錠を解除する

▶ エマージェンシーキー（▷227 ページ）の凸部が左側を向くようにして、トランクのキーシリンダー ① に差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを独立施錠解除位置 ② にまわします。

▶ キーシリンダー ① からエマージェンシーキーを抜きます。

エンジンスイッチ

左ハンドル車

	作動内容
⓪	0： キーを差し込む / 抜く位置
①	1： エンジンを停止したまま電気装備の一部を使用するときの位置
②	2： 走行するときの位置 すべての電気装備が使用できます。
③	3： エンジンを始動する位置 エンジンスイッチを ③ の位置までまわして手を放すと、自動的にスターターが作動し続けて、エンジンが始動します。

タッチスタート

エンジンスイッチを 3 の位置までまわすと、手を放しても自動的にスターターが作動し続けて、エンジンが始動します。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供だけを車内に残さないでください。いたずらから車の発進、火災などの事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

! 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

! 車のバッテリーあがりを防止するため、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。

ⓘ セレクターレバーが P に入っていないときはエンジンスイッチからキーを抜くことができません。

ⓘ エンジンスイッチからキーを抜かずに **0** の位置で長時間放置していると、キーがまわせなくなることがあります。このときは、キーをいったん抜き、再度差してからまわしてください。

ⓘ キーの発信部が覆われていたり、汚れていると、エンジンを始動できなくなります。

シート

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> 子供だけを車内に残して車から離れないでください。シート調整スイッチに触れるとシートが動き出し、けがをするおそれがあります。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> 運転席シートの調整は、必ず停車しているときに行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> シートを調整するときは、身体や物などが挟まれないように注意してください。
>
> シートを調整するときは、エアバッグに関する注意もお読みください（▷35ページ）。

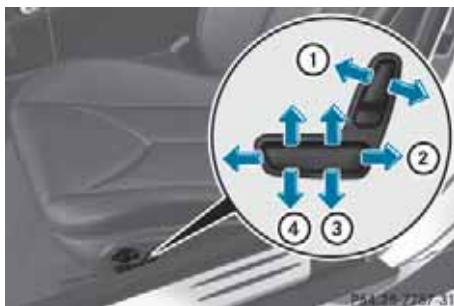
> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> 乗車するときは、必ずヘッドレストの中央が目の高さになっていることを確認してください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

! シートやシートヒーターの損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- 長時間、シートに液体が付着したままにしないでください。
- シートカバーが濡れたときなどは、シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。
- シートの上に重い物を載せないでください。また、シートクッションの上にナイフやくぎ、工具などの鋭利な物を置かないでください。

  シートは、できるだけ人を乗せるためだけに使用してください。
- シートヒーターの使用中は、カバーやコート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシートなどにより、シートを覆わないでください。

! シートを調整するときは、足元やシートの下などに物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

シートの調整

左側シートのスイッチ
① バックレストの傾き調整
② シートの前後位置調整
③ シートの高さ調整
④ シートクッションの傾き調整

シートの前後位置を調整する

▶ スイッチを矢印 ② の方向に操作します。

シートの高さを調整する

▶ スイッチを矢印 ③ の方向に操作します。

バックレストの傾きを調整する

▶ スイッチを矢印 ① の方向に操作します。

シートクッションの傾きを調整する

▶ スイッチを矢印 ④ の方向に操作します。

i バックレストを後方に傾けたときに、バックレストが車室後部に当たりそうになると、シートが前方に移動します。

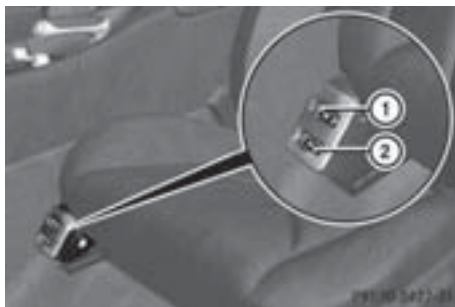
ℹ シートを後方または下方に動かしているときに、バックレストが車室後部に当たりそうになると、バックレストが起き上がります。

ヘッドレストの高さを調整する

エアスカーフ装備車

- ▶ 上げるときはヘッドレストを持って上に引き上げます。
- ▶ 下げるときはヘッドレストを持って下に押し下げます。

ℹ ヘッドレストの取り外しはできません。

電動ランバーサポート *

左側シート
① 上部サポート調整ダイヤル
② 下部サポート調整ダイヤル

バックレスト腰部の上部および下部のサポートを調整できます。

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに使用できます。

上部サポートの調整

- ▶ 上部サポート調整ダイヤル ① を左右にまわして調整します。

下部サポートの調整

- ▶ 下部サポート調整ダイヤル ② を左右にまわして調整します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

エアスカーフ *

① エアスカーフスイッチ
② 表示灯

ヘッドレストの送風口から、乗員の頭部周辺に暖気を送風します。送風の強さを 3 段階に調整できます。

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに作動します。

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> 皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。火傷をするおそれがあります。
>
> 送風口の周囲は大変熱くなりますので触らないでください。火傷をするおそれがあります。
>
> シートを調整するときは、エアバッグに関する注意もお読みください（▷35 ページ）。

❗ エアスカーフを使用するときは送風口を覆わないでください。過熱や火災、故障の原因となります。

エアスカーフを強で使用する

▶ エアスカーフスイッチ ① を押して、表示灯 ② を 3 つ点灯させます。

エアスカーフを中で使用する

▶ エアスカーフスイッチ ① を押して、表示灯 ② を 2 つ点灯させます。

エアスカーフを弱で使用する

▶ エアスカーフスイッチ ① を押して、表示灯 ② を 1 つ点灯させます。

ℹ 表示灯が点灯してから送風が開始されるまで約 7 秒かかります。

エアスカーフを停止する

▶ エアスカーフスイッチ ① を押して、表示灯 ② を消灯させます。

ℹ 表示灯が消灯してから送風が停止するまで約 7 秒かかります。

ℹ 多くの電気装備を使用していたり、バッテリーの電圧が低くなると、エアスカーフが停止することがあります。

シートヒーター

> ⚠ **火傷のおそれがあります**
>
> シートヒーターを強で連続して使用しないでください。また、コートや厚手の衣服などを着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態でシートヒーターを使用しないでください。また、シートヒーターを連続して使用しないでください。
>
> 異常過熱による低温火傷（紅斑、水ぶくれ）を起こしたり、シートヒーターが故障するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

① シートヒータースイッチ
② 表示灯

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに使用できます。

シートヒーターを使用する

▶ シートヒータースイッチ ① を押します。

シートヒータースイッチを押すごとに点灯する表示灯 ② の数が変わり、シートヒーターの作動内容が切り替わります。

シートヒーターを停止する

▶ シートヒータースイッチ ① を押して、表示灯 ② を消灯させせます。

点灯している表示灯の数	作動内容
3	シートヒーターが強で作動します。 約 5 分後に自動的に中に切り替わります。
2	シートヒーターが中で作動します。 約 10 分後に自動的に弱に切り替わります。
1	シートヒーターが弱で作動します。 約 20 分後に自動的に停止します。
0	停止しています。

! 以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので十分に注意してください。

- 乳幼児、高齢者、病人、体が不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 眠気をさそう薬を服用した方
- 飲酒した方

! シートに凸部のある重量物を置かないでください。故障の原因になります。

ⓘ 多くの電気装備を使用していたり、バッテリーの電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。

ステアリング

⚠ けがのおそれがあります

- 運転中はステアリングのパッド部を持たないでください。また、ステアリングのパッド部やエアバッグ収納部にカバーをしたり、バッジやステッカー、オーディオのリモコンなどを貼付しないでください。

  エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。ステアリング調整レバーを操作してステアリングに挟まれるおそれがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

ステアリングの調整は、必ず運転前に行なってください。運転中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

! ステアリングをいっぱいにまわした状態を長く保持しないでください。ステアリング装置を損傷するおそれがあります。

! 故障などでエンジンを停止してけん引するときは、十分注意してください。通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

ステアリング位置の調整

① ステアリング調整レバー
② 前後位置の調整
③ 上下位置の調整

前後位置の調整をする

▶ レバー ① を ② の方向に操作します。

上下位置の調整をする

▶ レバー ① を ③ の方向に操作します。

ℹ ステアリングの位置は、運転席シートの位置やドアミラーの角度と併せて記憶させることができます（▷73 ページ）。

イージーエントリー機能

イージーエントリー機能は、運転席への乗り降りを容易にする機能です。

次のいずれかの操作をすると、ステアリングが上方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- エンジンスイッチが **0** か **1** の位置のときに運転席ドアを開く

ステアリングは、次のいずれかの操作をすると、元の位置に戻ります。

- 運転席ドアが閉じている状態でエンジンスイッチにキーを差す
- エンジンスイッチが **0** の位置のときは、運転席ドアを閉じてから **1** の位置にする
- エンジンスイッチが **1** の位置のときは、運転席ドアを閉じて、**2** の位置にする

この機能の設定と解除については（▷123 ページ）をご覧ください。

⚠ けがのおそれがあります

イージーエントリー機能が作動しているときは、乗員の身体が挟まれないように注意してください。

身体が挟まれそうになったときは、以下の操作をしてください。

- ステアリング調整レバーをいずれかの方向に操作する
- 運転席のポジションスイッチまたはメモリースイッチを押す

子供だけを車内に残して車から離れないでください。イージーエントリー機能が作動して、ステアリングに身体を挟まれるおそれがあります。

ℹ ステアリングの位置によっては、ステアリングが上方に移動しないことがあります。

ℹ イージーエントリー機能を設定しているときは、事故などのときにイージーエントリー機能が作動します。これにより、車外への脱出や乗員の救出を容易にします。

ミラー

⚠ 事故のおそれがあります

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

ルームミラーやドアミラーには死角があります。車線変更をするときなどは、必ずルームミラーおよびドアミラーでも後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ルームミラーやドアミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用するときは、必ずメルセデス･ベンツ指定サービス工場に相談してください。ガラスクリーナーによっては、ルームミラーやドアミラーが変色するおそれがあります。

ルームミラー

ルームミラーの角度調整

ルームミラーを調整する

▶ 手でルームミラーの角度を調整します。

ドアミラー

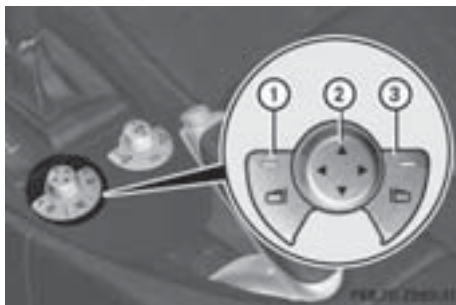
⚠ **事故のおそれがあります**

ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。車線変更をするときなどは、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、歩行者などに十分注意してください。

ℹ ドアミラーにはヒーターが装着されています。リアデフォッガー（▷146 ページ）を作動させたときや外気温度が下がったときは自動的に温められ、凍結を防ぎます。

ℹ 自動防眩ルームミラー装備車は、運転席側ドアミラーがルームミラーに連動して自動防眩になります（▷72 ページ）。

ドアミラーの角度調整

左ハンドル車
① 運転席側ドアミラー選択スイッチ
② 調整スイッチ
③ 助手席側ドアミラー選択スイッチ

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに調整できます。

ドアミラーの角度を調整する

▶ 調整したい側のドアミラー選択スイッチ ① または ③ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

▶ ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯しているときに、調整スイッチ ② を操作してドアミラーの角度を調整します。

ℹ ドアミラー選択スイッチ ①③ の表示灯は、何も操作しないと約 15 秒後に消灯します。

ℹ ドアミラーの角度は、運転席シートやステアリングの位置と併せて記憶させることができます（▷73 ページ）。

ドアミラーの格納 / 展開

左ハンドル車
① 格納 / 展開スイッチ

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに操作することができます。

ドアミラーを格納する

▶ 格納 / 展開スイッチ ① を押します。

ドアミラーを展開する

▶ 再度、格納 / 展開スイッチ ① を押します。

! ドアミラーは手で格納したり、展開しないでください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

! ドアミラーを格納 / 展開しているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! 洗車機を使用するときはドアミラーを格納してください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

! 走行時はドアミラーが完全に展開していることを確認してください。ドアミラーが振動して、後方視界が確保できなくなるおそれがあります。

ドアミラーのリセット

バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、施錠時のドアミラー格納が作動しないことがあります。このようなときは、ドアミラーをリセットしてください。

▶ エンジンスイッチを **1** の位置にします。

▶ 格納 / 展開スイッチ ①（▷70 ページ）を押します。

施錠時のドアミラー格納

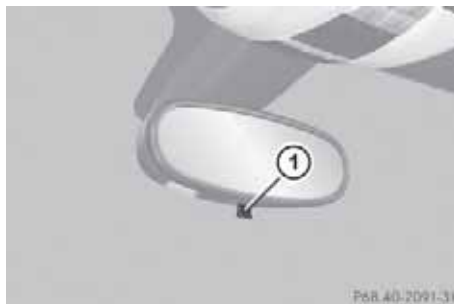
リモコン操作で施錠するときにドアミラーも併せて格納することができます。

格納されたドアミラーは、ドアを開くと展開します。

この機能の設定と解除については（▷123 ページ）をご覧ください。

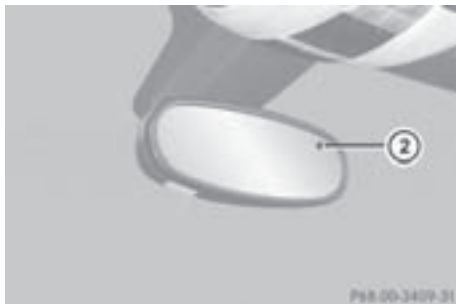
ℹ ドアミラー格納 / 展開スイッチ（▷70 ページ）でドアミラーを格納してから施錠したときは、ドアを開いても、ドアミラーは展開しません。

防眩機能

ルームミラーの防眩（自動防眩ルームミラー非装備車）

① ノブ

ルームミラーを防眩にする

▶ ノブ ① を前後に操作します。

ルームミラーの防眩（自動防眩ルームミラー装備車）

② センサー

周囲が暗く、エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに、ルームミラーのセンサー ② が後続車のライトを感知すると、自動的にルームミラーと運転席ドアミラーの色の濃度が変わり、眩しさを防止します。

⚠ **けがのおそれがあります**

ミラーのガラスが破損すると、液体が漏れ出すことがあります。この液体は物を腐食させる性質がありますので、皮膚や目に直接触れないように注意してください。

万一、液体が目に入ったときや皮膚に付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

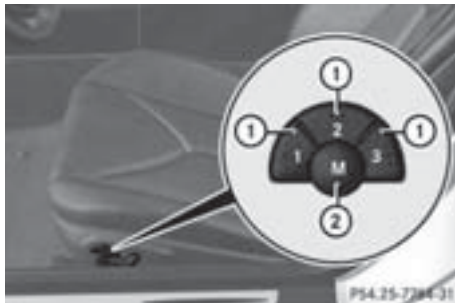
⚠ **事故のおそれがあります**

ドラフトストップを装着したときなど、ルームミラーのセンサーに後続車のライトが当たらないときは、自動防眩機能は作動しません。この場合は、手でルームミラーの角度を調整してください。眩しさにより、事故を起こすおそれがあります。

ⓘ セレクターレバーが **R** に入っているときやルームランプが点灯しているときは自動防眩機能は解除されます。

! 液体が車の塗装面に付着したときは、ただちに水で湿らせた布などで拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。

メモリー機能

シートのメモリー機能

左側シート
① ポジションスイッチ
② メモリースイッチ

シート位置をポジションスイッチに記憶させることができます。

シート位置を記憶させる

▶ 正しいシート位置に調整します。

運転席では、ステアリングの位置（▷68 ページ）、ドアミラーの角度（▷70 ページ）も正しく調整します。

ℹ ドアミラーの角度を調整するときは、エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にしてください。

▶ メモリースイッチ ② を押します。

▶ 約 3 秒以内に 1 ～ 3 のいずれかのポジションスイッチ ① を押します。

確認音が鳴り、そのポジションスイッチにシート位置が記憶されます。

他のポジションスイッチ ① にも同様の方法でシート位置などを記憶させることができます。

⚠ **けがのおそれがあります**

子供だけを車内に残して車から離れないでください。スイッチを操作することでシートなどが動きだし、身体を挟まれるおそれがあります。

記憶させたシート位置を呼び出す

▶ 呼び出したいポジションスイッチ ① の 1 ～ 3 のいずれかを押し続けます。

シートなどが動きはじめ、記憶させた位置になると停止します。

⚠ **事故のおそれがあります**

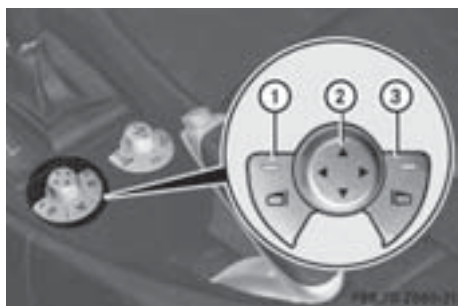
運転席シートのシート位置の呼び出しは必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

! バックレストを大きく後方に傾けた位置にしているときは、記憶位置を呼び出す前に、バックレストを起こしてください。

ℹ 安全のため、ポジションスイッチから指を放すと、シートなどの動きが停止します。

助手席側ドアミラーのパーキングヘルプ機能

助手席側ドアミラーが選択されているときにセレクターレバーを R に入れると、助手席側ドアミラーが自動的に下向きになり、車両後方下部の視界を確保して後退を容易にすることができます。

後退時のドアミラーの角度を記憶させる

左ハンドル車
② 調整スイッチ
③ 助手席側ドアミラー選択スイッチ

▶ エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチ ③ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

▶ 表示灯が点灯しているときに、調整スイッチ ② で、後退時に自分が後方を確認しやすい角度にドアミラーを調整します。

左ハンドル車
④ メモリースイッチ

▶ 運転席シートのメモリースイッチ ④ を押します。

▶ 約 3 秒以内に調整スイッチ ② をいずれかの方向に押します。

このとき助手席側ドアミラーが動かなければ、そのときの角度に記憶されます。

▶ 調整スイッチ ② で走行時の角度に助手席ミラーを調整します。

! 走行する前に、後方が十分確認できるように助手席側ドアミラーの角度を調整してください。

i 助手席側ドアミラーが動いたときは最初からやり直してください。

i 助手席側ドアミラーが後退時の角度に自動調整されているときに助手席側ドアミラーの角度を調整すると、調整した角度が新たに記憶されます。

助手席側ドアミラーを記憶させていた角度にする

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチ ③ を押します。

▶ セレクターレバーを **R** に入れます。

助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶されていた角度になります。

ⓘ 運転席側ドアミラーが選択されているときは、この機能は作動しません。

このときは、助手席側ドアミラー選択スイッチを押して、助手席側ドアミラーを選択してください。

ⓘ セレクターレバーが **R** に入っているときは、いずれかのドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯したままになります。

助手席側ドアミラーは次のいずれかのときに元の角度に戻ります。

- 走行速度が約 10km/h 以上になったとき
- セレクターレバーを **R** の位置から他の位置に入れて約 10 秒経過したとき
- 運転席側ドアミラー選択スイッチを押したとき

シートベルト

シートベルトの着用

⚠ **けがのおそれがあります**

シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、シートベルトの機能が十分に発揮されずに、致命的なけがをするおそれがあります。

- 着用前に、シートベルトやバックルに損傷や汚れがないことを確認してください。
- 乗員全員が、常にシートベルトを正しく着用していることを確認してください。
- シートベルトは身体に密着させて、ねじれのないように着用してください。
- コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。
- 肩を通るベルトは肩の中央にかけてください。絶対に首や脇の下には通さないでください。また、シートベルトを引き上げて胸に密着させてください。
- 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。
- ペンや眼鏡など、衣類のポケットに入れたとがった物やこわれやすい物にシートベルトをかけないでください。
- シートベルトクリップなどを使用してシートベルトにたるみをつけないでください。

- 1 本のシートベルトを 2 人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバッグなどを挟み込まないでください。
- シートベルトをドアに挟んだり、鋭利な部分に当てないでください。
- シートベルトにたばこの火など、熱いものを近付けないでください。
- バックル部分に異物を入れないでください。
- シートベルトを分解したり、改造しないでください。
- 子供を膝の上に座らせて走行しないでください。急な進路変更時や急ブレーキ時、事故のときなどに子供を保護することができず、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。
- 身長 150cm 未満の乗員または 12 歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。必ずチャイルドセーフティシートを助手席に装着して、子供の安全を確保してください。

  詳しくは（▷40 ページ）をご覧ください。
- チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に添付されている取扱説明書に従ってください。
- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- シートベルトを使って、重い荷物などを固定しないでください。
- 乗員が装着しているシートベルトで荷物などを固定しないでください。

⚠ けがのおそれがあります

シートベルトの効果は、バックレストができるだけ垂直に近い位置で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ発揮することができます。絶対にバックレストを大きく寝かせた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

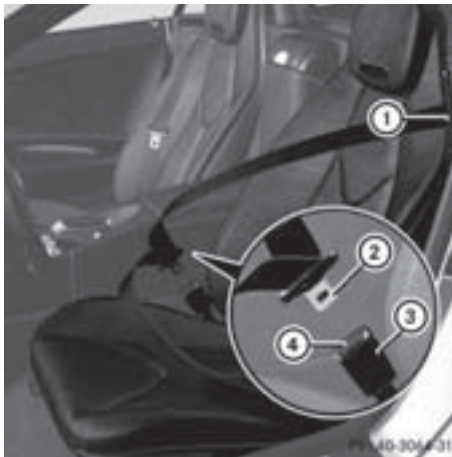
- 汚れていたり損傷しているシートベルトや、事故で衝撃を受けたシートベルト、改造を受けたシートベルトは、適切な保護性能を発揮することができません。事故などのときに致命的なけがをするおそれがあります。

  シートベルトに汚れや損傷がないことを定期的に確認してください。

  損傷しているシートベルトや事故などで衝撃を受けたシートベルトは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検し、必要であれば交換してください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。
- シートベルトの強度が低下し、乗員保護機能が損なわれるため、清掃するときは以下の点に注意してください。

  ◇ 強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない

  ◇ 乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない

  ◇ シートベルトを漂白したり、染色しない

シートベルトを着用する

▶ プレートを持って、ベルトループ ① からシートベルトをゆっくり引き出します。

シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、再びゆっくり引き出します。

▶ シートベルトにねじれがないことを確認し、プレートの先端 ② をバックル ③ に差し込みます。

▶ 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにして、ベルトにたるみがないように身体に密着させます。

▶ 肩を通るベルトが肩の中央にかかっていることを確認します。

▶ バックレストを垂直に近い位置に調整します（▷64 ページ）。

ℹ ベルトループ ① にシートベルトを通して使用すると、シートベルトが着用しやすくなります。

⚠ **けがのおそれがあります**

ベルトループ ① を通るシートベルトに、ねじれがないことを確認してください。事故のときに致命的なけがをするおそれがあります。

シートベルトを外す

▶ 手でプレートを持ち、バックル ③ の解除ボタン ④ を押して、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

シートベルト着用警告

シートベルト警告灯

エンジンスイッチを **2** の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときは警告灯の異常ですので、すみやかにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンがかかっていてドアを閉じているときに乗員がシートベルトを着用していないと、シートベルト警告灯が点灯します。

シートベルト警告音

運転席の乗員がシートベルトを着用せずにエンジンスイッチを **2** の位置にするかエンジンを始動すると、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。

走行中のシートベルト警告

走行速度が約 25km/h 以上になったときに、運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないかシートベルトをバックルから外したときは、シートベルト警告灯が点滅して、断続的な警告音も鳴ります。

そのままの状態で約 60 秒間走行するか、または停車したときは警告灯は点灯に変わり、警告音も鳴り止みます。

ただし、シートベルトを着用しないまま再び走行を始めて速度が約 25km/h 以上になると、この警告は繰り返し行なわれます。

ⓘ 助手席に重い荷物などを積んでいると、エンジンがかかっているときにシートベルト警告が行なわれることがあります。

正しい運転姿勢

⚠ 事故のおそれがあります

運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。

運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- バックレストを大きく後方に傾けた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

▶ 以下のことに注意して、シートとヘッドレストを調整します。

- 運転席エアバッグとの間隔を、できるだけ確保する
- バックレストはできるだけ垂直にする
- シートベルトが正しく着用できる
- 大腿部がシートクッションに軽く支えられている
- ペダルが楽に踏み込める
- ヘッドレストの中央が目の高さにある

▶ 以下のことに注意して、ステアリングを調整します。

- ステアリングを握ったときに、腕に適度な余裕がある
- 足を自由に動かせる
- メーターパネルのすべてのメーター類やマルチファンクションディスプレイ、警告灯や表示灯を確認できる

▶ 以下のことに注意して、シートベルトを着用します。

- シートベルトが身体に密着している
- 肩を通るベルトが肩の中央にかかっている
- 腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかっている

ランプ

ランプスイッチ

左ハンドル車
① ランプスイッチ
② 車幅灯表示灯
③ フロントフォグランプ表示灯
④ リアフォグランプ表示灯

※ 右ハンドル車は、表示灯の位置などが異なります。

ランプスイッチ ① をまわして各位置に合わせます。

位置	作動内容
0	すべてのランプが消灯
AUTO	周囲の明るさに応じて自動的に点灯 / 消灯
(車幅灯マーク)	車幅灯、テールランプ、ライセンスランプやスイッチなどの照明が点灯し、車幅灯表示灯 ② が点灯
(ヘッドランプマーク)	車幅灯などに加え、ヘッドランプが点灯

! エンジンを停止した状態で、ランプを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

ヘッドランプ

ヘッドランプは手動または自動で点灯 / 消灯することができます。

ヘッドランプを手動で点灯する

▶ ランプスイッチ ① を [≣D] の位置に合わせます。

ヘッドランプを自動で点灯する

▶ ランプスイッチ ① を [AUTO] の位置に合わせます。

周囲が暗いとき、エンジンスイッチを **1** の位置にすると、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。

エンジンを始動すると、上記に加えてヘッドランプも点灯します。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ランプの点灯 / 消灯に関する責任は運転者にあります。ランプの自動点灯機能は運転者を支援する機能です。
- 以下の状況などではランプは自動的に点灯しなかったり、点灯していたランプが消灯して事故を起こすおそれがあります。このときは、手動でランプを点灯してください。
  - ◇ 霧の中を走行するとき
  - ◇ 対向車のランプなどにより、センサーが正常に作動しないとき
- ランプスイッチを [AUTO] から [≣D] の位置にするときは、必ず停車してください。ランプが一瞬消灯して事故を起こすおそれがあります。

! ランプが自動的に点灯しているときは、エンジンスイッチを **0** の位置に戻して運転席ドアを開くと警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾗｲﾄ ｵﾌ ﾏﾀﾊ ｷｰ ｦ ﾇｲﾃｸﾀﾞｻｲ" と表示されます。このときは必ずランプスイッチを [0] の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてください。バッテリーがあがるおそれがあります。

! ランプスイッチを [⊐0⊂] か [≣D] の位置にしたまま、キーを抜いて運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾗｲﾄ ｦ ｹｼﾃ ｸﾀﾞｻｲ!" と表示されます。このときはランプを消灯してください。バッテリーがあがるおそれがあります。

ℹ フロントウインドウの上部中央には明るさを感知するセンサーがあります。センサーにステッカーなどを貼付すると、自動点灯機能が働かなくなります。

フォグランプ

フロントフォグランプを点灯する

▶ ランプスイッチ ① の位置が [⊐0⊂] または [≣D] のとき、ランプスイッチ ① を 1 段引きます。

フロントフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯 ③ が点灯します。

フロントフォグランプとリアフォグランプを点灯する

▶ ランプスイッチ ① の位置が [ランプ記号] または [ランプ記号] のとき、ランプスイッチ ① を 2 段引きます。

フロントフォグランプとリアフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯 ③ とリアフォグランプ表示灯 ④ が点灯します。

⚠ **事故のおそれがあります**

ランプスイッチが AUTO の位置のときは、フォグランプを点灯することができません。

霧の中を走行するときは、あらかじめランプスイッチを [ランプ記号] の位置にしてヘッドランプを点灯してください。

! フォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。対向車や後続車の迷惑になります。

パーキングランプ

暗がりでの駐車時、後続車などに自車の存在を知らせるため、車幅灯とテールランプだけを点灯します。

パーキングランプを点灯する

エンジンスイッチが **0** の位置のとき、またはキーを差し込んでいないときに点灯させることができます。

▶ ランプスイッチを [P右] または [左P] の位置にします。

位置	作動内容
[P右]	右側のパーキングランプが点灯
[左P]	左側のパーキングランプが点灯

車外ランプ消灯遅延機能

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやトランクを開いて閉じた後、約 15 秒後に消灯します。

この機能の設定と解除については （▷120 ページ）をご覧ください。

ℹ エンジンを停止してからドアやトランクを閉じたままにするか、開いてそのままにしてから約 60 秒後に、ランプは消灯します。

ℹ この機能は、エンジンを停止してから約 60 秒経過すると作動しなくなります。約 60 秒以内ならドアやトランクを開くたびにランプが点灯します。

車外ランプ消灯遅延機能を一時的に解除する

▶ エンジンを停止した後、エンジンスイッチを再度 **2** の位置にします。

ヘッドランプの下向き / 上向きの切り替え

左ハンドル車
① 下向き
② 上向き
③ パッシング

ヘッドランプを下向きにする

▶ コンビネーションスイッチを ① の位置にします。

ヘッドランプを上向きにする

▶ コンビネーションスイッチを ② の位置にします。

メーターパネルのハイビーム表示灯 [≣D] が点灯します。

パッシングする

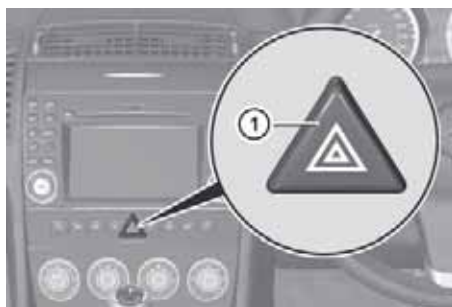
▶ エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに、コンビネーションスイッチを ③ の方向に引きます。

引いている間ヘッドランプが上向きで点灯します。

また、メーターパネルのハイビーム表示灯 [≣D] が点灯します。

コンビネーションスイッチから手を放すと ① の位置に戻ります。

! 対向車があるときや市街地を走行するときは、ヘッドランプを上向きにしないでください。

非常点滅灯

① 非常点滅灯スイッチ

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。

非常点滅灯は、エンジンスイッチが **0** の位置のときやエンジンスイッチにキーを抜いているときも点滅させることができます。

非常点滅灯を使用する

▶ 非常点滅灯スイッチ ① を押します。

すべての方向指示灯が点滅し、スイッチと、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

非常点滅灯を消灯させる

▶ 再度、非常点滅灯スイッチ ① を押します。

! 非常時以外は使用しないでください。

! エンジンを停止して長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

i 非常点滅灯を使用しているときにコンビネーションスイッチを左折または右折方向に操作すると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。

方向指示灯が消灯すると、再び非常点滅灯に切り替わります。

i エアバッグが作動すると、非常点滅灯が自動的に作動します。自動的に点滅した非常点滅灯を消灯するときは、非常点滅灯スイッチを押します。

方向指示

① 右側の方向指示灯が点滅
② 左側の方向指示灯が点滅

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに点滅させることができます。

右側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを ① の方向に操作します。

左側の方向指示灯を点滅させる

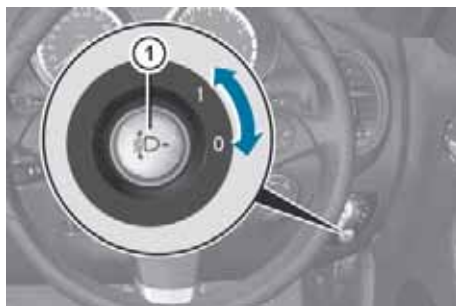
▶ コンビネーションスイッチを ② の方向に操作します。

ステアリングを直進に戻すとコンビネーションスイッチは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。

方向指示灯が点滅しているときは、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

i 方向指示灯を使用しているときに非常点滅灯スイッチを押すと、非常点滅灯に切り替わります。再度、非常点滅灯スイッチを押すと、方向指示灯に切り替わります。

i コンビネーションスイッチを軽く操作すると、方向指示灯が 3 回点滅します。

ヘッドランプ照射角度調整ダイヤル *

① ヘッドランプ照射角度調整ダイヤル

乗員数が増えたり荷物を積載してヘッドランプの照射角度が変わったときに調整します。

エンジンスイッチが **2** の位置のときに調整できます。

ヘッドランプ照射角度を調整する

▶ ヘッドランプ照射角度調整ダイヤル ① を押します。

ダイヤルがポップアップします。

▶ ヘッドランプ照射角度調整ダイヤルをまわして、**0** または **1** に合わせます。

▶ 調整が終了したら、ヘッドランプ照射角度調整ダイヤルを押し込みます。

0	1 名乗車時または 2 名乗車時
1	1 名乗車時または 2 名乗車時でトランクに荷物を積載時

! 対向車に迷惑がかからないように注意しながら調整してください。

i バイキセノンヘッドランプ装備車のヘッドランプ照射角度は、自動的に調整されます。

ヘッドランプウォッシャー *

エンジンがかかっていて、ヘッドランプが点灯しているときに、ウインドウウォッシャー（▷89 ページ）を約 5 回作動させると、ウォッシャー液が自動的にヘッドランプに向けて噴射されます。

i エンジンを停止すると、ウインドウウォッシャーを作動させた回数はリセットされます。

i 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

! ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

コーナリングランプ *

以下のときに、方向指示灯の点滅、またはステアリング操作に連動して、フロントフォグランプが点灯します。

- 周囲が暗いとき
- エンジンがかかっていて、走行速度が約 40km/h 以下のとき
- ヘッドランプが点灯しているとき

方向指示灯の点滅との連動

方向指示灯を点滅させると、点滅させた側のフロントフォグランプが点灯します。

セレクターレバーが R に入っているときは、フロントフォグランプは点灯しません。

ステアリング操作との連動

ステアリングを操作すると、操作した側のフロントフォグランプが点灯します。

セレクターレバーが R に入っているときは、ステアリングを操作した方向と逆側のフロントフォグランプが点灯します。

i 点滅させた方向指示灯の方向と、ステアリングの操作方向が異なるときは、方向指示灯と同じ側のフロントフォグランプが点灯します。

i フロントフォグランプはゆっくり消灯するため、一時的に左右両側のフロントフォグランプが点灯することがあります。

i 点灯したフロントフォグランプは、約 3 分後に自動的に消灯します。

ルームランプ

① 手動点灯スイッチ
② 点灯モード切替スイッチ
（自動点灯モード / 常時消灯モード）
③ 読書灯（左側）スイッチ
④ 読書灯（右側）スイッチ
⑤ 読書灯（左側）
⑥ 読書灯（右側）
⑦ センターコンソールランプ

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ルームランプの点灯モードの選択

自動点灯モードにする

▶ 点灯モード切替スイッチ ② が押されていない状態にします。

周囲が暗いとき、以下のようにルームランプが点灯 / 消灯します。

また、運転席 / 助手席足元にあるフットウェルランプも、連動して点灯 / 消灯します。

- ドアを開くとルームランプが点灯します。
  - ◇エンジンスイッチが 2 の位置のときは、ドアを閉じるとただちに消灯します。

    ドアを開いたままのときは消灯しません。
  - ◇エンジンスイッチが 0 か 1 の位置のとき、またはキーが抜いてあるときは、ドアを閉じると約 10 秒後に消灯します。

    ドアを開いたままのときは約 5 分後に消灯します。
- エンジンスイッチからキーを抜くと点灯し、約 10 秒後に消灯します。

  この機能の設定と解除については (▷120 ページ) をご覧ください。
- リモコン操作で解錠すると点灯し、約 30 秒後に消灯します。

! 車を施錠したときは、ルームランプが消灯することを確認してください。

i ルームミラーの下側にセンターコンソールランプ ⑦ があります。エンジンスイッチが 1 か 2 の位置のときに点灯します。

常時消灯モードにする

▶ 点灯モード切替スイッチ ② が押された状態にします。

以下のいずれかの操作をしても、ルームランプは点灯しません。

- ドアを開く
- エンジンスイッチからキーを抜く
- リモコン操作で解錠する

手動で点灯 / 消灯する

▶ 手動点灯スイッチ ① を押します。

ルームランプとフットウェルランプが点灯 / 消灯します。

読書灯

ルームミラーの下側に読書灯があります。

読書灯を点灯 / 消灯する

▶ 読書灯スイッチ ③ または ④ を押します。

読書灯 ⑤ または ⑥ が点灯 / 消灯します。

乗降用ランプ

ドアの下側にあり、乗降時に足元を照らします。

周囲が暗く、ルームランプが自動点灯モードのときにドアを開くと点灯します。

エンジンスイッチが **2** の位置のときは、ドアを開いたままにすると消灯しません。

エンジンスイッチが **2** 以外の位置のときは、ドアを開いたままにすると、約 5 分後に消灯します。

緊急時点灯機能

ルームランプの点灯モードを自動点灯モードにしているときは、事故などのときに大きな衝撃を受けると、ルームランプが自動的に点灯します。

自動的に点灯したルームランプを消灯する

▶ 非常点滅灯スイッチを押します。

または

▶ リモコン操作で施錠した後、解錠します。

ワイパー

① ティップ機能 / ウインドウウォッシャーの噴射
② ワイパー作動モードのマーク

ワイパーを作動させる

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに作動します。

▶ コンビネーションスイッチをまわしてワイパー作動モードのマーク ② を **I** ～ **III** に合わせます。

レインセンサー装備車と非装備車では作動が異なります。

レインセンサー装備車

以下のように作動します。

位置	作動内容
0	停止
I	AUTO モード
II	低速モード
III	高速モード

! フロントウインドウが濡れていないときは、コンビネーションスイッチを **0** の位置にしてください。フロントウインドウの汚れや光線の反射などでレインセンサーが誤作動し、ワイパーが作動するおそれがあります。

i AUTO モードは、レインセンサーが感知した雨滴量や走行速度などに応じて、ワイパーの作動を自動的に切り替えます。

i コンビネーションスイッチが **II**、**III** の位置のときも、停車時またはごく低速での走行時のワイパーの作動は、レインセンサーにより自動調整されます。

i AUTO モードのときは、停車時にドアを開くとワイパーは停止します。ワイパーは以下のときに作動を再開します。

- セレクターレバーが **P** または **N** に入っているときは、ドアを閉じてセレクターレバーを他の位置に入れたとき
- セレクターレバーが **D** または **R** に入っているときは、ドアを閉じたとき

i AUTO モードのときは、フロントウインドウが乾いていても、エンジンを始動するとワイパーが 1 回作動することがあります。

i フロントウインドウが乾いているときも、コンビネーションスイッチを **I** の位置にすると、ワイパーが 1 回作動します。

レインセンサー

フロントウインドウの図の位置にレインセンサーがあります。

! レインセンサーの上にステッカーなどを貼付しないでください。レインセンサーが正しく機能しなくなります。

レインセンサー非装備車

以下のように作動します。

位置	作動内容
0	停止
I	間欠モード
II	低速モード
III	高速モード

ℹ 停車時またはごく低速での走行時にワイパーの作動が自動的に以下のように切り替わります。

- 間欠モードのとき

  作動間隔が長くなります。

- 低速モードのとき

  間欠モードになります。

- 高速モードのとき

  低速モードになります。

走行速度を上げると元のモードに戻ります。

ℹ 間欠モードのときは、停車時にドアを開くとワイパーは停止します。ワイパーは以下のときに作動を再開します。

- セレクターレバーが P または N に入っているときは、ドアを閉じてセレクターレバーを他の位置に入れたとき
- セレクターレバーが D または R に入っているときは、ドアを閉じたとき

ワイパーを 1 回だけ作動させる（ティップ機能）

▶ コンビネーションスイッチを矢印 ① の方向に軽く押します。

ウォッシャー液が噴射せずにワイパーが 1 回だけ作動します。

この機能はフロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。

ウインドウウォッシャーを噴射させる

▶ エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のとき、コンビネーションスイッチを矢印 ① の方向に深く押し続けます。

その間ウインドウウォッシャー液が噴射し、ワイパーも作動します。

ℹ エンジンがかかっていて、ヘッドランプが点灯しているときに、ウインドウウォッシャーを約 5 回操作すると、ヘッドランプウォッシャー * が作動します。

! ワイパーやウインドウウォッシャーを使用するときは、歩行者に水しぶきやウォッシャー液がかからないように注意してください。

! フロントウインドウを拭くときなどは、必ずコンビネーションスイッチを **0**（停止）の位置にしてください。ワイパーが動き、けがをするおそれがあります。

! フロントウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付くおそれがあります。フロントウインドウが汚れている場合は、必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを使用してください。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! 寒冷時にはワイパーブレードがフロントウインドウに貼り付くことがあります。作動させる前に貼り付いていないことを確認してください。貼り付いたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。

! 雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを操作してください。作業の際には、安全のため、キーを抜いてください。

i ワイパーが作動しないときは、別のモードを選択すると作動することがあります。

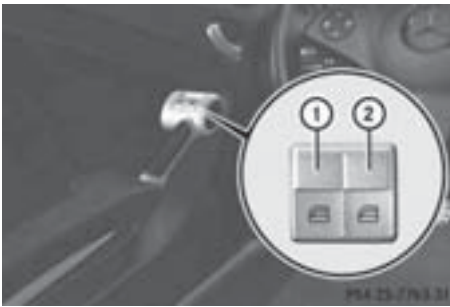
i 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

パワーウインドウ

ドアウインドウの開閉

⚠ **けがのおそれがあります**

- ドアウインドウを開くときは、ドアウインドウに触れたり、身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームとの間に身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。
- ドアウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにドアウインドウスイッチを操作してドアウインドウを開いてください。
- 子供が車内からドアやドアウインドウを開くと、事故やけがの原因になります。短時間でも、車内に子供を残したまま車から離れないでください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

  また、車内が高温または低温になると、命に関わるおそれがあります。

運転席ドアのスイッチ（左ハンドル車）
① ドアウインドウスイッチ（運転席側）
② ドアウインドウスイッチ（助手席側）

ドアウインドウスイッチは左右のドアにあります。

運転席ドアには、左右のドアウインドウのスイッチがあります。

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに、ドアウインドウを開閉することができます。

ドアウインドウを開く

▶ スイッチ ① または ② を軽く押します。

押している間だけ開きます。

スイッチ ① または ② をいっぱいまで押すと、自動で開きます。

ドアウインドウを閉じる

▶ スイッチ ① または ② を軽く引きます。

引いている間だけ閉じます。

スイッチ ① または ② をいっぱいまで引くと、自動で閉じます。

ⓘ ドアウインドウが自動で開閉しているときに、スイッチを操作すると、その位置で停止します。

ⓘ エンジンスイッチを **0** の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、ドアウインドウを開閉することができます。約 5 分以内にドアを開くと、ドアウインドウの開閉はできなくなります。

ⓘ 運転席ドアのスイッチで助手席側のドアウインドウを開閉しているときは、助手席ドアのスイッチは操作できません。

ⓘ リモコン操作でドアウインドウとリアクォーターウインドウを開閉することができます *。詳しくは（▷152 ページ）をご覧ください。

挟み込み防止機能

スイッチを引き続けてドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウはただちに停止します。スイッチから手を放すと、その位置から少し下降します。

ただし、2 度連続して挟み込み防止機能が作動してから約 2 秒以内に再度ドアウインドウを閉じたときは、挟み込み防止機能は作動しません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

自動でドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウはただちに停止して、その位置から少し下降します。

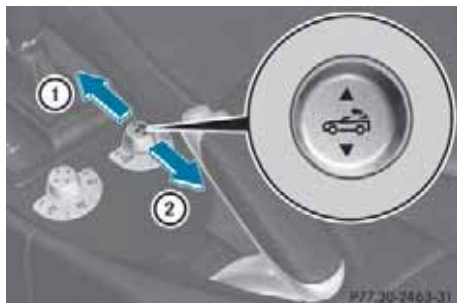
ただし、2 度連続して挟み込み防止機能が作動してから約 2 秒以内に再度ドアウインドウを閉じたときは、ドアウインドウは自動で閉じなくなり、挟み込み防止機能も作動しません。

⚠ **けがのおそれがあります**

挟み込み防止機能が作動しない状態でドアウインドウを閉じるときは十分注意してください。

バリオルーフスイッチでの開閉

バリオルーフスイッチでドアウインドウとリアクォーターウインドウを開閉することができます。

エンジンスイッチが **2** の位置のときに操作できます。

左ハンドル車

バリオルーフが閉じているときにドアウインドウとリアクォーターウインドウを開く

▶ バリオルーフスイッチを ② の方向に素早く 2 度押します。

ドアウインドウとリアクォーターウインドウが自動で開きます。

バリオルーフが開いているときにドアウインドウを開く

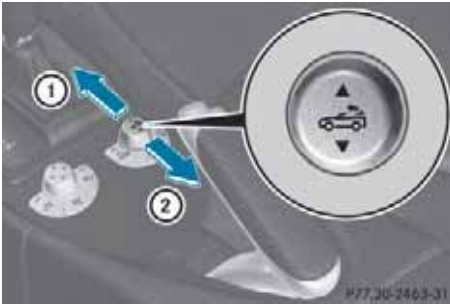
▶ バリオルーフスイッチを ② の方向に素早く 2 度押します。

ドアウインドウが自動で開きます。

! ドアウインドウやリアクォーターウインドウを開くときは、ウインドウに身体を寄りかけないでください。ウインドウとドアフレームのすき間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。

ℹ ドアウインドウやリアクォーターウインドウが自動で開閉しているときに、バリオルーフスイッチを操作すると、その位置で停止します。

ℹ バリオルーフスイッチを操作して開いたドアウインドウは、ドアウインドウスイッチで閉じることができます。

ℹ バリオルーフスイッチを操作して開いたリアクォーターウインドウは、ドアウインドウスイッチで閉じることができません。バリオルーフスイッチを操作して閉じてください。

左ハンドル車

バリオルーフが閉じているときにドアウインドウとリアクォーターウインドウを閉じる

▶ バリオルーフスイッチを ① の方向に素早く 2 度押して保持します。

押している間だけドアウインドウが閉じます。ドアウインドウが閉じた後、リアクォーターウインドウが押している間だけ閉じます。

または

▶ バリオルーフスイッチを ① の方向に 1 度押して保持します。

リアクォーターウインドウが押している間だけ閉じます。

バリオルーフが開いているときにドアウインドウを閉じる

▶ バリオルーフスイッチを ① の方向に素早く 2 度押して保持します。

押している間だけドアウインドウが閉じます。

ℹ バリオルーフが開いているときは、リアクォーターウインドウを閉じることはできません。

❗ ドアウインドウやリアクォーターウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。特に子供には注意してください。

ドアウインドウが自動で開閉しないとき

以下のときは、ドアウインドウをリセットしてください。

- バッテリーあがりやバッテリーの交換などで、一時的に電源が断たれたとき
- ドアウインドウが自動で開閉できなくなったとき
- ドアウインドウの全閉操作を行なっても、ドアウインドウが少し開いた状態になるとき

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ ドアウインドウスイッチを軽く引いて全閉にし、そのまま 2 秒以上保持します。

この操作を行なってもドアウインドウが少し開いた状態になるとき

▶ ただちにドアウインドウスイッチを引いて全閉にし、そのまま 2 秒以上保持します。

詳しくはメルセデス·ベンツ指定サービス工場におたずねください。

走行と停車

エンジンの始動

⚠ 事故のおそれがあります

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

運転席のフロアマットは重ねて使用しないでください。ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

⚠ 中毒のおそれがあります

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

! エンジンは、セレクターレバーが N に入っているときも始動できますが、安全のため、必ずセレクターレバーを P に入れて、ブレーキペダルを踏んで始動してください。

! エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。

セレクターレバー

左ハンドル車
① セレクターレバー

②	P	駐車およびエンジン始動 / 停止の位置
③	R	後退するときの位置
④	N	動力が伝わらない位置 押したり、けん引してもらうことで、車を移動できます。
⑤	D	走行するときの位置 1 速～ 5 速（7G-TRONIC 装備車は 1 速～ 7 速）の範囲で自動的に変速します。

エンジンの始動

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ セレクターレバーが P に入っていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに **3** の位置までまわして手を放します。

タッチスタート機能：エンジンスイッチを 3 の位置（▷62 ページ）までまわすと、手を放しても自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

発進

エンジンが暖まっていないときは、エンジン保護のため、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

車速感応ドアロックが設定されているときは、走行速度が約 15km/h 以上になると自動的に車が施錠されます。

車速感応ドアロックの設定 / 解除については（▷122 ページ）をご覧ください。

▶ ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、セレクターレバーを D に入れます。

事故のおそれがあります

アクセルペダルを踏んだ状態でセレクターレバーを操作しないでください。車が急発進したり、オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

ギアが完全に切り替わるのを待ってください。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正温度に達します。

駐車

事故のおそれがあります

- 停車する前にエンジンを停止しないでください。ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- 駐車時や車を離れるときは、セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせ、エンジンを停止してください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

火災のおそれがあります

マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。

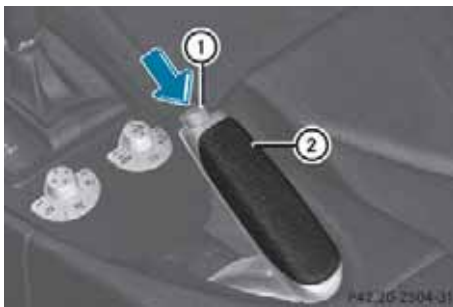
! 短時間でも車から離れるときは、ドアウインドウやバリオルーフを閉じて、車を施錠してください。

⚠ 事故のおそれがあります

- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。パーキングブレーキを解除して車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。
- 急な坂道で駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして、前輪を歩道方向に向けてください。

⚠ 火災のおそれがあります

パーキングブレーキを効かせたまま走行しないでください。パーキングブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

パーキングブレーキ

パーキングブレーキを解除する

▶ パーキングブレーキレバー ② を少し引き上げ、解除ノブ ① をいっぱいまで押し込んでからパーキングブレーキレバーを下げます。

メーターパネルのブレーキ警告灯が消灯します。

パーキングブレーキを効かせる

▶ パーキングブレーキレバー ② をいっぱいまで引き上げます。

メーターパネルのブレーキ警告灯が点灯します。

! パーキングブレーキは完全に停車してから効かせてください。

i パーキングブレーキを解除しないで走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

エンジンの停止

⚠ **事故のおそれがあります**

走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

! 水温が高めのときは、少しの間アイドリング状態でエンジンを冷却してから、エンジンを停止してください。

▶ 完全に停車します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れます。

▶ エンジンスイッチを **0** の位置にします。

エンジンが停止します。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

オートマチックトランスミッション

⚠ **事故のおそれがあります**

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

運転席のフロアマットは重ねて使用しないでください。ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

⚠ **事故のおそれがあります**

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失って車両がスリップし、事故を起こすおそれがあります。

セレクターレバー

左ハンドル車
① セレクターレバー

▶ セレクターレバー ① を動かして、シフト位置を選択します。

! シフト位置を選択するときは、完全に停車して、ブレーキペダルを踏んで行なってください。

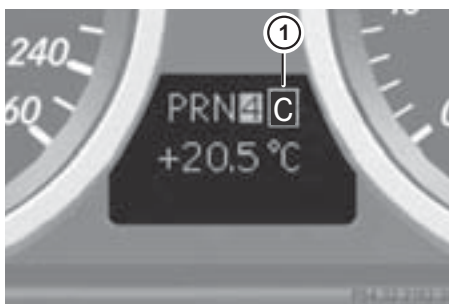
i エンジンスイッチが **2** の位置で、ブレーキペダルを踏んでいないと、セレクターレバーを **P** から動かすことはできません。

	シフト位置	
②	**P** パーキング	駐車およびエンジン始動 / 停止の位置
③	**R** リバース	後退するときの位置
④	**N** ニュートラル	動力が伝わらない位置 押したり、けん引してもらうことで車を移動できます。
⑤	**D** ドライブ	走行するときの位置 1 速 ～ 5 速（7G-TRONIC 装備車は 1 速～ 7 速）の範囲で自動的に変速します。

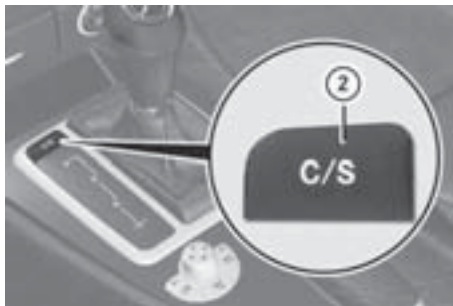
シフト位置表示

① シフト位置表示
（ドライブに入っている状態）

エンジンスイッチを **2** の位置にすると、選択されたシフト位置がシフト位置表示 ① に反転表示されます。

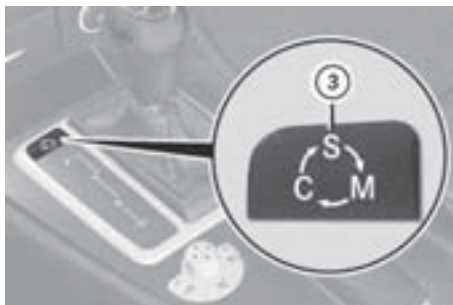
走行モード

① 走行モード表示

路面状況や運転に合わせて、オートマチックトランスミッションの走行モードを選択できます。

選択した走行モードは、マルチファンクションディスプレイの走行モード表示 ① に表示されます。

マニュアルギアシフト非装備車
② 走行モード選択スイッチ

走行モードを選択する（マニュアルギアシフト非装備車）

▶ 走行モード選択スイッチ ② を押します。

C モード→ S モード→ C モードと切り替わります。

マニュアルギアシフト装備車
③ 走行モード選択スイッチ

走行モードを選択する（マニュアルギアシフト装備車）

▶ 走行モード選択スイッチ ③ を押します。

C モード→ S モード→ M モード→ C モードと切り替わります。

走行モード	
C モード	快適性と経済性を重視したモードです。
S モード	スポーティな走行に適したモードです。
M モード *	マニュアルでギアシフトできるモードです。 詳しくは（▷102 ページ）をご覧ください。

走行モードが C モードのときは、以下のようになります。

- オートマチックトランスミッションが早めにシフトアップするため、燃料消費が向上します。
- 前進・後退ともに、アクセルペダルをいっぱいまで踏み込まないときは、穏やかに発進します。
- 滑りやすい路面などでの車両操縦性や走行安定性が向上します。
- オートマチックトランスミッションが早めにシフトアップするため、エンジン回転数が抑えられ、車輪が空転しにくくなります。

走行モードが S モードのときは、以下のようになります。

- 1 速で発進します。
- オートマチックトランスミッションが遅めにシフトアップします。
- オートマチックトランスミッションが遅めにシフトアップするため、消費燃料が多くなります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ エンジンを停止すると、選択した走行モードに関わらず、次にエンジンを始動したときは C モードになります。

ティップシフト

オートマチックトランスミッションのギアの変速範囲（ギアレンジ）を変えることにより、不必要に変速しないようにすることができます。

走行モードが C モードか S モードのときにティップシフトにすることができます。

⚠ 事故のおそれがあります

滑りやすい路面状況やカーブを走行しているときは、低いギアレンジを選択してエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。低いギアレンジを選択するときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

① ギアレンジ表示

選択したギアレンジは、マルチファンクションディスプレイのギアレンジ表示 ① に表示されます。

レンジ	
D	1 速 ～ 5 速（7G-TRONIC 装備車は 1 速～ 7 速）の範囲で自動的に変速します。
6 *	1 速～ 6 速の範囲で自動的に変速します。
5 *	1 速～ 5 速の範囲で自動的に変速します。
4	1 速～ 4 速の範囲で自動的に変速します。
3	1 速～ 3 速の範囲で自動的に変速します。 緩やかな坂道などを走行するときに使用します。
2	1 速～ 2 速の範囲で自動的に変速します。 急な坂道やエンジンブレーキが必要なときに使用します。
1	1 速に固定されます。 エンジンブレーキが最大に作用します。

ⓘ ギアレンジ表示の数字は選択したギアレンジを示しており、必ずしも実際のギアを示すものではありません。

ⓘ 加速時にエンジン回転数が許容回転数を超えるようなときは、自動的にシフトアップされ、高いギアレンジが選択されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ エンジンが暖まっていないときは、ギアシフト操作を行なっても、選択したギアレンジに変わらないことがあります。

ℹ ティップシフトにしたときに選択されるギアレンジは、そのときの走行速度やエンジン回転数などにより異なります。

セレクターレバーによる操作

② 低いギアレンジを選択
③ 高いギアレンジを選択

ティップシフトにする

▶ セレクターレバーが D に入っているときにセレクターレバーを ② 側に操作します。

ティップシフトになり、ギアレンジ表示 ① にギアレンジが表示されます。

低いギアレンジを選択する

▶ セレクターレバーを ② 側に操作します。

高いギアレンジを選択する

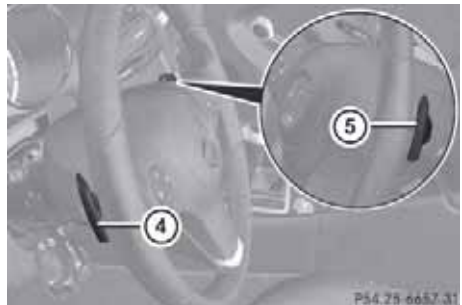
▶ セレクターレバーを ③ 側に操作します。

ティップシフトを解除する

▶ セレクターレバーを ③ 側に操作して保持します。

ギアレンジ表示 ① に "D" が表示されます。

ℹ ティップシフトにしていないときにセレクターレバーを ③ 側に操作すると、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。

パドルによる操作 *

④ 左側パドル
（低いギアレンジを選択）
⑤ 右側パドル
（高いギアレンジを選択）

ティップシフトにする

▶ セレクターレバーが D に入っているときに左側のパドル ④ を引きます。

ティップシフトになり、ギアレンジ表示 ① にギアレンジが表示されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

低いギアレンジを選択する

▶ 左側のパドル ④ を引きます。

高いギアレンジを選択する

▶ 右側のパドル ⑤ を引きます。

ティップシフトを解除する

▶ 右側のパドル ⑤ を引いて保持します。

ギアレンジ表示 ① に "D" が表示されます。

ⓘ ティップシフトにしていないときに右側のパドル ⑤ を引くと、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。

マニュアルギアシフト *

セレクターレバーまたはパドルを操作して、マニュアルでギアを選択することができます。

⚠ 事故のおそれがあります

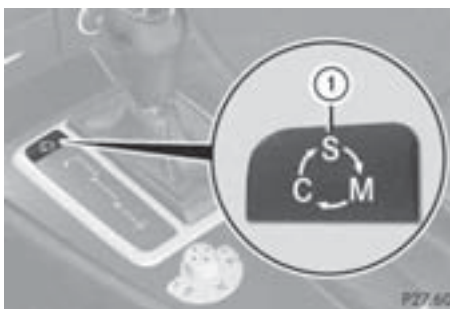
滑りやすい路面状況やカーブを走行しているときは、シフトダウンによってエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。シフトダウンするときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

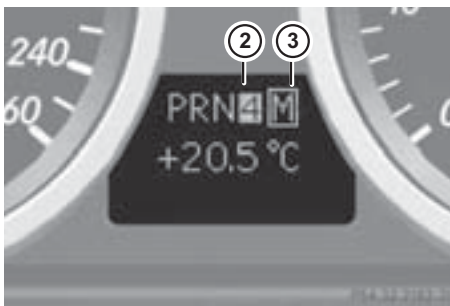
ⓘ マニュアルギアシフトでは、ESP® の機能を解除しないで走行することをお勧めします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ エンジンが暖まっていないときは、シフト操作を行なっても、選択したギアに変速しないことがあります。

マニュアルギアシフトの選択

① 走行モード選択スイッチ

マニュアルギアシフトを選択する

▶ 走行モード選択スイッチ ① を押して、マルチファンクションディスプレイの走行モード表示 ③ に "M" を表示させます。

② ギア表示
③ 走行モード表示

セレクターレバーが D に入っているときは、ギア表示 ② には選択されているギアが表示されます。

ℹ エンジンを停止すると、選択した走行モードに関わらず、次にエンジンを始動したときは C モードになります。

ℹ マニュアルギアシフトではギア表示 ② に表示される数字は実際のギアを示しています。運転者のシフトアップ / ダウン操作や、自動的なシフトアップ / ダウンに応じてギア表示 ② に表示される数字も変わります。

マニュアルギアシフトを解除する

▶ 走行モード選択スイッチ ① を押して、S モードか C モードを選択します。

セレクターレバーによるシフト操作

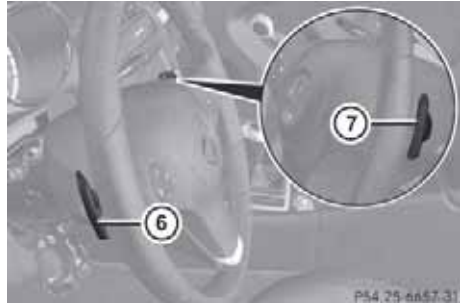
④ シフトダウン
⑤ シフトアップ

シフトダウンする

▶ セレクターレバーを ④ の方向に操作します。

シフトアップする

▶ セレクターレバーを ⑤ の方向に操作します。

パドルによるシフト操作

⑥ 左側パドル（シフトダウン）
⑦ 右側パドル（シフトアップ）

シフトダウンする

▶ 左側のパドル ⑥ を引きます。

シフトアップする

▶ 右側のパドル ⑦ を引きます。

ℹ エンジン回転数が許容回転数を超えるようなときは、シフトアップ操作をしなくても自動的にシフトアップされます。このとき、ギア表示の数字も変わります。

ℹ シフトダウン操作をしなくても、速度とエンジン回転数に応じて、自動的にシフトダウンすることがあります。

ℹ シフトアップ / ダウン操作をしても、選択したギアが適切でない場合は、エンジン保護などのため、シフトアップ / ダウンされません。

ℹ 停車すると、ギアは 1 速にシフトされます。

ℹ 車種や仕様により、停車時に選択できるギアは異なります。

ⓘ マニュアルギアシフトを選択しているときでも、キックダウンを行なうことができます。

ⓘ セレクターレバーを左側に操作して保持するか、左側のパドルを引いて保持すると、そのときの加速に最も適したギアが選択されます。

運転のヒント

アクセルペダルの位置

アクセルペダルの踏み加減に応じて、ギアが変速するタイミングが変化します。

- 軽く踏んだときはシフトアップするタイミングが早くなります。
- 深く踏み込んだときはシフトアップするタイミングが遅くなります。

キックダウン

急な加速が必要な場合はキックダウンを行ないます。

▶ アクセルペダルをいっぱいまで踏み込みます。

エンジン回転数に応じて自動的に低いギアに変速し、素早く加速します。

▶ 希望する速度でアクセルペダルをゆるめると、シフトアップします。

! キックダウンするときは、周囲の状況に注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

ダブルクラッチ機能（SLK 350）

ダブルクラッチ機能は、選択している走行モードに関わらず、シフトダウン操作時に作動します。

ダブルクラッチ機能が作動することにより、ギアシフト操作がスムーズに行なわれ、スポーティな運転スタイルに役立ちます。

ダブルクラッチ機能作動時のエンジン音は、走行モードにより異なります。

停車時

▶ 一時的に停車するときは、セレクターレバーを D に入れたままブレーキペダルを踏みます。

▶ やむを得ず停車が長くなるときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れます。

⚠ **事故のおそれがあります**

停車中は空ぶかしをしないでください。万一、シフトポジションが D か R になると、車が急発進して重大な事故を起こすおそれがあります。

! 急な上り坂などではアクセルペダルの踏み加減によって停車状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。

! 停車中はブレーキペダルを確実に踏み、クリープ現象で車が動かないようにしてください。

メーターパネル

メーターパネルの各部の名称については（▷23 ページ）をご覧ください。

⚠ **事故のおそれがあります**

メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障すると、車両の状態や走行速度、外気温度、故障 / 警告メッセージなどが表示できなくなることがあります。十分注意して走行してください。また、ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! エンジンの許容回転数を超えるようなエンジン回転数で走行しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

マルチファンクションディスプレイの表示

上部には各種設定画面や故障 / 警告メッセージなどが表示され、下部にはシフト位置や外気温度などが表示されます。

マルチファンクションディスプレイは以下のときに表示されます。

- 運転席ドアを開いたときや閉じたとき

  約 30 秒後に消灯します。

- リセットボタン、またはメーターパネル照度調整ボタンを押したとき

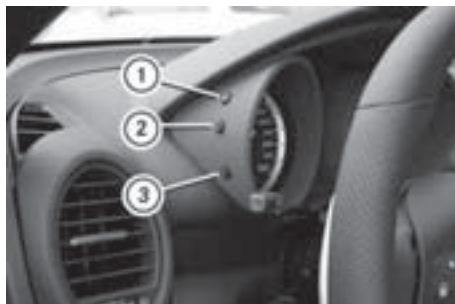
  約 30 秒後に消灯します。

- エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にしたとき

  エンジンスイッチを **0** の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 30 秒後に消灯します。

- 車外ランプが点灯したとき

  車外ランプが消灯してから約 30 秒後に消灯します。

メーターパネル照度調整ボタン / リセットボタン

① メーターパネル照度調整ボタン（明）
② メーターパネル照度調整ボタン（暗）
③ リセットボタン

メーターパネル照度調整ボタン

周囲が暗いときにメーターパネルとマルチファンクションディスプレイの明るさを調節できます。

明るくする

▶ ⊕ ボタン ① を押します。

暗くする

▶ ⊖ ボタン ② を押します。

リセットボタン

トリップメーターや各種設定などをリセットするときはリセットボタン③を押します。

燃料計

燃料の残量を表示します。

燃料タンクの容量は約 54 リットルです。

! 給油のときはエンジンを停止してください。

燃料残量警告灯

燃料の残量が少なくなると点灯します。

警告灯が点灯したときの残量は約 6 リットルです。

i 走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

時計

時刻の設定については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

スピードメーター

車の走行速度を km/h で表示します。

タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

環　境

必要以上にエンジン回転数を上げて走行しないでください。燃料を不必要に消費し、大気汚染の原因になります。

! 指針がエンジンの許容回転数を超えて、レッドゾーンに入らないようにしてください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジン回転数が許容回転数を超えると、エンジン保護のため、燃料供給が行なわれなくなります。

外気温度表示

⚠ 事故のおそれがあります

外気温度表示が 0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

外気温度を表示します。

外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

温度をフロントバンパー付近で測定しているため、温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

マルチファンクションディスプレイ

マルチファンクションステアリング

マルチファンクションディスプレイは、故障 / 警告メッセージや各種情報などを表示･設定するシステムです。

マルチファンクションディスプレイの操作は、ステアリングのスイッチで行ないます。

⚠ 事故のおそれがあります

マルチファンクションディスプレイを操作するときは、常に周囲の状況に注意してください。

⚠ 事故のおそれがあります

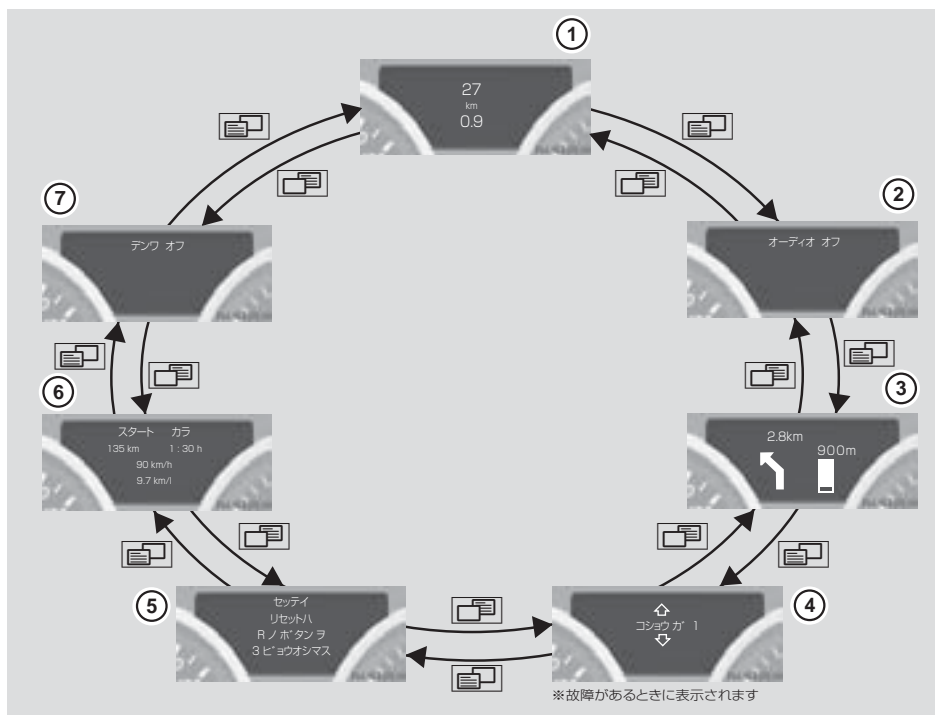
走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。

	名称
①	マルチファンクションディスプレイ
②	[+][−] **設定スイッチ / 音量スイッチ** • 各種設定の設定グループ選択画面でのグループの選択 • 設定項目画面での数値や設定の変更、機能のオン / オフの選択 • 各メイン画面やオーディオ画面表示中の音量の調節 [通話開始][通話終了] **通話開始スイッチ / 通話終了スイッチ** 電話の発信 / 受信 / 保留 / 切断
③	[表示切り替え] **表示切り替えスイッチ** メイン画面の選択 [△][▽] **スクロールスイッチ** • 選択したメイン画面内での画面の切り替え • オーディオ画面でのトラックの選曲、ラジオ局 / テレビ局の選局、DVD ビデオのチャプターの選択 • 電話画面での電話帳や発信履歴のスクロール

※電話の操作については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

車両の操作

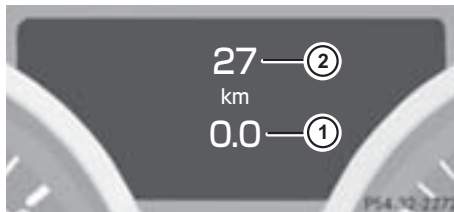
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メイン画面一覧

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両情報

「車両情報」には以下の画面があります。

- 車両情報メイン画面（トリップメーター、オドメーター）
- 車両情報サブ画面（シフト位置表示 / ギアレンジ表示 / ギア表示 */ 走行モード表示 / 外気温度表示 / 走行速度表示 / クルーズコントロール表示 / 可変スピードリミッター表示）
- タイヤ空気圧警告システム画面（▷180 ページ）
- 冷却水温度画面
- 走行速度 / 外気温度表示画面
- メンテナンスインジケーター画面（▷191 ページ）

車両情報メイン画面（トリップメーター / オドメーター）

① トリップメーター
② オドメーター

車両情報メイン画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報メイン画面を表示させせます。

トリップメーター

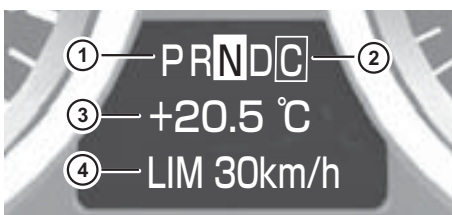
リセット後の走行距離を表示します。

トリップメーターをリセットする（0.0に戻す）

▶ リセットボタン（▷105 ページ）を、表示が 0.0 になるまで押し続けます。

オドメーター

これまでに走行した距離の総合計を表示します。

車両情報サブ画面

① シフト位置表示 / ギアレンジ表示 / ギア表示 *
② 走行モード表示
③ 外気温度 / 走行速度表示
④ クルーズコントロール表示 / 可変スピードリミッター表示

シフト位置表示 / ギアレンジ表示 / ギア表示 *

オートマチックトランスミッションのシフト位置を表示します（▷98 ページ）。

ティップシフトのときは選択しているギアレンジを表示します（▷100 ページ）。

マニュアルギアシフト * のときは選択しているギアを表示します（▷102 ページ）。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

走行モード表示

オートマチックトランスミッションの走行モードを表示します（▷98 ページ）。

外気温度 / 走行速度表示

外気温度または走行速度を表示します。

表示の切り替えは各種設定の " メータークラスタ " の " 車両情報サブ画面の表示設定画面 "（▷118 ページ）で行ないます。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> 外気温度表示が 0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

! 外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

ⓘ 外気温度をフロントバンパー付近で測定しているため、外気温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、外気温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

クルーズコントロール表示 / 可変スピードリミッター表示

クルーズコントロールまたは可変スピードリミッターを設定したときに、インジケーターと設定速度が表示されます。

詳しくは（▷130、134 ページ）をご覧ください。

冷却水温度画面

エンジンの冷却水温度を表示します。

冷却水温度画面を表示させる

▶ [⊟] または [⊟] を押して、車両情報メイン画面を表示させせます（▷109 ページ）。

▶ [△] または [▽] を押して、冷却水温度画面を表示させせます。

ⓘ 指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約 120℃まではオーバーヒートは起こしません。

ⓘ 暑い日や上り坂が続くときなどに、120℃付近を示すことがありますが、マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ（▷210、211 ページ）が表示されない限り、問題ありません。

走行速度 / 外気温度表示画面

① 走行速度表示

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

② 外気温度表示

走行速度または外気温度を表示します。

表示の切り替えは各種設定の " メータークラスタ " の " 車両情報サブ画面の表示設定画面 "（▷118 ページ）で行ないます。

走行速度 / 外気温度表示画面を表示させる

▶ [⧉] または [⧉] を押して、車両情報メイン画面を表示させます（▷109 ページ）。

▶ [⇧] または [⇩] を押して、走行速度 / 外気温度表示画面を表示させます。

ℹ 走行速度の表示単位を km/h 表示または mph 表示に切り替えることができます（▷117 ページ）。

ℹ " 車両情報サブ画面の表示設定画面 " で " ｶﾞｲｷｵﾝﾄﾞ " を選択すると走行速度表示になり、" ｿｸﾄﾞ " を選択すると外気温度表示になります。

オーディオ

ラジオ局を選択する

① "FM1" または "FM2"
"AM1" または "AM2"
② プリセット番号 / 受信周波数

COMAND システムで、FM ラジオまたは AM ラジオを受信しているときに表示・選局できます。

▶ [⧉] または [⧉] を押して、オーディオのメイン画面を表示させます。

ラジオ局をプリセット選局する

▶ [⇧] または [⇩] を押します。

次または前のプリセット番号の放送局に移動します。

ラジオ局を自動選局する

▶ [⇧] または [⇩] を押して保持します。

受信周波数が移動して、次に受信できる周波数で停止します。

ℹ ラジオの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

音楽を選曲する

① 音楽ソース表示（"DISC" / "M.CARD" / "HDD" / "MEDIA" / "AUX"）
② トラック番号

COMAND システムで再生している音楽ソース（ディスク、メモリーカード、ミュージックレジスター、メディアインターフェース、外部入力）が音楽ソース表示 ① に表示されます。

▶ [ ] または [ ] を押して、オーディオのメイン画面を表示させせます。

音楽を選曲する

ディスク、メモリーカード、ミュージックレジスター、メディアインターフェースのいずれかを再生しているときは選曲を行なうことができます。

▶ [△] または [▽] を押します。

次の曲または前の曲が選曲されます。

ℹ 音楽再生の詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

テレビ局を選局する

① "TV1" または "TV2"
② プリセット番号 / チャンネル番号

COMAND システムで、テレビを受信しているときに表示・選局できます。

▶ [ ] または [ ] を押して、オーディオのメイン画面を表示させせます。

テレビ局をプリセット選局する

▶ [△] または [▽] を押します。

次または前のプリセット番号のテレビ局に移動します。

テレビ局を自動選局する

▶ [△] または [▽] を押して保持します。

受信チャンネルが移動して、次に受信できるチャンネルで停止します。

ℹ テレビの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

DVD ビデオのチャプターを選択する

① チャプター番号

COMAND システムで、DVD ビデオを再生しているときに表示・選択できます。

▶ [ ] または [ ] を押して、オーディオのメイン画面を表示させます。

チャプターを選択する

▶ [△] または [▽] を押します。

次のチャプターまたは前のチャプターが再生されます。

ℹ DVD ビデオの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

ナビ

COMAND システムのナビ機能をマルチファンクションディスプレイに表示できます。

ナビ画面を表示させる

▶ COMAND システムの電源をオンにします。

▶ [ ] または [ ] を押して、ナビ画面を表示させます。

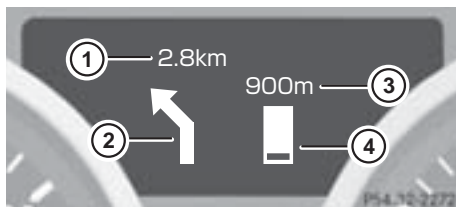
ルート案内を行なっていないとき

① 進行方向の方位表示

マルチファンクションディスプレイに進行方向の方位①が表示されます。

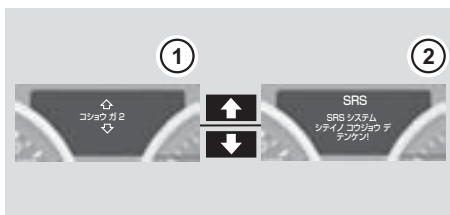
車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ルート案内を行なっているとき

① 目的地までの距離
② 交差点（分岐点）での進行方向
③ 交差点（分岐点）までの距離
④ 交差点（分岐点）までの距離を示すグラフ

マルチファンクションディスプレイに進行方向や交差点（分岐点）までの距離、交差点（分岐点）での進行方向などが表示されます。

ℹ ナビの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

故障表示

① 故障件数画面（この例では、2 件故障があります）
② 故障 / 警告メッセージ画面の例

故障や異常が起きたとき、車の状況をメッセージで表示します。

ℹ 故障や異常がないときは、故障表示画面は表示されません。

自動表示機能

エンジンがかかっているときに故障や異常が発生したときは、故障 / 警告メッセージ画面が自動的に表示されます。

複数の故障や異常があるときは、故障 / 警告メッセージ画面が約 5 秒間隔で順番に表示されます。

ステアリングの ⊟ ⊟ や △ ▽、またはリセットボタンを押すと、故障 / 警告メッセージが消えます。

故障 / 警告メッセージを手動で確認する

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに表示できます。

▶ ⊟ または ⊟ を押して、故障件数画面 ① を表示させます。

故障件数が数字で表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

▶ [△] または [▽] を押して、故障 / 警告メッセージ画面 ② を順番に表示させせます。すべて表示されると、故障件数画面 ① に戻ります。

故障表示のリセット

マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されているときは、エンジンスイッチを **0** の位置にすると、故障 / 警告メッセージの表示が消えます。

ただし、故障や異常の状況が変わらない場合は、次にエンジンスイッチを **1** か **2** の位置にするか、エンジンを始動したとき、再び故障 / 警告メッセージが表示されます。

! 表示される故障や異常は一部の限られた装備についてであり、表示される内容も限られています。故障や異常の表示は運転者を支援するものです。発生した故障に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。

! 故障 / 警告メッセージが表示されたときは、必ずメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! 表示される故障 / 警告メッセージについては（▷205 ページ～）をご覧ください。

各種設定

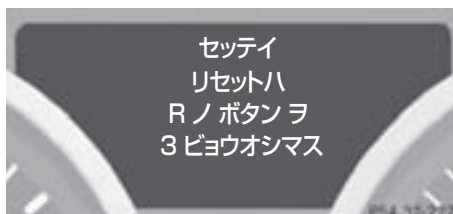
「各種設定」には以下の画面があります。

- 各種設定メイン画面
- 設定グループ選択画面
- 各種設定項目の初期化画面
- 各種設定項目の初期化完了画面

! 設定の変更は必ず停車中に行なってください。

ⓘ 安全のため、走行中は設定を変更できない項目があります。

各種設定メイン画面

各種設定メイン画面を表示させる

▶ [⊟] または [⊟] を押して、各種設定メイン画面を表示させせます。

設定グループ選択画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ 各種設定メイン画面表示中に [⌂] を押して、設定グループ選択画面を表示させせます。

設定グループを選択する

▶ [＋] または [－] を押して、設定グループを選択します。

設定項目画面を選択する

▶ 選択したグループ名を確認して、[⌂] を押すと、選択したグループ内の最初の設定項目画面が表示されます。

▶ [⌂] または [▽] を押して、設定項目画面を選択します。

設定項目画面の数値や設定を変更する機能のオン / オフを選択する

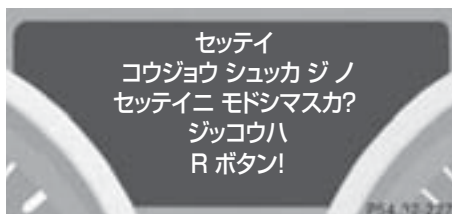
▶ [＋] または [－] を押して、数値や設定を変更したり、機能のオン / オフを選択します。

各種設定項目の初期化

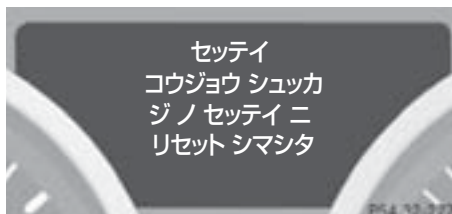
各種設定の項目を工場出荷時の設定に初期化する（戻す）ことができます。

各種設定項目を初期化する

▶ [▭] または [▭] を押して、各種設定メイン画面を表示させせます。

▶ リセットボタン（▷105 ページ）を約 3 秒間押し続けます。

初期化画面

初期化画面が表示されます。

▶ 初期化画面の表示中（約 5 秒以内）に、リセットボタンを押します。

初期化完了画面

初期化が実行され、初期化完了画面が表示されます。

ⓘ 初期化画面が表示されてから約 5 秒間リセットボタンを押さずにいると、各種設定メイン画面に切り替わります。

ⓘ 各種設定項目を初期化すると、設定グループ選択画面が表示されます。

ⓘ ヘッドランプ点灯モードが常時点灯モードのときは、走行中にヘッドランプ点灯モードを手動点灯モードに初期化できません。

ⓘ ウィンタータイヤスピードリミッターの設定内容は初期化できません。

メータークラスタ

「メータークラスタ」では、以下の画面での設定を行なうことができます。

- 速度・距離単位設定画面
- ディスプレイ言語設定画面
- 車両情報サブ画面の表示設定画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させます (▷115 ページ)。

▶ 各種設定メイン画面表示中に [⌂] を押して、設定グループ選択画面を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [+] または [−] を押して、" メータークラスタ " を選択します。

設定項目画面を表示させる

▶ [⌂] を押します。

メータークラスタの最初の設定項目画面が表示されます。

速度・距離単位設定画面

スピードメーターとマルチファンクションディスプレイの速度と走行距離の表示単位の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
km	表示が km/h、km になります。
マイル	表示が mph、マイル / MI になります。

! 1mph は約 1.6km/h です。スピードメーターとマルチファンクションディスプレイの表示単位がマイル表示になっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ず km 表示を選択してください。

ディスプレイ言語設定画面

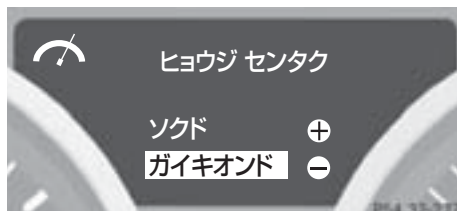
ディスプレイに表示する言語の設定ができます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

▶ [＋] または [－] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
English	英語表示になります。
ニホンゴ	日本語表示になります。

ⓘ この画面で設定した言語をCOMAND システムにも適用できます。詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

車両情報サブ画面の表示設定画面

車両情報サブ画面（▷109 ページ）に表示される項目の設定ができます。

▶ [＋] または [－] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ソクド	車両情報サブ画面の表示が走行速度になります。
ガイキオンド	車両情報サブ画面の表示が外気温度になります。

ⓘ 車両情報サブ画面の表示を切り替えると、走行速度 / 外気温度表示画面（▷110 ページ）の表示も切り替わります。

ライト

「ライト」では、以下の画面での設定を行なうことができます。

- ヘッドランプ点灯モード設定画面
- ロケイターライティング設定画面
- 車外ランプ消灯遅延機能設定画面
- ルームランプ消灯遅延機能設定画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [⊟] または [⊟] を押して、各種設定メイン画面を表示させます（▷115 ページ）。

▶ 各種設定メイン画面表示中に [⌂] を押して、設定グループ選択画面を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [＋] または [－] を押して、" ライト " を選択します。

設定項目画面を表示させる

▶ [⌂] を押します。

ライトの最初の設定項目画面が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ヘッドランプ点灯モード設定画面

ヘッドランプの点灯モードの設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
マニュアル	手動点灯モードです。 ヘッドランプなどを点灯するときはランプスイッチを操作します。 日本ではこのモードに設定してください。
ツネニ オン	常時点灯モードです。 ランプスイッチを [0] か [AUTO] の位置にしているときにエンジンを始動すると、ヘッドランプなどが常に点灯します。

! 設定が常時点灯モードのときは、安全のため走行中に設定を変更することはできません。

このときは、マルチファンクションディスプレイに "ｾｯﾃｲﾊ ﾃｲｼﾁｭｳ ﾉﾐ ｶﾉｳﾃﾞｽ" と表示されます。

ⓘ 常時点灯モードは、走行中の常時点灯が義務付けられている諸国に対応しています。日本では手動点灯モードに設定して使用してください。

ⓘ 常時点灯モードで自動的に点灯するランプは、ヘッドランプ、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプです。ヘッドランプを上向きにしたり、フォグランプなどを点灯するときは、各スイッチを操作してください。

ロケイターライティング設定画面

周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると車外ランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	周囲が暗いときに、リモコン操作で解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。
オフ	ロケイターライティングは作動しません。

詳しくは（▷56 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車外ランプ消灯遅延機能設定画面

周囲が暗いときにエンジンを停止すると車外ランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやトランクを開いて閉じた後、約15 秒後に消灯します。
オフ	車外ランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは（▷81 ページ）をご覧ください。

ルームランプ消灯遅延機能設定画面

ルームランプが自動点灯モードで周囲が暗いときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	ルームランプが自動点灯モードで周囲が暗いときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが約 10 秒間点灯します。
オフ	ルームランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは（▷86 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

シャリョウ

「シャリョウ」では、以下の画面での設定を行なうことができます。

- ウィンタータイヤスピードリミッター設定画面
- 車速感応ドアロック設定画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させます (▷115 ページ)。

▶ 各種設定メイン画面表示中に [⌂] を押して、設定グループ選択画面を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [+] または [−] を押して、" シャリョウ " を選択します。

▶ [⌂] を押します。

シャリョウの最初の設定項目画面が表示されます。

ウィンタータイヤスピードリミッター設定画面

最高速度の制限のない国などで、ウィンタータイヤ装着時にタイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定するための機能です。

日本仕様でも設定はできますが、法定速度を守って走行してください。

▶ [+] または [−] を押して、設定内容を切り替えます。

表示	設定内容
オフ	ウィンタータイヤスピードリミッターは作動しません。
240km/h 230km/h 220km/h 210km/h 200km/h 190km/h 180km/h 170km/h 160km/h	最高速度がそれぞれの速度に設定されます。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

ⓘ ウィンタータイヤスピードリミッターを設定しているときは、可変スピードリミッター（▷132 ページ）で設定できる制限速度の上限は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度になります。

車速感応ドアロック設定画面

走行速度が約 15km/h 以上になったときに、ドアとトランクを自動的に施錠する機能の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	車速感応ドアロックが作動します。
オフ	車速感応ドアロックは作動しません。

詳しくは（▷59 ページ）をご覧ください。

コンフォート

「コンフォート」では、以下の画面での設定を行なうことができます。

- イージーエントリー設定画面
- 施錠時のドアミラー格納設定画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [⊟] または [⊟] を押して、各種設定メイン画面を表示させます（▷115 ページ）。

▶ 各種設定メイン画面表示中に [⌂] を押して、設定グループ選択画面を表示させせます。

設定グループを選択する

▶ [+] または [−] を押して、" コンフォート " を選択します。

▶ [⌂] を押します。

コンフォートの最初の設定項目画面が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

イージーエントリー設定画面

運転席への乗り降りを容易にするイージーエントリー機能の設定ができます。

▶ [＋] または [－] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	イージーエントリー機能が作動します。
オフ	イージーエントリー機能は作動しません。

詳しくは（▷68 ページ）をご覧ください。

⚠ けがのおそれがあります

イージーエントリー機能が作動するとステアリングが動きます。乗員の身体が挟まれないように注意してください。

子供だけを車内に残して車から離れないでください。イージーエントリー機能が作動して、ステアリングに身体を挟まれるおそれがあります。

施錠時のドアミラー格納設定画面

リモコン操作での施錠時にドアミラーを格納する機能の設定ができます。

▶ [＋] または [－] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	リモコン操作での施錠時にドアミラーが格納されます。
オフ	リモコン操作での施錠時にドアミラーは格納されません。

詳しくは（▷71 ページ）をご覧ください。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

トリップコンピューター

「トリップコンピューター」には以下の画面があります。

- エンジン始動時からの情報表示画面
- リセット時からの情報表示画面
- 走行可能距離画面

エンジン始動時からの情報表示画面

① エンジン始動時からの走行距離（km）
② エンジン始動時からの経過時間（h）
③ エンジン始動時からの平均速度（km/h）
④ エンジン始動時からの平均燃費（km/l）

エンジンを始動したときを起点とした情報を表示します。

ⓘ エンジンスイッチを **0** の位置にしてから、またはキーを抜いてから約4時間経過すると自動的にリセットされます。

約4時間以内にエンジンスイッチを **1** または **2** の位置にしたときは、前回の情報が継続して表示されます。このときは、999時間経過後、または9,999km/9,999マイル走行に自動的にリセットされます。

エンジン始動時からの情報表示画面を表示させる

▶ [◫] または [◫] を押して、エンジン始動時からの情報表示画面を表示させます。

エンジン始動時からの情報表示画面は手動でリセットすることもできます。

エンジン始動時からの情報表示画面を手動でリセットする

▶ エンジン始動時からの情報表示画面が表示されているときに、リセットボタン（▷105ページ）を押し続けて、表示をリセットします。

リセット時からの情報表示画面

① リセット時からの走行距離（km）
② リセット時からの経過時間（h）
③ リセット時からの平均速度（km/h）
④ リセット時からの平均燃費（km/l）

リセットしたときを起点とした情報を表示します。

リセット時からの情報表示画面を表示させる

▶ [◫] または [◫] を押して、エンジン始動時からの情報表示画面を表示させます。

▶ [⌂] を押して、リセット時からの情報表示画面を表示させます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

リセット時からの情報表示画面をリセットする

▶ リセット時からの情報表示画面が表示されているときに、リセットボタン（▷105 ページ）を押し続けて、表示をリセットします。

ⓘ リセット後は、9,999 時間経過後、または 99,999km/99,999 マイル走行後に自動的にリセットされます。

走行可能距離画面

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を計算し、予測値として表示します。

走行可能距離画面を表示させる

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、エンジン始動時からの情報表示画面を表示させます（▷124 ページ）。

▶ [▽] を押して、走行可能距離画面を表示させます。

! 走行可能距離は、現在までの平均燃費と燃料残量から計算した予測値です。今後の走行状況に応じて大きく変動することがありますので、燃料計を確認して、早めに給油してください。

ⓘ 燃料残量が少ないときは、走行可能距離の代わりに [給油表示] が表示されます。最寄りのガソリンスタンドですみやかに給油してください。

電話

携帯電話を COMAND システムに接続することにより、ハンズフリー通話ができます。

ⓘ COMAND システムには Bluetooth® 接続またはケーブル接続 * により携帯電話を接続できます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> 安全のため、運転者は走行中の携帯電話の接続や、携帯電話本体の使用は避けてください。
>
> 走行中は電話をかけないでください。
>
> また、走行中に電話がかかってきたときは、あわてずに安全な場所に停車してから受けてください。
>
> どうしても電話を受けなければならないときは、ハンズフリー機能で「かけ直す」ことを伝え、安全な場所に停車してからかけ直してください。

ⓘ 走行中は一部の機能が使用できなくなります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

電話画面を表示させる

▶ COMAND システムの電源をオンにします。

▶ 携帯電話を COMAND システムに接続します。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、電話画面を表示させます。

マルチファンクションディスプレイに " デンワ マチウケ " と表示されます。

着信した電話を受ける

発信元が電話帳データに登録されている場合

電話が着信すると上記のような画面が表示されます。

▶ 着信呼び出し中に [ボタン] を押します。

通話を終える（電話を切る）

▶ [ボタン] を押します。

通話を保留する

▶ 着信呼び出し中に [ボタン] を押します。

ℹ 上記の操作は電話画面を表示していないときも行なうことができます。

電話帳から電話を発信する

COMAND システムに登録されている電話帳から電話を発信できます。

ℹ COMAND システムの電話帳には、COMAND システムから直接電話帳データを入力したり、携帯電話や PC カードからデータをダウンロードできます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、電話画面を表示させます。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して電話帳を呼び出します。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、発信先を選択します。

電話帳のリストがスクロールします。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ⓘ [△] または [▽] を押し続けると、はじめの 7 件目までは 1 件づつ表示されます。

[△] または [▽] をさらに押し続けると、8 件目からは五十音順またはアルファベット順の先頭のデータが表示されます。

▶ [📞] を押します。

マルチファンクションディスプレイに、" ハッシン ..." のメッセージと発信した電話番号が表示されます。電話帳に名前が登録されているときは、名前も表示されます。また、発信した番号が履歴に登録されます。

ⓘ 電話帳データに複数の電話番号が登録されているときは、さらに [△] または [▽] を押して電話番号を選択してから、[📞] を押すと発信されます。

ⓘ ステアリングの [☎] スイッチを押し、電話を発信しないで電話帳を閉じたときは、待ち受け画面に戻ります。

発信履歴から電話を発信する

▶ [⧉] または [⧉] を押して、電話画面を表示させます。

▶ COMAND ディスプレイに " デンワマチウケ " と表示されているときに、[📞] を押します。

発信履歴が表示されます。

▶ [△] または [▽] を押して、発信先を選択します。

▶ [📞] を押します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

走行装備

走行装備には、以下のものがあります。

- クルーズコントロール

  設定速度を自動的に維持して走行できます。

- 可変スピードリミッター

  設定速度を超えないように走行できます。

- パークトロニック

  車庫入れや狭い場所での運転時に、障害物とのおおよその距離を知らせます。

ABS、BAS、ESP® に関しては、走行安全装備（▷44 ページ）をご覧ください。

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、設定した速度を自動的に維持して走行できます。

設定できる速度は約30km/h以上です。

⚠ 事故のおそれがあります

車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、クルーズコントロール使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

⚠ 事故のおそれがあります

以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。

- 一定の走行速度を維持できない道路・交通状況の場合（交通量が多い場合やカーブが連続している場合）。事故を起こすおそれがあります。
- 路面が滑りやすい場合。ブレーキや加速により駆動輪がグリップを失い、車がスリップするおそれがあります。
- 霧や激しい雨、雪などで視界が確保できない場合

! クルーズコントロールは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。

! 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、クルーズコントロールが誤作動するおそれがあります。

! クルーズコントロールの設定速度の表示とスピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

! マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロールに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷208 ページ）をご覧ください。

! 急な上り坂では、クルーズコントロールが速度を維持するためにシフトダウンしますが、設定した速度を維持できないことがあります。このようなときはアクセルペダルを踏んで加速してください。

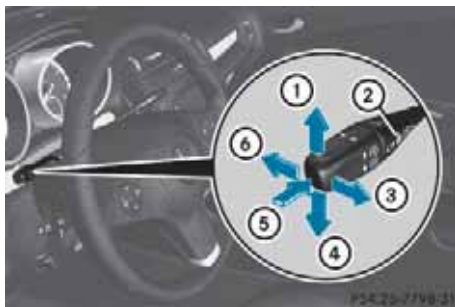
! 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択しエンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失い、車がスリップするおそれがあります。

! 自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると挟まれたり、ブレーキの作動を妨げるおそれがあります。

クルーズコントロールの使いかた

① 現在の走行速度に設定する / 設定速度を上げる
② 表示灯
③ 記憶されている前回の設定速度に設定する
④ 現在の走行速度に設定する / 設定速度を下げる
⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
⑥ クルーズコントロールを解除する

可変スピードリミッター（▷132 ページ）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯 ② が消灯しているときに、クルーズコントロールを操作できます。

レバーの表示灯 ② が点灯しているときは、可変スピードリミッターを操作できる状態です。レバーを ⑤ の方向に押すと表示灯が消灯し、クルーズコントロールの操作ができる状態に切り替わります。

クルーズコントロールを設定する

▶ レバーの表示灯 ② が消灯していることを確認します。

点灯しているときは、レバーを ⑤ の方向に押して、表示灯を消灯させます。

▶ 希望の速度まで加速、または減速します。

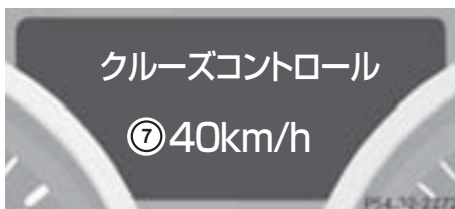
▶ 希望の速度に達したとき、レバーを ① か ④ の方向に操作します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを ③ の方向に引きます。

記憶されている設定速度に設定されます。

アクセルペダルから足を放すと、設定した速度を維持するように走行します。

設定速度がマルチファンクションディスプレイに表示された例
⑦ 設定速度

マルチファンクションディスプレイに " クルーズコントロール " と設定速度 ⑦ が数秒間表示されます。

⚠ 事故のおそれがあります

記憶されている設定速度に再度設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速して事故を起こすおそれがあります。

設定速度が車両情報サブ画面に移動し、表示された例
⑧ クルーズコントロールインジケーター / 設定速度

数秒後、車両情報サブ画面にクルーズコントロールインジケーターと設定速度 ⑧ が表示されます。

ℹ 上り坂などを走行するときは、設定した速度を維持できないことがありますが、路面が平坦になると、設定した速度で走行を再開します。

ℹ 設定速度が記憶されていない状態でレバーを ③ の方向に引いたときや走行速度が約 30km/h 以下のとき、ESP® オフスイッチで ESP® の機能を解除しているときはクルーズコントロールを設定できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数秒間点滅します。

ⓘ クルーズコントロールの設定速度は記憶されます。ただし、エンジンスイッチを一度 **0** か **1** の位置にすると、記憶された速度は消去されます。

設定速度を上げる

▶ レバーを ① の方向に上げ続けます。

▶ 希望の速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

ⓘ クルーズコントロールはアクセルペダルを踏んでも解除されません。追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

設定速度を下げる

▶ レバーを ④ の方向に下げ続けます。

▶ 希望の速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

ⓘ レバーを ① か ④ の方向にごく短時間操作すると、1km/h 単位で速度の設定ができます。

ⓘ レバーを ④ の方向に下げて減速しているときに、シフトダウンしたり、自動的にブレーキを効かせることがあります。

! 自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると挟まれたり、ブレーキの作動を妨げることがあります。

クルーズコントロールの設定を解除する

▶ レバーを ⑥ の方向に押します。

または

▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

▶ レバーを ⑤ の方向に押します。

レバーの表示灯 ② が点灯し、可変スピードリミッターの操作ができる状態に切り替わります。

ⓘ 以下のときは、クルーズコントロールは自動的に解除されます。

- セレクターレバーを N に入れたとき
- ESP® オフスイッチで ESP® の機能を解除したとき
- ESP® が作動したとき
- 走行速度が約 30km/h 以下になったとき

このときは確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｵﾌ " と表示されます。

また、パーキングブレーキを効かせたときも自動的に解除されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

クルーズコントロールはセレクターレバーを N に入れても解除されますが、走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

可変スピードリミッター

制限速度を設定すると、アクセルペダルを踏み込んでいても、設定した速度を超えないように走行することができます。

設定できる制限速度は30km/h～210km/h、または250km/hの間です。

ただし、車の最高速度以上に制限速度を設定しても、車の最高速度以上の速度で走行することはできません。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

※ 設定できる制限速度の上限は、車種や仕様により異なります。

⚠ 事故のおそれがあります

- 走行時は法定速度を遵守してください。可変スピードリミッター使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 運転を交代するときは、必ず交代する運転者に、可変スピードリミッターの機能と設定した制限速度を伝えてください。

  可変スピードリミッターの機能を知らずに運転すると、アクセルペダルを踏んでも速度が上がらず、事故を起こすおそれがあります。
- 可変スピードリミッターはブレーキペダルを踏んでも解除できません。
- 可変スピードリミッターは設定した制限速度以上に加速する必要のないときに使用してください。

! 可変スピードリミッターの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

! マルチファンクションディスプレイに可変スピードリミッターに関する故障／警告メッセージが表示されたときは（▷208ページ）をご覧ください。

! 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択しエンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

⚠ 事故のおそれがあります

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失い、車がスリップするおそれがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

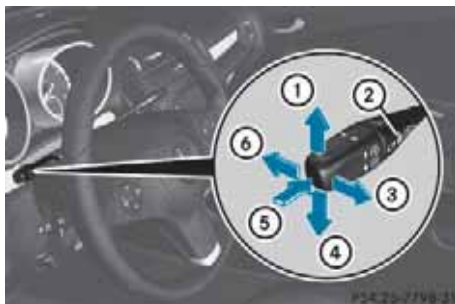
走行しているときは、軽くブレーキを効かせ続けるなど、ブレーキペダルを踏み続けないでください。ブレーキシステムが過熱して制動距離が長くなったり、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると挟まれたり、ブレーキの作動を妨げるおそれがあります。

ℹ ウィンタータイヤスピードリミッター（▷121 ページ）を設定しているときは、可変スピードリミッターで設定できる制限速度の上限は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度になります。

ℹ 設定した速度を維持できないときは、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾘﾐｯﾄ ｺｴﾏｼﾀ!" と表示されることがあります。

可変スピードリミッターの使いかた

① 現在の走行速度に設定する /30km/h に設定する / 設定速度を上げる
② 表示灯
③ 記憶されている前回の設定速度に設定する / 設定速度を上げる
④ 現在の走行速度に設定する /30km/h に設定する / 設定速度を下げる
⑤ 可変スピードリミッターとクルーズコントロールを切り替える
⑥ 可変スピードリミッターを解除する

クルーズコントロール（▷128 ページ）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯 ② が点灯しているときに、可変スピードリミッターを操作できます。

レバーの表示灯 ② が消灯しているときは、クルーズコントロールを操作できる状態です。レバーを ⑤ の方向に押すと表示灯 ② が点灯し、可変スピードリミッターの操作ができる状態に切り替わります。

可変スピードリミッターを設定する

レバーの表示灯 ② が点灯していることを確認してください。

▶ レバーを ① か ④ の方向に操作します。
- 走行速度が約 30km/h 以下のときは 30km/h に設定されます。
- 走行速度が約 30km/h 以上のときはそのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを ③ の方向に引きます。

記憶されている制限速度に設定されます。

⚠ 事故のおそれがあります

可変スピードリミッターを設定するときは、周囲の安全、特に後方の車などに注意しながら操作してください。

記憶されている前回の設定速度が走行速度より低いときは、前回の設定速度に設定すると、アクセルペダルを踏んでいても車は減速します。

設定した制限速度がマルチファンクションディスプレイに表示された例
⑦ 設定速度

マルチファンクションディスプレイに " リミット " と設定速度 ⑦ が数秒間表示されます。

設定した制限速度が車両情報サブ画面に移動し、表示された例
⑧ 可変スピードリミッターインジケーター / 設定速度

数秒後に車両情報サブ画面に可変スピードリミッターインジケーターと設定速度 ⑧ が表示されます。

ℹ 可変スピードリミッターの設定速度は記憶されます。ただし、エンジンスイッチを一度 **0** か **1** の位置にすると、記憶された速度は消去されます。

ℹ 設定速度が記憶されていないときにレバーを ③ の方向に引くと、マルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数秒間点滅します。

ℹ アクセルペダルを踏んでキックダウンしているときは可変スピードリミッターを設定することはできません。

設定速度を変更する

▶ レバーを ① の方向に上げます。

設定速度が 10km/h 単位で上がります。

または

▶ レバーを ③ の方向に引きます。

設定速度が 1km/h 単位で上がります。

または

▶ レバーを ④ の方向に下げます。

設定速度が 10km/h 単位で下がります。

! 設定速度を変更するときは、周囲の状況、特に後方の車などに注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

可変スピードリミッターを解除する

▶ レバーを ⑥ の方向に押します。

または

▶ レバーを ⑤ の方向に押します。

レバーの表示灯 ② が消灯し、クルーズコントロールの操作ができる状態に切り替わります。

次の操作をしたときは可変スピードリミッターが自動的に解除されます。

- アクセルペダルを踏んでキックダウンしたとき

  このときは確認音が鳴ります。

  ただし、設定速度より約 20km/h 以上低い速度までは、一時的にキックダウンしても可変スピードリミッターは解除されません。

- エンジンを停止したとき

⚠ 事故のおそれがあります

ブレーキペダルを踏んでも可変スピードリミッターを解除することはできません。

パークトロニック *

フロントとリアのバンパーにあるセンサーで障害物などを感知し、車と障害物とのおよその距離を、インジケーターと警告音で運転者に知らせます。

⚠ 事故のおそれがあります

パークトロニックは運転者を支援するシステムです。運転者はパークトロニックに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。

⚠ けがのおそれがあります

車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。

パークトロニックセンサー

フロント
① センサー

* オプションや仕様により、異なる装備です。

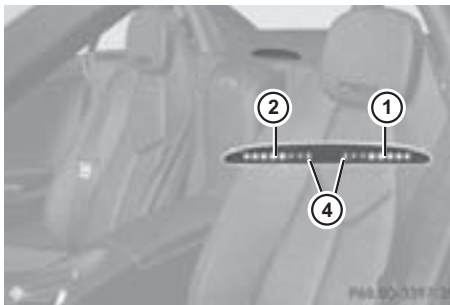
リア
② センサー

フロントバンパーに 6 個のセンサー ① が、リアバンパーに 4 個のセンサー ② があります。

! センサーに泥や氷、雨、水しぶきなどが付着したときは、赤色インジケーターだけが点灯して、約 20 秒後にパークトロニックが停止することがあります。センサーに損傷を与えないよう注意して、定期的に清掃してください（▷196 ページ）。

インジケーター / 作動表示灯

フロント
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター
③ フロント作動表示灯

フロントのインジケーターと作動表示灯はダッシュボード上の図の位置にあります。

リア
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター
④ リア作動表示灯

リアのインジケーターと作動表示灯は車室内後方の図の位置にあります。

バンパーと障害物などとのおよその距離を、インジケーターの点灯数で示します。

! システムに異常があるときは、赤色インジケーターだけが点灯して警告音が鳴り、約 20 秒後にパークトロニックが停止することがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチ（▷139 ページ）の表示灯が点灯します。

i エンジンスイッチを **2** の位置にすると、すべてのインジケーターと作動表示灯が一瞬点灯します。

パークトロニックの作動条件

エンジンスイッチが **2** の位置でパーキングブレーキが解除されているとき、シフト位置に応じて以下のように作動します。

シフト位置	作動内容
D	フロントのセンサーが作動し、フロントの作動表示灯 ③ が点灯します。
R N	フロントとリアのセンサーが作動し、フロントとリアの作動表示灯 ③④ が点灯します。
P	パークトロニックは作動しません。

i パークトロニックは、速度が約 18km/h 以下のときに作動します。速度が約 18km/h 以上になると機能が解除されます。

パークトロニックの作動

フロントのセンサー感知範囲に障害物が入ったとき

フロントのセンサー感知範囲（▷138 ページ）に障害物が入ると、黄色インジケーターが 1 個点灯します。

障害物との距離が短くなるにつれ、点灯する黄色インジケーターの数が増えていきます。

障害物との距離がセンサーの最短感知距離に近くなると、黄色インジケーターに加えて 1 個目の赤色のインジケーターが点灯し、警告音が断続的に約 3 秒間鳴ります。

最短感知距離（約 20 ～ 15cm）になると、上記のインジケーターに加えて 2 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が連続的に約 3 秒間鳴ります。

リアのセンサー感知範囲に障害物が入ったとき

リアのセンサー感知範囲に障害物が入ると、黄色インジケーターが 1 個点灯して、断続的に警告音が鳴ります。

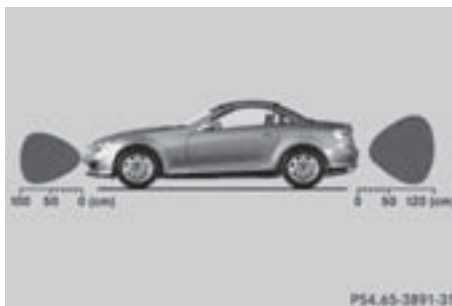
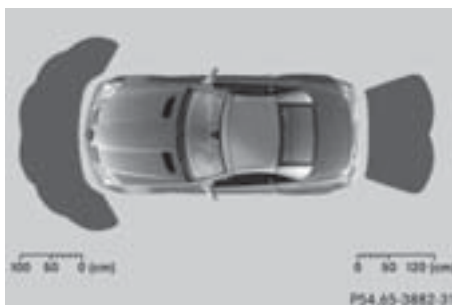
障害物との距離が短くなるにつれ、点灯する黄色インジケーターの数が増えていき、警告音の間隔が短くなります。

障害物との距離がセンサーの最短感知 距離に近くなると、黄色インジケーターに加えて 1 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音の間隔がさらに短くなります。

最短感知距離（約 20 ～ 15cm）になると、上記のインジケーターに加えて 2 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が連続的に鳴ります。

! 障害物との距離がセンサーの最短感知距離よりも近くなると、センサーは障害物を感知できなくなり、パークトロニックが正常に作動しなくなることがあります。

また、点灯していたインジケーターが消灯することがあります。

センサーの感知範囲

横方向から見た感知範囲

上方向から見た感知範囲

フロントバンパー側	センサー感知範囲
中央	約 100cm ～ 20cm
コーナー	約 60cm ～ 15cm

リアバンパー側	センサー感知範囲
中央	約 120cm ～ 20cm
コーナー	約 80cm ～ 15cm

! 車の中央でバンパーから約 20cm 以内、コーナーでバンパーから約 15cm 以内にある障害物は感知できません。

! センサーの周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。パークトロニックが正常に作動せず、車を損傷したり事故につながるおそれがあります。

! 針金やロープなどの細い物や、植木鉢や建物の張り出しなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。これらが至近距離にあるとき、状況によっては、センサーがこれらを感知せず、車や物を損傷するおそれがあります

! センサーは雪などの超音波を吸収しやすい物を感知しないことがあります。

! 電波を発する物が近くにあるときや、不整地などを走行しているときは、パークトロニックが正しく作動しないことがあります。

! 洗車機や大型車の排気ブレーキ、工事用のエアコンプレッサーなどが近くにあると、超音波が乱され、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 温度や湿度が高いときや超音波や低周波を発生させる機器が車の近くにあるとき、またエンジンルームの温度が高いときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。

パークトロニックオフスイッチ

パークトロニックを停止することができます。

パークトロニックを停止する

▶ エンジンスイッチが **2** の位置のとき、パークトロニックオフスイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯 ② が点灯します。

パークトロニックを作動させる

▶ 再度、パークトロニックオフスイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯 ② が消灯します。

i パークトロニックオフスイッチでパークトロニックを停止しても、次にエンジンスイッチを **2** の位置にしてパーキングブレーキを解除したとき、パークトロニックは自動的に作動します。

! システムに異常があるときは、赤色インジケーターだけが点灯して警告音が鳴り、約 20 秒後にパークトロニックが停止することがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯します。

エアコンディショナー

エアコンディショナー（クライメートコントロール）は、設定温度や外気温度などに応じて、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

環 境

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒 R134a を使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ずメルセデス･ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ 火傷のおそれがあります

- 送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になり、火傷をするおそれがあります。また暖気が送風されているときは、送風口を身体に近付けたままにしていると低温火傷のおそれがあります。十分に注意してください。
- 送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近付けると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。

! 皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。

! 車内が高温になっているときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。

! ボンネットの吸気口が雪や氷などで覆われないようにしてください。

! 送風口や車内の吸排気口が覆われないようにしてください。

i 除湿された水分は車体下方に排水されます。

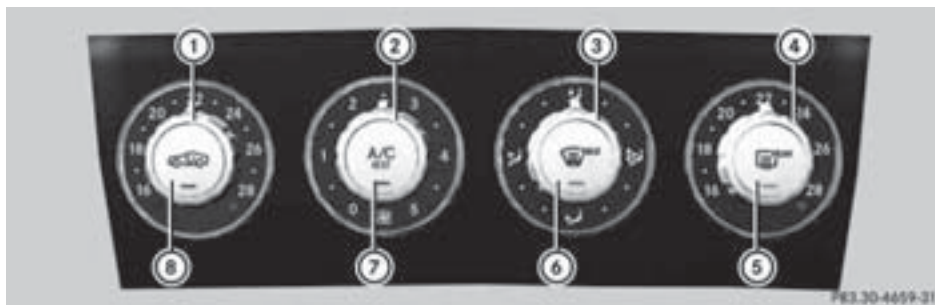
i ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフが閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。

i 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。

i エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。

i エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。

フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減ります。

コントロールパネル

	名称
①	送風温度調整ダイヤル（左側）
②	送風量調整ダイヤル
③	送風口選択ダイヤル
④	送風温度調整ダイヤル（右側）
⑤	リアデフォッガースイッチ
⑥	デフロスタースイッチ
⑦	AC スイッチ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ
⑧	内気循環スイッチ

通常の使いかた

エアコンディショナーを作動させる

▶ 送風量調整ダイヤル ② を 0 以外の位置にします。

AC スイッチ ⑦ の表示灯が点灯します。点灯しないときは、AC スイッチを押します。

▶ 送風温度調整ダイヤル ①④ で好みの温度を設定します。

ℹ 通常は 22℃に設定することをお勧めします。

ℹ エンジンの始動直後は、設定にかかわらず、約 30 秒間足元にも送風されることがあります。

ℹ ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフが開いていると、設定温度を維持できません。

エアコンディショナーを停止する

▶ 送風量調整ダイヤル ② を 0 の位置にします。

※ エアコンディショナーのスイッチ類の絵柄などは、イラストと異なる場合があります。

! ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフが閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。

AC モード

AC モードでは除湿 / 冷房された空気が送風されます。

AC モードに設定されているときは、AC スイッチ ⑦ の表示灯が点灯します。

AC モードを解除する

▶ AC スイッチ ⑦ を押します。

スイッチの表示灯が消灯し、除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。

AC モードに設定する

▶ AC スイッチ ⑦ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

環　境

AC モードを解除すると、エンジンへの負荷が軽減し、燃費が向上します。

! ドアウインドウとリアクォーターウインドウ、バリオルーフが閉じているときに AC モードを解除すると、ウインドウが曇りやすくなります。

i 除湿 / 冷房された空気は、エンジンがかかっているときに送風されます。

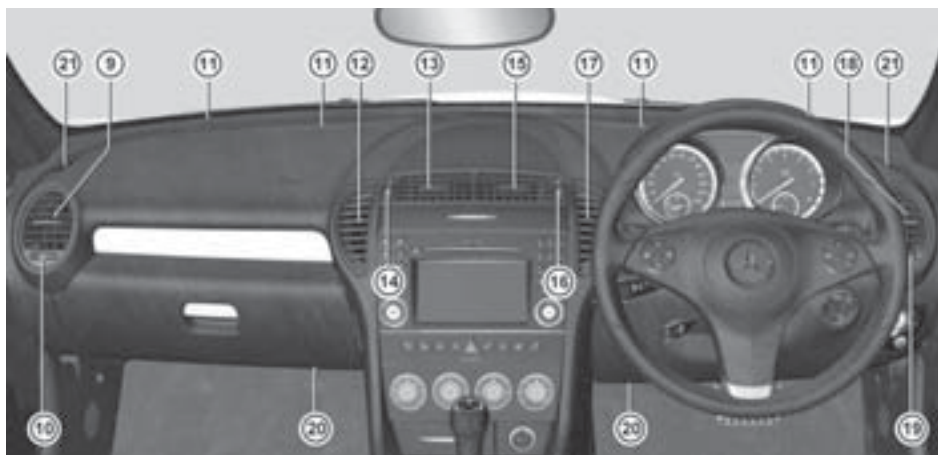
i AC モードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風されることがあります。

i AC スイッチ ⑦ を押したときに、表示灯が点滅もしくは消灯したままのときはエアコンディショナーが故障しています。除湿 / 冷房された空気は送風されません。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

送風口を選択する

▶ 送風口選択ダイヤル ③ をまわして、好みの送風口マークに合わせます。

i ダイヤルをマークの中間に合わせると、組み合わせた送風口から送風することができます。

i 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。

送風口マーク	主に送風される送風口
	サイド送風口 ⑨⑱ 中央送風口 ⑫⑰ 上部中央送風口 ⑬⑮
	フロントウインドウ送風口 ⑪ サイド送風口 ⑨⑱ ドアウインドウ送風口 ㉑ 中央送風口 ⑫⑰ 上部中央送風口 ⑬⑮
	サイド送風口 ⑨⑱ 中央送風口 ⑫⑰ 上部中央送風口 ⑬⑮ フロントウインドウ送風口 ⑪ ドアウインドウ送風口 ㉑ 足元送風口 ⑳
	足元送風口 ⑳ 中央送風口 ⑫⑰ 上部中央送風口 ⑬⑮ サイド送風口 ⑨⑱

送風口の開閉

サイド送風口 / 中央送風口 / 上部中央送風口

サイド送風口 ⑨⑱ と中央送風口 ⑫⑰、上部中央送風口 ⑬⑮ は開閉することができます。

サイド送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル ⑩⑲ を外側にまわします。

徐々にサイド送風口 ⑨⑱ が開き、送風量が上がります。

サイド送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル ⑩⑲ を内側にまわします。

徐々にサイド送風口 ⑨⑱ が閉じ、送風量が下がります。

開閉ダイヤル ⑩⑲ を停止するまで内側にまわすと、サイド送風口 ⑨⑱ が閉じます。

中央送風口、上部中央送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル ⑭⑯ を上方にまわします。

徐々に中央送風口 ⑫⑰ と上部中央送風口 ⑬⑮ が開き、送風量が上がります。

送風口開閉ダイヤル ⑭⑯ を停止するまで上方にまわすと、中央送風口 ⑫⑰ は閉じ、上部中央送風口 ⑬⑮ からの送風量が上がります。

中央送風口、上部中央送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル ⑭⑯ を下方にまわします。

徐々に中央送風口 ⑫⑰ と上部中央送風口 ⑬⑮ が閉じ、送風量が下がります。

開閉ダイヤル ⑭⑯ を停止するまで下方にまわすと、中央送風口 ⑫⑰ と上部中央送風口 ⑬⑮ が閉じます。

ℹ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで内側または下方にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

エアスカーフ送風口

⚠ **火傷のおそれがあります**

エアスカーフを作動させているときは、エアスカーフ送風口が過熱して高温になり、火傷をするおそれがあります。エアスカーフの作動内容を調整してください。また、送風口に身体を近付けたままにしていると低温火傷のおそれがあります。十分に注意してください。

エアスカーフ送風口 ㉒ から温風を送風することができます。詳しくは(▷66 ページ)をご覧ください。

送風口の風向き調整

サイド送風口 ⑨⑱ と上部中央送風口 ⑬⑮ は風向きを調整することができます。

風向きを調整する

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かします。

ⓘ 換気効率を上げるため、上部中央送風口の風向きを中央にすることをお勧めします。

送風量の調整

送風量を手動で調整することができます。

送風量を上げる

▶ 送風量調整ダイヤル ② を時計回りにまわします。

送風量を下げる

▶ 送風量調整ダイヤル ② を反時計回りにまわします。

ⓘ 送風量調整ダイヤル ② を 0 の位置にするとエアコンディショナーが停止します。

デフロスターモード

フロントウインドウやドアウインドウの内側の曇りを取るときに使用します。

デフロスターモードに設定する

▶ デフロスタースイッチ ⑥ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

エアコンディショナーが以下の内容で作動します。

- 除湿された空気が送風されます。
- エアコンディショナーの送風量が上がります。
- エアコンディショナーの送風温度が高くなります。
- フロントウインドウ送風口とドアウインドウ送風口を中心に送風されます。
- 内気循環モードが解除されます。

デフロスターモードを解除する

▶ 再度、デフロスタースイッチ ⑥ を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

デフロスターモードに設定する前の内容でエアコンディショナーが作動します。

ただし、デフロスターモードに設定する前に AC モードを解除していたときは AC モードに、内気循環モードにしていたときは外気導入になります。

i 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。

i デフロスターモードに設定しているときは、送風温度や送風量の調整、送風口の選択はできません。

フロントウインドウの外側が曇るとき

▶ フロントワイパーを作動させます。

▶ 送風口選択ダイヤル ③ を [] または [] に合わせます。

i 上記の設定は、フロントウインドウの曇りが取れるまでの間にとどめてください。

リアデフォッガー

⚠ **事故のおそれがあります**

ウインドウに雪や氷が付着しているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

エンジンスイッチが **2** の位置のときに使用できます。

リアデフォッガーを使用する

▶ リアデフォッガースイッチ ⑤ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ ⑤ を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

リアデフォッガーは、使用を開始してから数分後に自動的に停止します。

! 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めに停止してください。

i 外気温度と走行速度により、リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は異なります。

i バッテリーの電圧が低くなるとリアデフォッガーは自動的に停止し、表示灯が点滅します。電圧が回復すると自動的に作動を開始します。

i 外気温度が低いときは、リアデフォッガースイッチを押してもすぐに作動しない場合があります。

i リアデフォッガーを使用しているときは、ドアミラーの鏡面が自動的に温まります。

i バリオルーフを開いているときは、リアデフォッガーを使用できません。リアデフォッガースイッチを押したときは、スイッチの表示灯が数回点滅した後に消灯します。

内気循環モード

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときに使用します。

⚠ **事故のおそれがあります**

外気温度が低いときや、ドアウインドウとリアクォーターウインドウ、バリオルーフが閉じているときに内気循環モードにするとウインドウが曇りやすくなります。

内気循環モードに切り替えると、車内の空気が循環されます。

エンジンスイッチが **2** の位置のときに設定 / 解除ができます。

ⓘ 外気温度が非常に高いときは、自動的に内気循環モードに切り替わることがありますが、このときは内気循環スイッチの表示灯は点灯しません。

約 30 分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。

ⓘ 内気循環モードのときに、AC モードを解除するかデフロスターモードにすると、外気導入モードになります。

内気循環モードに設定する

▶ 外気導入モードのときに、内気循環スイッチ ⑧ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

内気循環モードに設定されていても、一定時間が経過すると以下のように自動的に外気導入を始めます。

外気温度が約 5℃以下のとき	約 5 分後
AC モードを解除しているとき	約 5 分後
外気温度が約 5℃以上のとき	約 30 分後

内気循環モードを解除する（外気導入モードにする）

▶ 内気循環モードのときに、内気循環スイッチ ⑧ を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

コンビニエンスオープニング / クロージング機能

内気循環モードの設定 / 解除にあわせて、ドアウインドウを開閉することができます。

コンビニエンスクロージング機能

▶ ドアウインドウが閉じるまで、内気循環スイッチ ⑧ を押して保持します。

バリオルーフが閉じているときは、ドアウインドウが全閉した後にリアクォーターウインドウも閉じます。スイッチの表示灯が点灯し、内気循環モードに設定されます。

コンビニエンスオープニング機能

▶ ドアウインドウが前回開いていた位置に開くまで、内気循環スイッチ ⑧ を押して保持します。

バリオルーフが閉じているときは、リアクォーターウインドウが全開します。

スイッチの表示灯が消灯し、内気循環モードが解除されます。

⚠ **けがのおそれがあります**

- 内気循環スイッチでドアウインドウとリアクォーターウインドウを閉じているときには、身体を挟まれないよう十分に注意してください。身体が挟まれそうになったときは、ただちにスイッチから手を放してください。
- 内気循環スイッチでドアウインドウとリアクォーターウインドウを開いているときは、ウインドウに身体を寄りかけないでください。ウインドウとドアフレームの間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。

ℹ 内気循環スイッチで閉じたドアウインドウやリアクォーターウインドウを別のスイッチで開いた場合、開いたドアウインドウやリアクォーターウインドウをコンビニエンスオープニング機能で開くことはできません。

余熱ヒーター・ベンチレーション

エンジン停止後に車内を暖房したり、車内に外気を導入して換気を行なうときに使用します。

エンジンスイッチが **0** か **1** の位置のとき、またはキーが抜いてあるときに使用できます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを使用する

▶ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ ⑦ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

▶ 送風温度調整ダイヤル ①④ で送風温度を設定し、送風口選択ダイヤル ③ で送風口を選択します。

余熱ヒーター・ベンチレーションを停止する

▶ 再度、余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ ⑦ を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

以下のときは、余熱ヒーター・ベンチレーションは自動的に停止します。

- エンジンスイッチを **2** の位置にしたとき
- 使用を開始してから約 30 分経過したとき
- バッテリーの電圧が低下したとき

ℹ 余熱ヒーター・ベンチレーションの作動時間は、冷却水の温度や設定された送風温度により異なることがあります。

ℹ 外気温度が高いときや、冷却水の温度が低いときは温風は送風されません。

ℹ 送風量は弱の設定で一定に保たれます。

ℹ 外気温度が高いときは換気のみが行なわれます。このときは、中程度の送風量になります。

バリオルーフ

⚠ 事故やけがのおそれがあります

- バリオルーフを開閉するときは、ルーフやトランク、ドアウインドウやリアクォーターウインドウなど作動する部分に触れないでください。また、それらが作動する範囲に障害物がないことも確認してください。
- 身体や物が挟まれそうになったときは、バリオルーフスイッチから手を放してください。バリオルーフの作動が停止します。
- 万一のとき以外はバリオルーフの開閉操作を途中で停止しないでください。けがをしたり、ルーフを損傷するおそれがあります。

  開閉操作を途中で停止すると、以下の時間が経過した後に油圧装置の圧力が低下し、ルーフが倒れ込みます。

  ◇ エンジンスイッチが **2** の位置のときは約 7 分後

  ◇ エンジンスイッチが **2** 以外の位置、またはエンジンスイッチからキーを抜いてあるときは約 15 秒後

  このときは警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻｶﾞﾘﾏｽ !" と表示されます。
- 走行するときは、必ずバリオルーフをトランク内に確実に収納するか、または完全に閉じている状態にしてください。走行中にバリオルーフが動くと、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

! 安全のため、バリオルーフの開閉は停車しているときに行なってください。

! 万一のとき以外はバリオルーフの作動を途中で停止しないでください。

! バリオルーフを開閉するとき、ルーフは上方に、トランクは後方に動きます。上方および後方、ルーフやトランクの作動範囲に十分な空間があることを確認してください。

! ルーフラックを装着しているときは、バリオルーフを作動させないでください。

! ロールバーの後方に腰掛けたり重い物を置かないでください。ルーフや収納部のカバーを損傷するおそれがあります。

! バリオルーフ開閉時にルーフや荷物の損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- 荷物は必ずラゲッジカバーの下に積んでください。
- ラゲッジカバーの上や前方、ラゲッジカバー左右のスペースには物を置かないでください。
- ラゲッジカバーが荷物に押し上げられないようにしてください。
- ラゲッジカバーが確実に閉じていることを確認してください。
- トランクが確実に閉じていることを確認してください。
- ロールバーの後方に物を置かないでください。

! 気温が約－ 15℃以下のときはバリオルーフを開閉しないでください。

! 車を離れるときは、盗難を避けるため、必ずバリオルーフを閉じ、ドア、ドアウインドウとリアクォーターウインドウ、トランクなどが閉じていること、各部が施錠されていることを確認してください。

! バリオルーフ開閉中にトランクハンドルを操作しないでください。

! バリオルーフを開閉しているときに、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷212、213 ページ）をご覧ください。

! バリオルーフの動きに連動して、ドアウインドウとリアクォーターウインドウも開閉します。

! トランクが完全に閉じていないときはバリオルーフを開閉することはできません。このときは警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マーク（▷209 ページ）が表示されます。

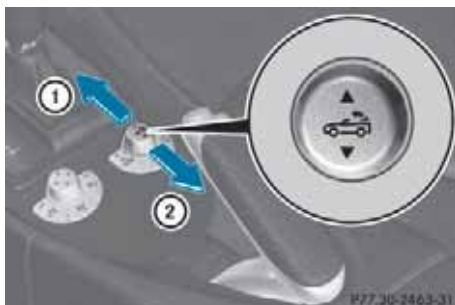
! バリオルーフやリアウインドウが濡れているときにバリオルーフを開くと車内に水が入ることがあります。バリオルーフを開くときは、バリオルーフやリアウインドウの水滴を拭き取ってください。

! シートやシート後方のスペースには、バリオルーフが閉じてきたときに干渉するおそれのある物を置かないでください。また、サンバイザーをフックから外した状態でバリオルーフを閉じると、バリオルーフとサンバイザーが当たり、損傷するおそれがあります。

バリオルーフの開閉（バリオルーフスイッチによる操作）

! バリオルーフを開閉する前に以下の点を確認してください。

- トランクが正しく閉じていること
- ロールバーの後方に物が置かれていないこと

! バッテリーあがりを防ぐため、バリオルーフを操作するときはできるだけエンジンをかけてください。

左ハンドル車

バリオルーフを開く

! バリオルーフを開く前に、ルーフとリアウインドウが濡れていないことを確認してください。車内やトランク内に水が入るおそれがあります。

▶ セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ トランク内のラゲッジカバーを閉じます。

▶ トランクを閉じます。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ バリオルーフスイッチを矢印 ② の方向に操作して、そのまま保持します。

バリオルーフが開きはじめます。

マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻﾄﾞｳﾁｭｳ !" と表示されます。

バリオルーフが完全に開いたあと、ドアウインドウが閉じます。

バリオルーフを閉じる

▶ セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ トランクを閉じます。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ バリオルーフスイッチを矢印 ① の方向に操作して、そのまま保持します。

バリオルーフが閉じはじめます。

マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻﾄﾞｳﾁｭｳ !" と表示されます。

バリオルーフが完全に閉じたあと、ドアウインドウとリアクォーターウインドウが閉じます。

バリオルーフの開閉（キーによる操作）*

⚠ **けがのおそれがあります**

リモコン操作でバリオルーフを開閉するときは、ルーフやトランク、ドアウインドウやリアクォーターウインドウなど、作動する部分に触れないでください。挟まれそうになったときは、ただちに施錠ボタンまたは解錠ボタンから指を放してください。作動中のバリオルーフやウィンドウはその位置で停止します。

リモコン操作でバリオルーフとドアウインドウ、リアクォーターウインドウを開閉できます。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。

! バリオルーフを開閉する前に以下の点を確認してください。

- トランクが正しく閉じていること
- ロールバーの後方に物が置かれていないこと

i エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。

バリオルーフを開く

▶ キーの発信部を運転席ドアのドアハンドルに向けます。

▶ バリオルーフが完全に開くまで、解錠ボタン（▷54 ページ）を押し続けます。

バリオルーフとリアクォーターウインドウが開き、ドアウインドウが閉じた状態になります。

▶ 閉じた状態のドアウインドウを開くときは、再度解錠ボタンを押し続けます。

解錠ボタンから指を放すと、作動中のバリオルーフやウインドウはその位置で停止します。

バリオルーフを閉じる

▶ キーの発信部を運転席ドアのドアハンドルに向けます。

▶ バリオルーフが完全に閉じるまで、施錠ボタン（▷54 ページ）を押し続けます。

バリオルーフとドアウインドウ、リアクォーターウインドウが閉じます。

施錠ボタンから指を放すと、作動中のバリオルーフやウィンドウはその位置で停止します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ バリオルーフが閉じていてドアウインドウやリアクォーターウインドウが開いているときに施錠ボタンを押し続けると、ドアウインドウとリアクォーターウインドウが閉じます。

バリオルーフが完全に閉じていないとき

以下のときはバリオルーフが完全に閉じていません。

- マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻﾄﾞｳﾁｭｳ！" と表示されているとき
- 発進時や走行中に、マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ﾌﾙｵｰﾌﾟﾝ / ﾌﾙｸﾛｰｽﾞ" と表示され、警告音が約 10 秒ほど鳴ったとき

このときは、以下の操作を行ない、バリオルーフを完全に閉じてください。

停車時

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ バリオルーフスイッチ（▷151 ページ）を矢印 ① の方向に操作して、そのまま保持します。

走行中

▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、ただちに停車してください。

▶ バリオルーフスイッチ（▷151 ページ）を矢印 ① の方向に操作して、そのまま保持します。

ラゲッジカバー

トランク内の荷物をラゲッジカバーにより覆うことができます。

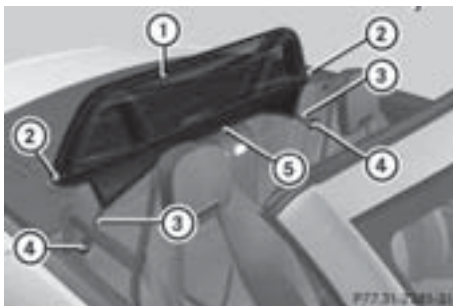
❗ バリオルーフを開いたときにルーフや荷物の損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- 荷物は必ずラゲッジカバーの下に積んでください。
- ラゲッジカバーの上や前方、ラゲッジカバー左右のスペースには物を置かないでください。
- ロールバーの後方に物を置かないでください。
- ラゲッジカバーが荷物に押し上げられないようにしてください。

ラゲッジカバーを閉じる

▶ ラゲッジカバー後端のハンドルを持ってラゲッジカバーを矢印の方向に引き出し、ラゲッジカバーの両端のフックをトランク部のホルダーにかけます。

この状態のときに、バリオルーフを開くことができます。

ラゲッジカバーのフックがホルダーに正しく固定されていないときにバリオルーフを開こうとすると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾄﾗﾝｸﾙｰﾑ ﾗｹﾞｯｼﾞｶﾊﾞｰ ｦ ﾄｼﾞﾃｸﾀﾞｻｲ !" と表示されます。

ラゲッジカバーを開く

▶ ラゲッジカバー後端のハンドルを握り、ラゲッジカバーのロックを解除します。

▶ ラゲッジカバーを引き上げ、ラゲッジカバーの両端のフックをトランク部のホルダーから外します。

▶ ラゲッジカバーを前方に押して開きます。

この状態のときには、バリオルーフを開くことはできません。

ドラフトストップ *

ドラフトストップは、バリオルーフを開いて走行するときに生じる風を整流するための装備です。車内への風の巻き込みを減少させます。

⚠ 事故のおそれがあります

- ドラフトストップは必要なときだけ使用するようにしてください。以下の場合は、ドラフトストップを使用しないでください。
  - ◇ 後方視界が十分に確保できない場合
  - ◇ 周囲が暗い場合
- バリオルーフを閉じて走行するときは、ドラフトストップを使用しないでください。後方視界の妨げになるおそれがあります。

ドラフトストップを取り付ける

▶ 左右のシートを前方に移動するか、バックレストを前方に倒します。

▶ ホック②が外側を向くようにして、左右のロープ③をシート後方のフック④にかけます。

▶ ドラフトストップの下部が、シート後方の小物入れと左右ロールバーの間にあるスリット⑤に差し込まれていることを確認します。

▶ 左右のホック②をロールバーの凸部に合わせ、ホックを押して固定します。

▶ ドラフトストップ①をロールバーにかぶせます。

! ドラフトストップ①をロールバーにかぶせてから、ホック②を固定しないでください。ドラフトストップを損傷するおそれがあります。

! ドラフトストップ①をロールバーにかぶせるときは、ネット部分ではなく、縁の部分を持つようにしてください。ドラフトストップを損傷するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ドラフトストップを取り外す

▶ ドラフトストップ ① をロールバーから外します。

▶ ホック ② を引いて、ロールバーの凸部 ⑥ から外します。

▶ ロープ ③ をフック ④ から外します。

❗ 自動防眩ルームミラー装備車では、ドラフトストップを装着したときなど、ルームミラーが後続車のライトに照射されない場合は、ミラーの自動防眩機能は作動しません。十分注意して走行してください。事故を起こすおそれがあります。

ℹ アクリル製ドラフトストップの着脱については、製品に添付されている取扱説明書をご覧ください。

荷物の積み方 / 小物入れ

小物入れ

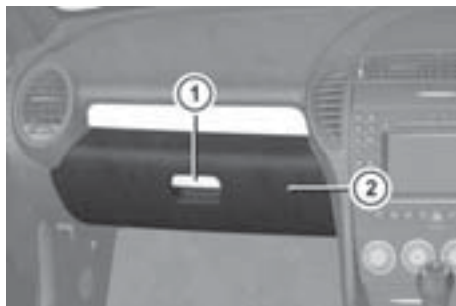
⚠ **けがのおそれがあります**

小物入れに物を入れているときは、小物入れのカバーを閉じてください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。また、収納ネットには鋭利な形状の物や割れやすい物、かたい物を収納しないでください。

❗ 小物入れには貴重品を保管しないでください。

❗ 小物入れには食料品を収納しないでください。

❗ 小物入れが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。小物入れや収納物を損傷するおそれがあります。

グローブボックス

右ハンドル車

グローブボックスを開く

▶ ハンドル ① を引き、カバー ② を開きます。

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときにグローブボックスを開くと、グローブボックス内部の照明が点灯します。

グローブボックスを閉じる

▶ カバー ② を押してロックします。

ℹ リモコン操作で施錠 / 解錠すると、グローブボックスも連動して施錠 / 解錠されます。

ℹ グローブボックス内には、メディアインターフェース・外部入力用ケーブル接続端子があります。詳しくは別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

アームレストの小物入れ

アームレストの小物入れを開く

▶ アームレスト ① の左右にある凹部に指をかけ、アームレストを開きます。

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときにアームレストの小物入れを開くと、小物入れ内部の照明が点灯します。

アームレストの小物入れを閉じる

▶ アームレスト ① を下げて閉じます。

ℹ リモコン操作で施錠 / 解錠すると、アームレストの小物入れも連動して施錠 / 解錠されます。

携帯電話の接続

アームレストの小物入れには、販売店オプションの携帯電話用コネクターを接続する端子が装備されています。詳しくは、お買い上げの販売店またはメルセデス·ベンツ指定サービス工場におたずねください。

※ 電話の操作については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

シート後方の小物入れ

① ボタン

シート後方の小物入れを開く

▶ ボタン ① を押します。

小物入れのカバーが開きます。

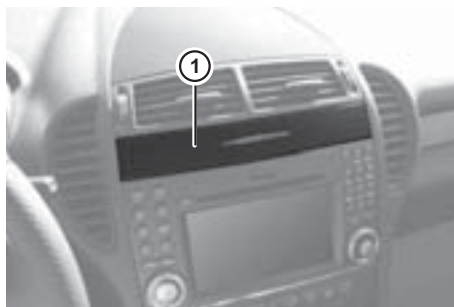
ℹ エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときにシート後方の小物入れのカバーを開くと、小物入れ内部の照明が点灯します。

シート後方の小物入れを閉じる

▶ 小物入れのカバーを押してロックします。

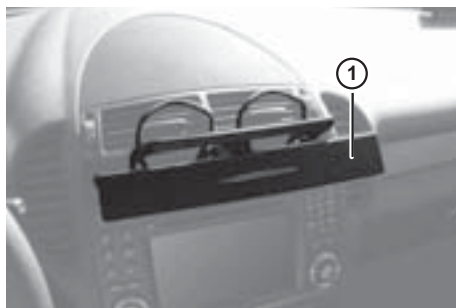
カップホルダー

⚠ **けがや火傷のおそれがあります**

- 走行するときは、カップホルダーを使用しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに容器などが投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。
- カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器を使用してください。
- 火傷防止のため、熱いものが入った容器を置かないでください。

① カバー

カップホルダーを使用する

▶ カップホルダーのカバー ① を押します。

カップホルダーがポップアップします。

カップホルダーを収納する

▶ カップホルダーのカバー ① を押し込みます。

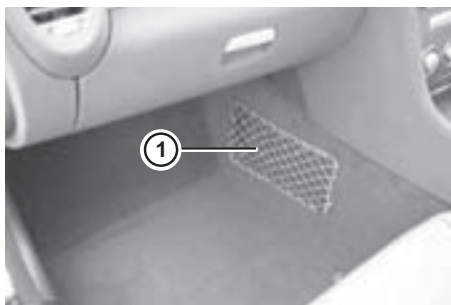
! カップホルダーの上に、飲み物の容器以外のものを置かないでください。

! カップホルダーに飲み物が入った容器を置くときは、スイッチや電装品などに飲み物をこぼしたり、結露した水滴が垂れないように注意してください。

スイッチや電装品などを損傷したり、ショートして発火するおそれがあります。

収納ネット

⚠ **けがのおそれがあります**

収納ネットには、重い物やかたい物、鋭利な形状の物や割れやすい物を入れないでください。事故のときなどに収納物を確実に固定することができなくなります。

右ハンドル車

助手席の足元に収納ネット ① があります。

! 収納ネットから収納物がはみ出さないようにしてください。

トランクフロアマット下の収納スペース

トランクフロアマット下の収納スペースには車載工具や応急用スペアタイヤなどが収納されています。詳しくは（▷202、203 ページ）をご覧ください。

室内装備

サンバイザー / バニティミラー

⚠ **事故のおそれがあります**

走行中はバニティミラーカバーを閉じてください。眩惑により周囲の交通状況が把握できず、事故を起こすおそれがあります。

① 照明
② フック
③ カードホルダー
④ サンバイザー
⑤ バニティミラーカバー

前方からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザー ④ を下げます。

横方向からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザー ④ を下げます。

▶ サンバイザー ④ をフック ② から外します。

▶ サンバイザー ④ を横にまわします。

サンバイザー ④ を軸方向にスライドすることもできます。

バニティミラーを使用する

▶ サンバイザー ④ を下げます。

▶ バニティミラーカバー ⑤ を上方に開きます。

照明 ① が点灯します。

ℹ サンバイザーをフック ② から外すと、照明は点灯しません。

ℹ サンバイザーにはカードホルダー ③ を備えています。

! サンバイザーを横にまわすときは、バニティミラーカバー ⑤ を閉じてください。ルーフ内張りやバニティミラーカバーを損傷するおそれがあります。

! バリオルーフを閉じるときは、必ずサンバイザーをフックに戻してください。フックから外した状態でバリオルーフを閉じると、バリオルーフとサンバイザーが当たり、損傷するおそれがあります。

! バリオルーフを開いて走行するときは、カードホルダー ③ に差し込んだ物が飛ばされないように注意してください。

灰皿

灰皿を開く

▶ 灰皿カバー ① を押して開きます。

灰皿を閉じる

▶ 灰皿カバー ① を押して閉じます。

! 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。

! 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。

! 使用後は確実にカバーを閉じてください。

灰皿を取り外す

▶ エンジンを停止し、パーキングブレーキを効かせます。

▶ 左右の凹部 ③ をつまみながら、灰皿 ② を取り外します。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿を元の位置に合わせ、押し込みます。

ライター

⚠ **火傷や火災のおそれがあります**

- ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。
- 安全のため、子供を乗車させるときはライターを抜き取ってください。火傷や火災のおそれがあります。

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに使用できます。

ライターを使用する

▶ ライター ① を押し込みます。

熱せられると、ライターは元の位置に戻ります。

使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻します。

! ライターを押し込んだ後、押さえ続けないでください。ライターを損傷するおそれがあります。また、ライターが過熱して火災が発生するおそれがあります。

! 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。

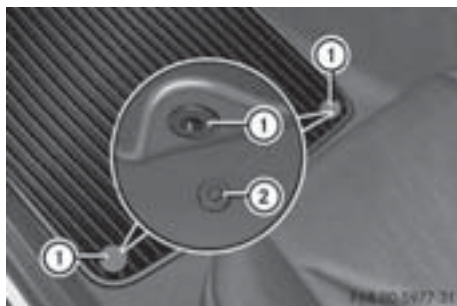
! ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。ライターやセンターコンソールを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。

! ライターが戻らなくなったときは、エンジンスイッチを **0** の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! アクセサリー電源としてライターソケットを使用するときは、最大消費電力 180W 以下の規格に合った電気製品を使用してください。

フロアマット *

⚠ 事故のおそれがあります

- 運転席のフロアマットを使用するときは、ペダルとの間に十分な空間があり、確実に固定されていることを確認してください。
- 運転席のフロアマットは、フロアの凸部 ② とフロアマットの凹部 ① で確実に固定してください。
- 走行前にフロアマットが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、フロアマットが滑ったり、ペダル操作を妨げるおそれがあります。
- 運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。

フロアマットを取り付ける

▶ シートを後方に動かします。

▶ フロアマットを敷きます。

▶ フロアマットの凹部 ① を押し、フロアの凸部 ② にはめ込みます。

フロアマットを取り外す

▶ フロアの凸部 ② からフロアマットを取り外します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

慣らし運転

⚠ 事故のおそれがあります

新品のブレーキパッドは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。この期間は、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。また、ブレーキパッドやブレーキディスクの交換を行なったときも同様です。

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをお勧めします。

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

最初の 1,500km までは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲でエンジン回転数と走行速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- ギアレンジ位置およびギア位置 3、2、1 は山道などを低速で走行するときだけ使用してください。

走行距離が 1,500km を超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

ⓘ エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後も、慣らし運転を行なってください。

ⓘ **キックダウン**：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

ⓘ **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

燃料の給油

燃料を給油する

⚠ **火災や爆発のおそれがあります**

- エンジンをかけたまま給油しないでください。火災が発生するおそれがあります。
- 周囲に燃料があるときや燃料の匂いがするときは、決して火気を近付けないでください。火災が発生するおそれがあります。

⚠ **健康を害するおそれがあります**

肌や衣服に燃料が付着しないように注意してください。燃料が肌に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康を害するおそれがあります。

燃料給油フラップは、リモコン操作での解錠 / 施錠に連動して解錠 / 施錠されます。

燃料給油口は車両の右側後方にあります。メーターパネル内に、給油口の位置を示す [給油口表示] が表示されています。

① 燃料給油フラップ
② キャップ
③ タイヤ空気圧ラベル
④ 使用燃料表示

燃料給油フラップを開く

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 燃料給油フラップ ① の矢印の位置を押します。

キャップを外す

▶ キャップ ② を反時計回りに少しゆるめてタンク内の圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、さらに反時計回りにゆっくりまわして外します。

▶ 外したキャップ ② を燃料給油フラップの裏側にあるホルダーに置きます。

▶ 給油を開始します。

給油ノズルが最初に自動停止した時点で給油を停止してください。

キャップを取り付ける

▶ キャップ ② を燃料給油口に合わせ、時計回りにいっぱいまでまわします。

キャップがロックする音が聞こえます。

燃料給油フラップを閉じる

▶ 燃料給油フラップ ① を押します。

ℹ 燃料給油フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベル ③ が貼付してあります。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては（▷178 ページ）をご覧ください。

! 燃料を給油するときは、以下の点に注意してください。

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用したり、添加剤などを混入すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 軽油を燃料として使用したり、ガソリンに混ぜて使用しないでください。少量を混ぜただけでもエンジンなどを損傷するおそれがあります。また、このような場合は保証の適用外になります。
- 誤って軽油を給油してしまった場合は、決してエンジンを始動しないでください。軽油が燃料系部品全体にまわるおそれがあります。誤って給油した場合はメルセデス·ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
- 目的地まで余裕をもって走れるように、十分な量を給油してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。

! セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

- エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じてください。
- 燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なってください。
- 給油作業をする人以外は燃料給油口に近付かないでください。
- 給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去してください。

  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。
- 作業中は車内に戻らないでください。帯電するおそれがあります。
- キャップの取り外し / 取り付けは確実に行ない、火気を近付けないようにしてください。
- 燃料が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。
- 手動で給油しているときは、状況を見ながら、給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

エンジンルーム

ボンネット

 事故のおそれがあります

走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

⚠ **火傷のおそれがあります**

ボンネットから炎や煙が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。

⚠ **火傷のおそれがあります**

エンジンが停止していても、エンジンルーム内には高温になっている部分があります。エンジンルーム内に触れるときは、各部の温度が下がっていることを確認してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、エンジンスイッチが **2** の位置のときは、エンジンルーム内には手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分、回転している部分があり、それらに触れると非常に危険です。

⚠ **けがのおそれがあります**

エンジンスイッチからキーを抜いていても、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。

ボンネットを開く

⚠ **けがのおそれがあります**

ボンネットを開くときは、エンジンスイッチからキーを抜き、ワイパーのスイッチが停止の位置になっていることを確認してください (▷87、88ページ)。ボンネットを開いているときにワイパーが作動すると、けがをしたり、車やワイパーを損傷するおそれがあります。

! ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが当たり、損傷するおそれがあります。

! 強風のときにボンネットを開くと、風にあおられ、ボンネットが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、ボンネットに雪が積もっているときも同様に注意してください。

左ハンドル車

▶ 運転席側のインストルメントパネル下にあるボンネットロック解除レバー ① を手前に引きます。

▶ ボンネットの裏側にあるロック解除ノブ ② を矢印の方向に押しながらボンネットを開きます。

ℹ 開いた位置から押し上げると、ボンネットをさらに開くことができます。

ボンネットを閉じる

▶ ボンネットを引き下げ、グリル上部から約 20cm ～ 30cm の位置で手を放して閉じます。

▶ 完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。

⚠ **事故のおそれがあります**

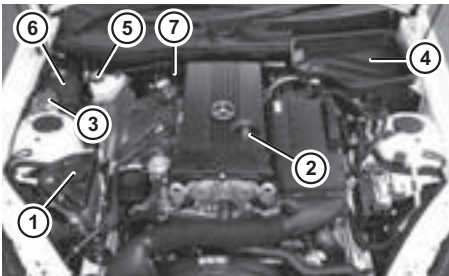
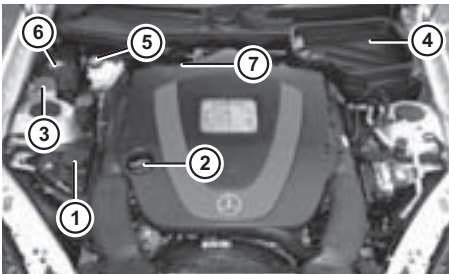
走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

ボンネットを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。

! エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じると、ボンネットが変形するおそれがあります。

! 盗難防止警報システム装備車では、ボンネットが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

エンジンルーム

SLK 200

SLK 350（右ハンドル車）
※左ハンドル車の④⑤⑥は左右対称の位置にあります。

①	冷却水リザーブタンク	172
②	エンジンオイルフィラーキャップ	171
③	ウォッシャー液リザーブタンク	175
④	バッテリー（バッテリーカバーの下）	253
⑤	ブレーキ液リザーブタンク	174
⑥	ヒューズボックス	261
⑦	エンジンオイルレベルゲージ	170

エンジンルーム内の点検

エンジンルーム内の各所を点検するときは以下の事項を厳守してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

- イグニッションシステムやバイキセノンヘッドランプ * のバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧が発生しているため、感電するおそれがあります。
- エンジンスイッチからキーを抜いても、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部には身体や物を近付けないでください。

環　境

環境保護のため、オイルなどの各種の油脂類やフルード類の交換・廃棄は、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で行なってください。

エンジンルーム内の手入れ

手作業で拭いてください。火傷や感電をしないように注意してください。

エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

日常の取り扱い

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! エンジンや補器類の熱や動きに十分注意してください。火傷やけがをするおそれがあります。

! ラジエターに手を触れないでください。火傷やけがをするおそれがあります。

! 作業は安全な場所で行なってください。

! 適切な工具を使用してください。

! 部品や工具をエンジンの上など、エンジンルーム内に置かないでください。中に落とすおそれがあります。

! 油脂類やフルード類は、十分注意して取り扱ってください。万一、目に入った場合は、すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

! 油脂類やフルード類が皮膚に付着したときは、すぐに石けんで洗い流してください。放置すると皮膚に障害を起こすおそれがあります。

! 油脂類やフルード類の容器は、子供の手が届くところや火気の近くに保管しないでください。

V ベルト

自動調整式のため、調整の必要はありません。

亀裂や損傷がないか点検してください。

エンジンオイル

車の使用状況により、1,000km につき最大で約 0.8 リットルのエンジンオイルが消費されます。

慣らし運転中のエンジンオイル消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

! 運転前に必ずエンジンオイル量を点検してください。

! マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷212 ページ）をご覧ください。

! エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給または交換してください。

エンジンオイル量の点検

SLK 350

▶ 水平な場所に停車します。

▶ エンジンを始動させ、エンジンオイルを温めます。

▶ エンジンを停止して、約 5 分ほど待ちます。

エンジンオイルが温まる前にエンジンを停止したときは、約 30 分以上待ちます。

▶ エンジンオイルレベルゲージ ① を抜き取り、きれいに拭いていっぱいまで差し込みます。

▶ 再度エンジンオイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイル量と汚れ具合を点検します。

エンジンオイル量はエンジンオイルレベルゲージの上限（max）② と下限（min）③ の間にあれば正常です。

▶ エンジンオイルが下限以下のときは、エンジンオイルフィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを規定の量まで補給します。

ⓘ エンジンオイルレベルゲージの上限と下限の間は、SLK 200 が約 1.5 リットル、SLK 350 が約 2 リットルです。

エンジンオイルを補給する

SLK 200

⚠ **火傷のおそれがあります**

エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンが熱いときにオイルが付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

▶ エンジンオイルフィラーキャップ ① を反時計回りにまわして取り外します。

▶ 指定のエンジンオイルを補給します。

安全に十分注意して、作業を行なってください。

! エンジンオイル量が多すぎると、エンジンや触媒を損傷するおそれがあります。

▶ エンジンオイルフィラーキャップ ① を補給口に合わせ、時計回りにまわして取り付けます。

環　境

環境保護のため、エンジンオイルを地面や排水溝などに流さないでください。

冷却水

⚠ **火傷のおそれがあります**

- 冷却水の温度が少しでも高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して、火傷をするおそれがあります。
- 不凍液をエンジンルームにこぼさないようにしてください。熱くなったエンジンに不凍液が付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

冷却水の量を点検する

▶ 水平な場所に停車します。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ マルチファンクションディスプレイの冷却水温度画面（▷110 ページ）で、冷却水が冷えていることを確認します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ リザーブタンク ① のキャップ ② を反時計回りにゆっくりと約 1 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ ② をさらに反時計回りにゆっくりとまわして取り外します。

冷却水の液面がリザーブタンク ① 内のバー ③ の上面に達していれば適量です。水温が高いときは約 15mm ほど液面が高くなります。

! 冷却水の減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水を補給する

冷却水が不足している場合は、リザーブタンクに補給します。

▶ 液面の高さに注意して冷却水を補給します。

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域（最低気温）によって濃度を変えます。

▶ キャップ ② を補給口に合わせ、時計回りに停止するまでまわして、確実に取り付けます。

! 冷却水の補給は、冷却水が冷えているときに行なってください。

! 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。

! 指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。

! 不凍液は塗装面を損傷させます。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

! マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する警告メッセージ（▷210、211 ページ）が表示されたときは、オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。

詳しくはメルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときの症状

- 冷却水温度が約 120℃以上を示している。
- マルチファンクションディスプレイに " ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾃｲｼｬ ｼﾃ、ｴﾝｼﾞﾝ ｦ ﾃｲｼ !" などの故障 / 警告メッセージが表示される。
- エンジンルームから蒸気が出ている。

⚠ **火災のおそれがあります**

エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときは、ただちにエンジンを停止し、冷えるまで車から離れてください。漏れた液体が発火して火災が発生するおそれがあります。

⚠ **火傷のおそれがあります**

冷却水温度が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して火傷をするおそれがあります。

! オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。

! オーバーヒートしたときは必ずメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときの対処方法

▶ ただちに安全な場所に停車します。

▶ エンジンをアイドリング状態で冷却します。

エンジンファンが停止しているときや、冷却水が吹き出しているときは、エンジンを停止して冷却してください。

▶ エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、エンジンファンなどを点検します。

▶ 冷却水が不足しているときは補給します（▷172 ページ）。

! 冷却水は、エンジンが熱いときに補給しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

ブレーキ液

⚠ **事故のおそれがあります**

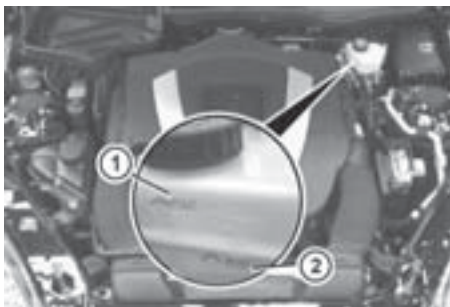
- マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり、ブレーキ警告灯（▷191、217 ページ）が点灯したときは、むやみにブレーキ液を補給しないでください。補給によって故障が解消することはありません。

  安全な場所に停車して、メルセデス·ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
- 必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混ぜると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

⚠ **火傷や火災のおそれがあります**

ブレーキ液の補給は、エンジンが冷えてから行なってください。また、上限を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液がエンジンや排気系部品などに付着すると、発火して火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷210 ページ）をご覧ください。

ブレーキ液の量を点検する

左ハンドル車

※ 車種や仕様によりレベルインジケーターの位置が異なります。

▶ ブレーキ液リザーブタンクのレベルインジケーターで点検します。

ブレーキ液の液面が、ブレーキ液リザーブタンクのレベルインジケーター上限 ① と下限 ② の間にあれば正常です。

! ブレーキ液の減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス·ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ブレーキ液の交換

定期的にメルセデス·ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。詳しくはメルセデス·ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! ブレーキ液の補給や交換は、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! 補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

! レベルインジケーターの上限を超えて補給すると、走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

! ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

i **ベーパーロック**：長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

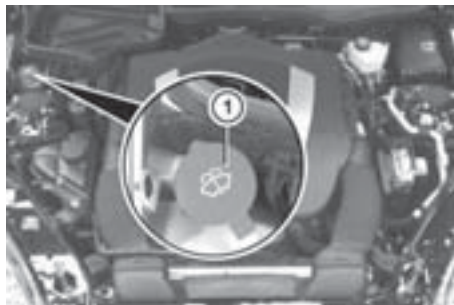
ウォッシャー液

⚠ 火災のおそれがあります

ウォッシャー液は可燃性です。火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。また、エンジンが熱くなっているときには補給しないでください。

i ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー * 液のリザーブタンクは共用です。

i ウォッシャー液には夏用と冬用の 2 種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウォッシャー液を補給する

▶ リザーブタンクのキャップ ① を開いて補給します。

使用するウォッシャー液

専用の純正ウォッシャー液を水に混ぜて使用します（▷271 ページ）。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

! 粗悪なウォッシャー液や石けん水を使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

! ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷213 ページ）をご覧ください。

タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。詳しくはメルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ 事故のおそれがあります

- 純正品および承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、ブレーキシステムやサスペンションを損傷したり、事故を起こすおそれがあります。
- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が現われたら、すぐに交換してください。タイヤの溝の深さが約 3mm 以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

- 必ず規定の空気圧を守ってください。燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷178 ページ）。
- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。
- ホイールボルトはホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。

! ホイールやタイヤの選択を誤ると、車全体のバランスに影響し、安全性に支障をきたすおそれがあります。

! 装着するタイヤは指定されたサイズ、および 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。サイズや銘柄が異なると、車両操縦性に悪影響をおよぼし、事故を起こすおそれがあります。

! 回転方向が指定されているタイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

応急用スペアタイヤには回転方向の指定はありません。

! 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

! 純正品または承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、道路運送車両法違反になることがあります。

! 摩耗具合にかかわらず、6 年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

応急用スペアタイヤも同様に交換してください。

! タイヤおよびホイールのサイズが前後で異なるため、タイヤローテーションは行なわないでください。前後のタイヤを入れ替えると走行安定性や車両操縦性が確保できません。

! トレッドがひどく摩耗したタイヤでは、濡れた路面を走行しないでください。タイヤのグリップが著しく低下し、ハイドロプレーニング現象を起こすおそれがあります。

! タイヤ / ホイールは、オイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

i 新品のタイヤを装着したときは、走行距離が約 100km を超えるまでは速度を控えて運転することをお勧めします。

タイヤの点検

▶ タイヤ空気圧ゲージを使用するか、タイヤ接地部のたわみ状態（別冊「整備手帳」参照）を見て、空気圧が適切であることを点検します。

▶ タイヤに大きな傷がないこと、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないことを点検します。

▶ タイヤが偏摩耗を起こしたり、極端にすり減っていないことを点検します。スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が出ているときは、新しいタイヤに交換します。

! ほこりの侵入や水分の浸入を防ぎバルブを保護するため、ホイールバルブのキャップを必ず装着してください。また、市販のタイヤ空気圧計測装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。

! タイヤに空気を入れても、すぐに空気圧が低下するときは、パンクやホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどのおそれがあります。ただちにメルセデス·ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! タイヤの摩耗は均一ではありません。タイヤの摩耗を点検するときは、必ずタイヤの内側も点検してください。

! タイヤのトレッドやサイドウォールがひどくすり減ったり、傷が付いているときは交換してください。

走行時の注意

- タイヤやホイールが損傷しているときは、振動や騒音が発生したり、ステアリングが不自然な動きをすることがあります。このようなときはただちに安全な場所に停車して、タイヤとホイールを点検してください。

  異常が見つからないときも、メルセデス·ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- 路面の段差などを乗り越えるときは、速度を落とし、注意して走行してください。タイヤやホイールを損傷するおそれがあります。
- 駐車時は、タイヤやホイールが縁石に接触しないようにしてください。

  また、縁石を乗り越える必要があるときは、縁石に対してタイヤをできるだけ直角にしてください。タイヤを損傷するおそれがあります。

タイヤを清掃するとき

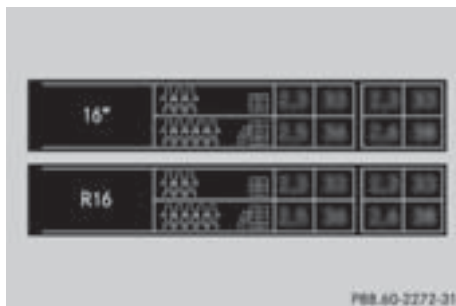
- タイヤを清掃するときは、高圧式スプレーガンなどを使用しないでください。タイヤを損傷するおそれがあります。
- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルト、ブレーキディスクが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。

タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベルの例

タイヤ空気圧ラベルは燃料給油フラップ裏側に貼付されています（▷165ページ）。

装着されているタイヤのサイズや乗車人数、荷物の量などに応じたタイヤ空気圧が記載されているときは、それらに応じて、前輪と後輪の空気圧を調整してください。

単位は「bar（≒ kg/cm²）」と「psi」で示しています。

タイヤ空気圧ラベルの例

タイヤサイズの代わりに、"**16"**" や "**R16**" などのホイール外径で表示されていることもあります。

※ タイヤ空気圧ラベルは車種により異なります。

タイヤサイズ表示の例

ホイール外径 ① はタイヤのサイドウォールのタイヤサイズ表示に記載されています。

⚠ 事故のおそれがあります

- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。また、タイヤ空気圧警告システムが正しく作動しなくなったり、車両操縦性に悪影響をおよぼすおそれがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

市販のタイヤ空気圧計測装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。

それらを装着すると、バルブが常に開いた状態になるため、空気圧減少の原因になります。

環　境

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

! 必ず法定速度を守って走行してください。

! 周囲の気温が約 10℃変化すると、タイヤ空気圧は約 0.1bar 変化します。タイヤ空気圧を点検するときは周囲の気温に注意してください。

ℹ "up to 210km/h" の表示がある場合は、"up to 210km/h" の空気圧に調整してください。

ℹ 日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず点検を行なってください。

ℹ 走行した直後や炎天下のようにタイヤ自体が高温になっているときは、約 0.3bar ほど空気圧が高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。

ℹ 応急用スペアタイヤの空気圧は、応急用スペアタイヤの側面またはホイールに記載されています。

タイヤ空気圧警告システム画面

4 輪すべてのタイヤの回転速度をモニターし、タイヤ空気圧が低下することにより他のタイヤとの回転速度に差が生じると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージを表示します。

タイヤ空気圧警告システムは、以下のような状況では、作動しない場合や警告が遅れることがあります。

- カーブを曲がっているとき
- 加速または減速をしているとき
- 砂地や舗装されていない地面などの滑りやすい路面を走行しているとき
- 積雪路や凍結路などを走行しているとき
- スノーチェーンを装着しているとき
- ルーフや車内に重い荷物を積んで走行しているとき

⚠ **事故のおそれがあります**

- 空気の入れすぎなど、誤ったタイヤ空気圧の調整に対しては警告が行なわれません。燃料給油フラップの裏側にあるタイヤ空気圧ラベルを参照し、必ず規定の空気圧に調整してください。
- タイヤ空気圧警告システムは、複数のタイヤから同量の空気が漏れた場合などは検知できません。また、タイヤ空気圧の点検を行なうシステムではありません。
- 急激な空気圧低下（タイヤに異物が貫通した場合など）に対しては警告を行なうことができません。このときは、急ブレーキや急ハンドルを避け、しっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。

タイヤ空気圧警告システムを再起動する

以下のときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動させてください。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- ホイールやタイヤを交換したとき
- 新しいホイールやタイヤを装着したとき

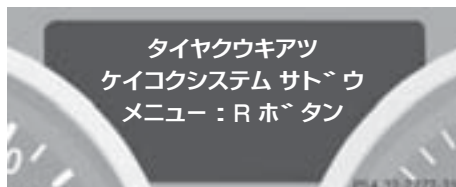
▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動する前に、燃料給油フラップの裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベル（▷178 ページ）を参照して、すべてのタイヤが、適正な空気圧に調整されていることを確認してください。

⚠ 事故のおそれがあります

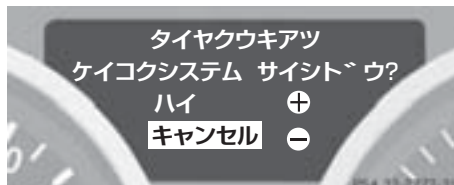
タイヤ空気圧警告システムは、タイヤ空気圧が適正に調整されていないときは、正常に作動しません。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

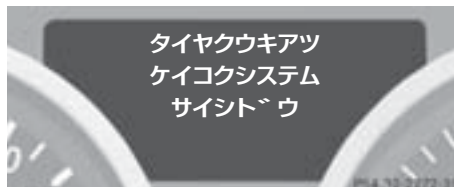
▶ ⊟ または ⊟ を押して、車両情報メイン画面を表示させます（▷109 ページ）。

▶ △ または ▽ を押して、タイヤ空気圧警告システム画面を表示させます。

"タイヤクウキアツ ケイコクシステム サドゥ メニュー：R ボタン" と表示されます。

ℹ マルチファンクションディスプレイに "タイヤクウキアツ ケイコクシステム イグニッションオン デ シヨウカノウ" と表示されたときは、エンジンスイッチを **2** の位置にしてください。

▶ リセットボタン（▷105 ページ）を押します。

マルチファンクションディスプレイに "タイヤクウキアツ ケイコクシステム サイシドウ ?" と表示されます。

ℹ マルチファンクションディスプレイに "タイヤクウキアツ ケイコクシステム サイシドウ ?" と表示されてから、約 15 秒経過すると、再起動は中断されます。

▶ ＋ を押して、"ハイ" を反転表示にします。

マルチファンクションディスプレイに "タイヤクウキアツ ケイコクシステム サイシドウ" と表示されます。

数秒後に、タイヤ空気圧警告システムが作動を始めます。

日常の取り扱い

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

寒冷時の取り扱い

寒冷時の注意

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

メルセデス･ベンツ指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることやバッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温度に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

ウィンタータイヤ / スノーチェーン

積雪地域では、ウィンタータイヤ、スノーチェーンが必要です(▷184、185、275 ページ)。

スノーチェーンは、Daimler AG の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地方の場合、少なくとも 1 年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやトランクの凍結

ドアやトランクが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを損傷しないように注意してください。
- ドアやトランクが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやトランクを開こうとすると、周囲の防水シールを損傷するおそれがあります。

- ドアウインドウが凍結しているときは、ドアを開いたときにドアウインドウは下降しません。

  このときは、無理にドアを閉じないでください。ドアやウインドウ、シール部などを損傷するおそれがあります。

ボディ下側の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり凍結していると、ボディを損傷したり、ステアリング操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着し、ステアリング操作ができなくなるおそれがあります。休憩時もこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフなどが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

また、ドアミラーは手で動かさないでください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を落としてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入してくるおそれがあります。

⚠ 中毒のおそれがあります

マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンをかけていると、排気ガスが車内に入り一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、セレクターレバーを P に入れ、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないように心がけてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

ウィンタータイヤ

雪道や凍結路を走行するときや外気温度が約 7℃以下のときは、ウィンタータイヤの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤを装着することで、ABS や ESP® の効果が発揮されます。

装着するウィンタータイヤは、指定されたサイズで 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください（▷275 ページ）。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ウィンタータイヤの溝の深さが約 4mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。
- ウィンタータイヤの装着時に、応急用スペアタイヤを装着すると、車両操縦性や制動性能が大きく低下するので注意してください。

  スペアタイヤは応急的に使用し、できるだけ早くウィンタータイヤに戻してください。

! 回転方向が指定されているウィンタータイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

! ウィンタータイヤを装着していても、雪道や凍結路面では、クルーズコントロールは使用しないでください。

! ウィンタータイヤを外した後は、タイヤ / ホイールをオイルやグリース類、燃料の付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

ℹ ウィンタータイヤについて、詳しくはメルセデス·ベンツ指定サービス工場におたずねください。

スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着します。

スノーチェーンは、Daimler AG の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

! スノーチェーンは必ず後輪に装着してください。

! スノーチェーン装着時は 50km/h 以下の速度で走行してください。

! 指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。

! スノーチェーンの脱着は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。

! 路面に雪や凍結がなくなったときや、必要のなくなったときは、すみやかにスノーチェーンを外してください。

! 標準タイヤ / ホイールにはスノーチェーンを装着しないでください。

! 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。

! 前輪にはスノーチェーンを装着しないでください。ボディやフェンダーの内側またはサスペンションなどに接触して、タイヤや車両を損傷するおそれがあります。

i スノーチェーン装着中は、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

i スノーチェーンについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

雪道や凍結路面の走行

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。

安全な走行と車両操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 走行モードをCモードに切り替えてください （▷98 ページ）。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などは避けてください。
- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

⚠ **事故のおそれがあります**

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

走行時の注意

エンジン

⚠ **事故のおそれがあります**

エンジンが停止しているときは、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

走行中はエンジンを停止しないでください。

ブレーキ

⚠ **事故のおそれがあります**

- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失い、車がスリップするおそれがあります。
- 長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。エンジンブレーキを併用しないでブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなり停車できなくなるおそれがあります。

⚠ **火災のおそれがあります**

ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

新車時または交換した新品のブレーキパッドは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。最初の数百 km までは、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。

! ブレーキが過熱している状態では、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。

! 水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

! 必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

! ブレーキシステムを改造したり、スペーサーやブレーキダストシールドなどを使用しないでください。

! 高速道路を走行しているときなど、ブレーキをかけずに長時間走行していると、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら、ブレーキペダルを軽く踏んでください。

i 急ブレーキなどでブレーキに大きな負担をかけた後は、ブレーキディスクが冷えるまでしばらく走行を続けてください。

ⓘ 長い急な下り坂では、ティップシフトでギアレンジを 3、2、1 にして、エンジンブレーキを効かせてください。ブレーキの過熱や過度の摩耗を防ぐことができます。

(!) ブレーキ警告灯

エンジンスイッチを **2** の位置にすると点灯し（点灯しないときは、警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後もパーキングブレーキを効かせているときは、点灯したままになります（エンジンスイッチが **1** の位置のときも点灯したままになります）。

パーキングブレーキを解除しても消灯しないときや、エンジンがかかっているときに点灯する場合は、ブレーキ液が不足しています。安全な場所に停車し、メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液またはブレーキパッドに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷210 ページ）をご覧ください。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないようにおだやかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッションや駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保し、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドランプを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

エンジンブレーキの活用

下り坂が続くときは、エンジンブレーキを活用してください。ブレーキペダルを長時間踏み続けると、ブレーキディスクが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

ⓘ **エンジンブレーキ：**走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。

低いギアのときほど効きが強くなります。

滑りやすい路面

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。

水たまりの通過後

水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

雪道や凍結路面の走行

走行安全性を維持するため、雪道や凍結路では、乾燥した路面を走行するときよりも低い速度で走行しなければなりません。

外気温度が低いときは、路面の状態に十分注意して走行してください。

路面が凍結しているときは、ブレーキ時にタイヤと路面の間に薄い水の層が形成され、タイヤのグリップが大きく低下します。

スタック（立ち往生）したとき

- ぬかるみなどでタイヤが空転したり脱輪した状態から脱出するときは、タイヤを高速で空転させないでください。脱出直後に車が急発進し、事故を起こすおそれがあります。

  また、タイヤを高速で空転させると異常な過熱が起こり、タイヤの破裂や火災などの事故が起きたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- スタックした状態から脱出するときは、タイヤ前後の土や雪などを取り除いたり、タイヤの下に板や石などをあてがうと効果的です。

道路冠水や車が水没したとき

- 冠水した道路を走行するときに許容されている最大水深は約12cmです。
- 波が立たないような速度で走行してください。
- 車が水没した場合は、水が引いた後でもエンジンを始動せずに、メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
- 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したときやマルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されたとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯や故障 / 警告メッセージが消灯しないときは、メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。そのまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止してメルセデス·ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

駐停車するとき

駐車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやセレクターレバー、シートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、ウインドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。
- フロントウィンドウやボンネットの周囲に枯れ葉や異物がある場合は、必ず取り除いてください。

  車両下部の排水溝が目詰まりを起こし、車内に水が浸入するおそれがあります。

雪が降っているときは

車の周囲が雪で覆われているときは、雪を取り除いてからエンジンを始動してください。積雪によりマフラーがふさがれ、排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

急な坂道では

急な坂道で駐車するときは、セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして、前輪を歩道方向に向けてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出して事故を起こすおそれがあります。

また、アクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

雨降りや濃霧時の運転

雨降りや濃霧時の注意事項

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、路面が濡れて滑りやすく視界も悪くなります。以下の点に注意して、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいので、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。

  また、見通しが悪いので歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分にとってください。
- 濡れた路面では急激なエンジンブレーキを効かせないでください。滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 路面が濡れているときは、クルーズコントロールは使用しないでください。
- 水たまりの通過後や激しい雨の中で長時間ブレーキを使用しないで走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。またはエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドランプやフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドランプを上向きで点灯させると、雨や濃霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するので、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転するためには、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。メルセデス･ベンツ指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

Daimler AG 指定の点検整備

Daimler AG の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。

1 年および 2 年点検整備

1 年、2 年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。

次の点検時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。

詳しくはメルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

整備手帳

車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

日常点検

長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、日常、車を使用するときにお客様ご自身の判断で実施していただく点検です。

点検項目は整備手帳に記載されています。

日常点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

メンテナンスインジケーター画面

走行距離や経過時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

メンテナンスインジケーター画面が表示されたときは、メーカー指定点検整備を行なってください。

! メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量表示やエンジンオイル量の警告表示ではありません。

! メーカー指定点検整備を実施時期までに行なわなかった場合は、保証などの対象外になることがあります。

自動表示機能

次のメーカー指定点検整備の約 1 カ月前になると、エンジンスイッチを **2** の位置にしたときやエンジンがかかっているときに、メンテナンスインジケーター画面が自動的に表示されます。

画面は数秒後に表示前の画面に戻ります。

表示中に画面を戻すときは、リセットボタン（▷105 ページ）を押します。

ⓘ メンテナンスインジケーターが自動的に表示される時期は、運転スタイルや走行距離などにより変わります。

エンジン回転数を適度に保ち、短距離短時間の運転を避けると、次のメーカー指定点検整備の実施時期までの走行距離が伸びることがあります。

手動表示

メンテナンスインジケーター画面は手動でも表示できます。

▶ エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にします。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報メイン画面を表示させせます（▷109 ページ）。

▶ [△] または [▽] を押して、メンテナンスインジケーター画面を表示させせます。

表示メッセージ

表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように変化します。# には A から H までのアルファベットが入ります。

点検整備実施前の表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｱﾄ XX ﾆﾁ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｱﾄ XX km"

点検整備実施時期になったときの表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｳｹﾃｸﾀﾞｻｲ !"

点検整備実施時期を過ぎたときの表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # XX ﾆﾁ ｦ ｺｴﾏｼﾀ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # XX km ｦ ｺｴﾏｼﾀ "

点検整備実施時期を過ぎたときは、警告音も鳴ります。

ⓘ 走行速度の表示単位を切り替えると、メンテナンスインジケーター画面に数秒間 " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ ﾋｮｳｼﾞ ﾃﾞｷﾏｾﾝ " と表示されることがあります。

ⓘ " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A"、" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B" など、" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ " の後に表示される "A" から "H" のアルファベットは、次回のメーカー指定点検整備の範囲が、点検項目の少ない点検整備から総合的な点検整備まで、どれに該当するかを示すものです。ただし、日本では法定点検があるため、これらの範囲は該当しません。

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A ＋ "、" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ＋ " など、"A" から "H" のアルファベットの後に " ＋ " の表示があるときは、ブレーキ部品交換などの点検整備が含まれていることを示します。

ブレーキパッドは次回のメンテナンス以前に摩耗の限界に達することがあります。ブレーキパッドの交換については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で相談の上、以下のように対処してください。

- 今回のメーカー指定点検整備で交換する
- 後日に別途交換する

バッテリーの接続を外している間の経過日数は、加算されません。

メンテナンスインジケーターのリセット

メーカー指定点検整備後に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットしてください。

リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、走行距離では 15,000km、日数では 365 日に設定されます。いずれか先に達する距離または時期を次回のメーカー指定点検整備時期として表示します。

! メンテナンスインジケーターの表示などに異常があるときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

日常の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも車を美しく保つことができます。

日常の手入れには、Daimler AG が指定する用品のみを使用してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ 中毒や火災のおそれがあります

一部の合成クリーナーなどには、有機溶剤や可燃性物質が含まれていることがあります。カーケア用品を使用するときは、必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示に従ってください。

車内でカーケア用品を使用するときはドアやドアウインドウを開き、十分に換気してください。有機溶剤による中毒を起こしたり、静電気が可燃性ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。

車の手入れをするときに、燃料やシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。

カーケア用品は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり保管しないでください。

外装

- 走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
- 少なくとも月に 1 度は洗車してください。
- 飛び石により塗装面を損傷すると、錆の原因になります。早めに補修を行なってください。
- 保管や駐車は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をお勧めします。
- 泥や虫の死がい、鳥のふん、樹液、油脂類、燃料およびタールなどが付着したときは、すみやかに拭き取ってください。特に、鳥のふんは塗装面を損傷しやすいので、できるだけ早く水で洗い流してください。
- 凍結防止剤が散布してある道路を走行したときは、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダー内を洗い流してください。
- 直射日光が強く当たる場所や走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ボディの表面にステッカーやフィルム、マグネットなどを貼り付けないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 誤って傷を付けたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、早めにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で補修することをお勧めします。

洗車

▶ ボディ全体に低圧で水をかけ、ほこりなどを洗い流します。

▶ 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を用意し、車全体にかけます。外気取り入れ口付近では少量にし、ダクト内に洗浄液が残らないようにします。

▶ スポンジやセーム皮などを使用して、十分な量の水で洗い流します。

▶ 洗車後は、すみやかに水滴を拭き取ります。

洗車時の注意

洗車をするときは、以下の点に注意してください。

- 洗車をするときはマフラーに注意してください。マフラー後端に触れて火傷をしたり、けがをするおそれがあります。
- 水が凍るような寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。
- 虫の死がいなどは、洗車前に取り除いてください。
- コールタールやアスファルトの汚れは、乾いてしまうと落としにくくなるので、早めに処理してください。
- 走行した直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ディスクを損傷するおそれがあります。

- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルトが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドなどを乾燥させてください。

自動洗車機の使用

⚠ 事故のおそれがあります

自動洗車機で洗車した後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ブレーキディスクやブレーキパッドが乾くまでは、十分注意して走行してください。

自動洗車機で洗車するときは以下の点に注意してください。

- 高圧洗浄を行なう自動洗車機は、使用しないでください。ドアやバリオルーフなどから水漏れを起こすおそれがあります。
- 車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。
- 自動洗車機が車のサイズに合っていることを確認してください。
- ドアウインドウとバリオルーフが完全に閉じていることを確認してください。
- 洗車前にドアミラーを格納してください。
- ワイパーを停止してください（▷87ページ）。
- 回転ブラシのかたさによっては、細かな傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。
- 洗車後は、フロントウインドウやワイパーブレードに付着した洗浄液を拭き取ってください。

高圧式スプレーガンの使用

- 高圧式スプレーガンのノズルは、車から十分離して使用してください。水圧が高すぎると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをウインドウガラス接合面やボディパネルの継ぎ目部分、サスペンション、電気装備、コネクター類などに近付けないでください。水圧が高いため、車内に水が浸入したり、防水シールや塗装面を損傷するおそれがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷するおそれがあります。

マットペイント塗装車の取り扱い

マットペイント塗装車は、艶消しクリアコートで塗装されています。

非常にデリケートな塗装のため、日常の手入れなどで独特の質感を損なうおそれがあります。詳しくはメルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 塗装面を磨かないでください。また、塗装面の手入れには、ワックスや研磨剤、光沢剤のようなペイント保護剤は使用しないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! 塗装面に汚れが付着したときは、すみやかに取り除いてください。

! 樹脂類や油脂類などを塗装面に付着したままにしないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ワックスなどの汚れが付着したときは、シリコン除去剤を使用して、軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

! タールなどの汚れが付着したときは、タール除去剤を使用して、軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

! 高圧式スプレーガンやスチームクリーナーは使用しないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。

! 塗装の修復などは、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で行なってください。

自動洗車機の使用

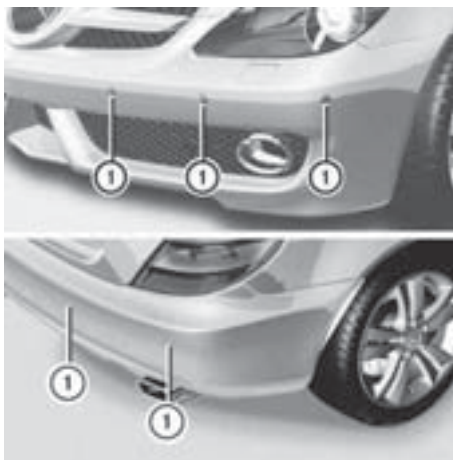
自動洗車機で洗車するときは、ノンブラシ式の自動洗車機を使用してください。また、車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。

! 高温のワックス処理を行なう自動洗車機は使用しないでください。

ランプ類の手入れ

ヘッドランプを含むランプ類は樹脂製レンズです。流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。

! 有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこすらないでください。また、ヘッドランプウォッシャー装備車は必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

パークトロニックセンサー * の手入れ

* オプションや仕様により、異なる装備です。

パークトロニックセンサー①を清掃するときは、流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。

! パークトロニックセンサーを清掃するときは、乾いた布、目の粗い布、かたい布などは使用しないでください。また、純正以外の手入れ用品を使用したり、強い力で乾拭きしないでください。センサーを損傷するおそれがあります。

! パークトロニックセンサーには、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用しないでください。センサーや塗装面を損傷するおそれがあります。

マフラーの手入れ

路面の小石や腐食性のある環境物質などの不純物の影響により、マフラーの表面にサビが発生することがあります。

定期的にマフラーを手入れすることにより、マフラーの輝きを保ち、また元の輝きを取り戻すことができます。

! ホイールクリーナーなど、アルカリ性のクリーナーでマフラーの手入れを行なわないでください。

マフラーの手入れについては、メルセデス·ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車内

- ウインドウに、極細の熱線やアンテナ線がプリントされている車種があります。ガラス面の内側を清掃するときは、湿った柔らかい布を使用して、熱線やアンテナ線に沿って拭き取り、傷を付けないように注意してください。

  また、乾いた布で拭いたり、研磨剤や有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。
- ウインドウに遮光フィルムなどを貼り付けるとラジオなどの電波の受信性能が低下するおそれがあります。詳しくはメルセデス·ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ けがのおそれがあります

清掃するときは、プラスチック部品の端部やシート下部などにあるリンケージやヒンジなどの金属部分が露出した箇所に注意してください。触れるとけがをするおそれがあります。

COMAND ディスプレイの清掃

▶ COMAND システムの電源をオフにします。

ディスプレイが熱くなっているときは、冷えるまで待ってください。

▶ 水で薄めた中性洗剤を含ませた不織布で拭き取ります。

! COMAND ディスプレイを清掃するときに以下のものを使用しないでください。ディスプレイを損傷するおそれがあります。

- アルコール分を含んだ溶剤や有機溶剤、燃料
- 研磨剤を含んだクリーナー
- 家庭用クリーナー

また、強い力で COMAND ディスプレイをこすらないでください。ディスプレイの表面を損傷するおそれがあります。

プラスチックトリムの清掃

⚠ **けがのおそれがあります**

エアバッグの収納部分には、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。エアバッグが正常に作動しなくなり、けがをするおそれがあります。

! プラスチックトリムに、ステッカーやフィルム、芳香剤のボトルなどを貼付しないでください。プラスチックトリムを損傷するおそれがあります。

! プラスチックトリムに、化粧品や防虫剤、日焼け止めなどが付着しないようにしてください。表面の劣化の原因になります。

▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。

▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

表面の色が一時的に変化しますが、乾くと元に戻ります。

ウッドトリムの清掃

▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。

▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

! 有機溶剤を含むクリーナーや研磨剤、ワックスなどは使用しないでください。ウッドトリムを損傷するおそれがあります。

シートベルトの清掃

▶ ぬるま湯か薄めた石鹸水を使用して拭き取ります。

! 化学薬品を含むクリーナーを使用しないでください。また、直射日光に当てたり、80℃以上の温度で乾燥させないでください。

車載品の収納場所

事故・故障のとき

⚠ **火災や爆発のおそれがあります**

燃料などが漏れている場合は、すぐにエンジンを停止してください。また、車に火気を近付けないように注意してください。火災や爆発のおそれがあります。

事故が起きたとき

すみやかに以下の処置をとってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 自動車保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所に停車して、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

車が動かなくなったとき

セレクターレバーを N に入れて、パーキングブレーキを解除し、同乗者や付近の人に救援を求めて、安全な場所まで車を押して移動してください。このときは、車速感応ドアロックによるキーの閉じ込みに注意してください。

セレクターレバーを N に入れられないときは、乗員を安全な場所に避難させ、続発事故を防いでください。

! 踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具を使用してください。

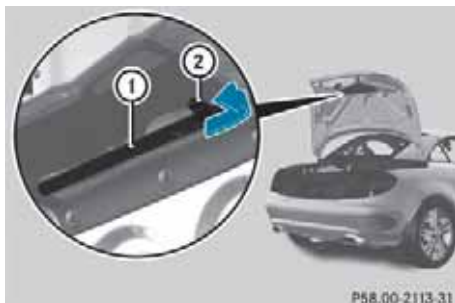
i セレクターレバーを P から動かせないときは、パーキングロックを手動で解除できます。詳しくは（▷229 ページ）をご覧ください。

非常信号用具

懐中電灯を助手席側のドアポケットに備えています。

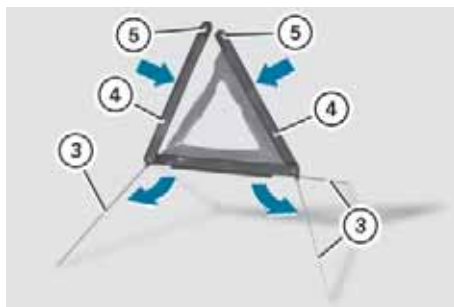
ℹ 新車時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。

ℹ 懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

停止表示板

停止表示板はトランクリッドの裏側にあります。

停止表示板を取り出す

▶ ノブ ② を矢印の方向にまわし、停止表示板ケース ① を取り外します。

▶ ケースから停止表示板を取り出します。

停止表示板を組み立てる

▶ 左右のスタンド ③ を拡げて地面に立てます。

▶ 反射板 ④ を引き出し、頂点 ⑤ をかみ合わせてロックします。

※ 停止表示板の形状が異なる場合があります。

救急セット

左側シート後方の収納ネットまたはトランク内、トランクフロアボードの下に収納されています。

ℹ 救急セットの中身が揃っていて、使用可能であることを定期的に点検してください。

※ 救急セットの収納位置は予告なく変更されることがあります。

車載工具

車載工具や応急用スペアタイヤなどは、トランクフロアボードの下に収納されています。

⚠ けがのおそれがあります

- 車載のジャッキは、この車のタイヤ交換で一時的にジャッキアップするためだけに設計されています。
- ジャッキは、かたくてすべりにくい、水平な場所で使用してください。また、ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした車が落下するおそれがあります。
- ジャッキアップしているときは、エンジンを始動したり、ドアやトランク、バリオルーフを開閉したり、パーキングブレーキを解除しないでください。車が落下するおそれがあります。
- ジャッキに不具合や損傷があるときは使用しないでください。
- 傾斜の急な斜面ではジャッキアップしないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。
- 車が車載のジャッキだけで支えられているときは、決して車の下に身体を入れないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。ジャッキは車を一時的に持ち上げるときだけに使用してください。

① タブ
② トランクフロアマット
③ トランクフロアボード
④ ホール

車載工具を取り出す

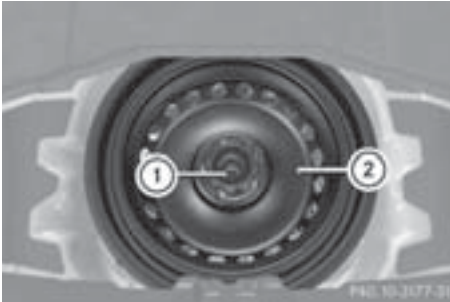
▶ バリオルーフを閉じます。

▶ トランクを開きます。

▶ ラゲッジカバーを開きます。

▶ タブ ① を持ってトランクフロアマット ② をめくり、トランクフロアボード ③ のホール ④ に指をかけて、トランクフロアマットおよびトランクフロアボードを取り出します。

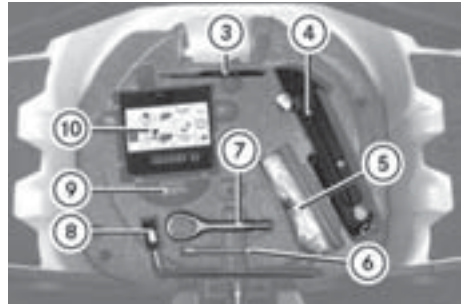
※ トランクフロアマットおよびトランクフロアボードの形状が異なる場合があります。

応急用スペアタイヤが車載されている車種

① スクリュー
② 応急用スペアタイヤ

応急用スペアタイヤと車載工具を取り出す

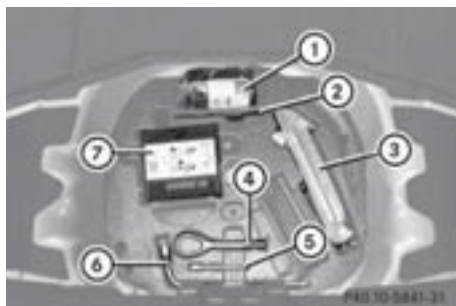
▶ スクリュー ① を反時計回りにまわして取り外します。

▶ 応急用スペアタイヤ ② を取り出します。

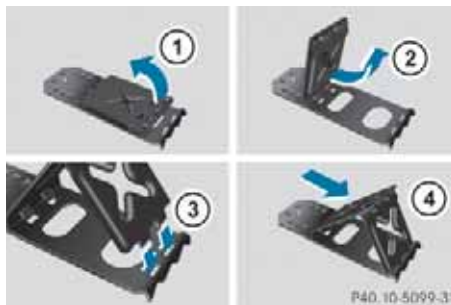
▶ 車載工具を取り出します。

③ 輪止め
④ ジャッキ
⑤ タイヤ収納カバー
⑥ ガイドボルト
⑦ けん引フック
⑧ ホイールレンチ
⑨ バルブリムーバー
⑩ 電動エアポンプ

※ 応急用スペアタイヤ用ホイールボルトは、応急用スペアタイヤのホイールに添付されています。

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、メルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

タイヤフィットが車載されている車種

① タイヤフィット
② 輪止め
③ ジャッキ
④ けん引フック
⑤ ガイドボルト
⑥ ホイールレンチ
⑦ 電動エアポンプ

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、メルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

輪止め

輪止めは車載工具などとともに収納されています。

輪止めは図の順番で組み立てます。

! 輪止めを使用するときは図 ④ の矢印の方向にタイヤがあたるようにします。方向に注意してください。

※ タイヤフィットは、日本仕様には装備されません。

故障 / 警告メッセージ

車の機能やシステムに故障や異常が発生すると、マルチファンクションディスプレイに警告や注意、対応方法などが表示されます。

故障 / 警告メッセージによっては警告音が鳴ることがあります。また、重要度の高いメッセージは、赤色で表示されます。

故障 / 警告メッセージが表示されたときは、以降の指示に従ってください。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 表示される故障や異常は、一部の限られた装備についてであり、また表示される内容も限られています。故障表示の機能は運転者を支援する装置です。発生した故障や異常に対処して車の安全性を維持する責任は運転者にあります。
- メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障した場合は、表示灯 / 警告灯や故障 / 警告メッセージが表示されません。車両操縦性などに悪影響をおよぼすような故障や異常が発生した場合は内容が確認できないため、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
- 走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- 走行する前には必ずエンジンスイッチを **2** の位置にして、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイが表示されることを確認してください。
- 点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

  特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検整備や修理を行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

故障 / 警告メッセージを表示させる

▶ ステアリングの [⊟] または [⊟] スイッチを押して、故障件数画面を選択します。

故障や異常がある場合は、ディスプレイに " コショウ ガ 2" のように故障や異常の件数が表示されます。

故障や異常がない場合は、故障件数画面は表示されません。

▶ [△] または [▽] を押して、故障メッセージ画面を順番に表示させます。

すべて表示されると、故障件数画面に戻ります。

故障 / 警告メッセージの表示を消す

重要度の高いメッセージは消すことができません。故障や異常の原因が解決するまで、故障 / 警告メッセージが繰り返し表示されます。

一部のメッセージは車両に記憶され、手動でメッセージを呼び出すことができます。

メッセージはマルチファンクションステアリングにより消すことができます。

▶ メッセージが表示されているときに、ステアリングの [▭] [▭] や [△] [▽] スイッチまたはリセットボタン（▷106 ページ）を押します。

※ 記載の故障 / 警告メッセージは、取扱説明書作成時点のものです。マルチファンクションディスプレイの表記などは、予告なく変更・追加されることがあります。

文字メッセージ

⚠ 事故やけがのおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

ディスプレイ表示		可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
ABS	ABS ト ESP コショウ マニュアルヲ サンショウ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABS と ESP® が作動しない状態になっている。 BAS も作動しない状態になっている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ESP	ESP ハ ショウ デ゛キマセン マニュアルヲ サンショウ	⚠ **事故のおそれがあります** システムの自己診断が完了していない可能性があるため、一時的に ESP® が作動しない状態になっている。 ABS は作動する。 ブレーキは通常通り作動するが、ESP® は作動しない。 ▶ 約 20km/h 以上の速度で、ゆるやかにカーブしている道路を注意しながら少し走行してください。 メッセージが消えれば、ESP® は待機状態になります。
		⚠ **事故のおそれがあります** 電圧低下のため、ESP® が作動しない状態になっている。BAS の機能も解除されている。 バッテリーが充電されていない可能性がある。 ABS は作動する。 ブレーキは通常通り作動するが、ESP® は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ESP コショウ マニュアルヲ サンショウ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP® が作動しない状態になっている。BAS の機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、ESP® は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ	ﾀｲﾔｦ ﾃﾝｹﾝ！	⚠ 事故のおそれがあります タイヤ空気圧警告システムが、タイヤ空気圧の低下を検知した。 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら、急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。 ▶ タイヤを点検してください。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であればタイヤ空気圧を適正にしてください。 ▶ 必要であれば該当するタイヤを交換するか、タイヤフィットでタイヤを修理してください。 ▶ 適正なタイヤ空気圧に調整するか、タイヤを交換または修理した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷180 ページ）。
ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ﾃﾝｹﾝ	ｿﾉｺﾞ ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ	タイヤ空気圧警告システムの警告が行なわれた。 ▶ すべてのタイヤの空気圧が適正であることを確認してください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷180 ページ）。
ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ	ｼﾖｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ！	タイヤ空気圧警告システムに異常がある。 ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
SRS	SRS ｼｽﾃﾑ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ！	⚠ けがのおそれがあります 乗員保護装置が故障している。 ▶ ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ｸﾙｰｽﾞｺﾝﾄﾛｰﾙ ｵﾖﾋﾞ ｽﾋﾟｰﾄﾞﾘﾐｯﾀｰ	ｺｼｮｳ	クルーズコントロールおよび可変スピードリミッターが故障している。 ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

イラストメッセージ

⚠ **事故やけがのおそれがあります**

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス･ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス･ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

ディスプレイ表示		可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
（トランク開表示）		トランクが完全に閉じていない状態で走行している。 トランクが完全に閉じていない状態でバリオルーフを開閉しようとした。 ▶ トランクを閉じてください。
（ボンネット開表示）		⚠ **事故のおそれがあります** 盗難防止警報システム装備車： ボンネットが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ ボンネットを確実に閉じてください。
（ドア開表示）		いずれかのドアが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ ドアを閉じてください。
（冷却水温表示）		ラジエターの冷却ファンが故障している。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下のときは、最寄りのメルセデス･ベンツ指定サービス工場まで走行することができます。 ▶ このときは、山道での走行などでエンジンに大きな負担をかけたり、発進 / 停止を繰り返すような運転は避けてください。
（バッテリー表示）		Ｖベルトの切断またはオルタネーターの異常により、バッテリーが充電されていない可能性がある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ Ｖベルトを点検してください。 **Ｖベルトが切れているとき** ! 走行を続けないでください。オーバーヒートするおそれがあります。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 **Ｖベルトが損傷していないとき** ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
	ﾌﾞﾚｰｷﾊﾟｯﾄﾞ ﾏﾓｳ	ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。 ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾌﾞﾚｰｷｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ﾃﾝｹﾝ	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾌﾞﾚｰｷ ｶｲｼﾞｮｼﾃｸﾀﾞｻｲ！	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。
	ﾄﾗﾝｸﾙｰﾑ ﾗｹﾞｯｼﾞｶﾊﾞｰｦ ﾄｼﾞﾃｸﾀﾞｻｲ！	ラゲッジカバーが正しくセットされていない状態でバリオルーフを開こうとしている。 ▶ ラゲッジカバーを正しくセットしてください。
	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾃｲｼｬｼﾃ､ ｴﾝｼﾞﾝｦ ﾃｲｼ！	冷却水の温度が高すぎる。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ 雪やほこり、または氷などで、ラジエターへの送風が遮られていないことを確認してください。 ▶ メッセージが消えるまで待ってからエンジンを始動してください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 冷却水温度画面で冷却水温度を点検してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
(冷却水温警告表示)	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾃｲｼｬ ｼﾃ、ｴﾝｼﾞﾝｦ ﾃｲｼ！	V ベルトが切れている可能性がある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ V ベルトを点検してください。 **V ベルトが切れているとき** ! 走行を続けないでください。オーバーヒートするおそれがあります。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 **V ベルトが損傷していないとき** ▶ メッセージが消えるまで待ってからエンジンを始動してください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 冷却水温度画面で冷却水温度を点検してください。 ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
(冷却水量警告表示)	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾎｼﾞｭｳ ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ	冷却水量が不足している。 ▶ 補給時の注意事項を参照しながら、冷却水を補給してください（▷172 ページ）。 ▶ 通常より頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で冷却システムの点検を受けてください。
(ランプ警告表示)	ﾋﾀﾞﾘ ﾛｰ ﾋﾞｰﾑ[1]	左側のヘッドランプ（ロービーム）が切れている。 ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｵｰﾄﾗｲﾄ ｺｼｮｳ	ランプセンサーに異常がある。 自動的に車外ランプが点灯する。 ▶ マルチファンクションディスプレイの各種設定で、ランプを手動点灯に切り替えてください（▷119 ページ）。 ▶ ランプスイッチでランプを点灯 / 消灯してください。
	ﾗｲﾄ ｦ ｹｼﾃ ｸﾀﾞｻｲ！	車外ランプを消灯しないでエンジンスイッチからキーを抜き、運転席ドアを開いた。 ▶ ランプスイッチを 0 の位置にしてください。

1）車種や仕様により、車外ランプいずれかに異常が発生すると、その箇所が表示されます。
他のランプが切れたときは、この例以外のメッセージが表示されます。

ディスプレイ表示		可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
	ｷｭｳﾕ ﾉ ｻｲﾆ ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ﾃﾝｹﾝ	エンジンオイル量が限界まで減っている。 ▶ エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください（▷171 ページ）。 ▶ 通常より頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、エンジンからオイルが漏れていないか点検してください。
	ｲﾝｼﾞｹｰﾀ ｺｼｮｳ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ！	１つ以上の電気システムがマルチファンクションディスプレイに情報を表示できない状態になっている。以下のシステムが故障している可能性がある。 • 冷却水温度計 • タコメーター • クルーズコントロール / 可変スピードリミッター表示 ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｷｰ ｦ ｺｳｶﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	キーが機能しなくなっている。 ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
		燃料の残量がほとんどない。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	ﾈﾝﾘｮｳ ﾘｻﾞｰﾌﾞ	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ﾃｲｼﾁｭｳﾉﾐ ｿｳｻｶﾉｳ ﾃﾞｽ	走行中にバリオルーフを開閉しようとしている。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車してください。 ▶ バリオルーフスイッチを操作してください。
	ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻｶﾞﾘﾏｽ！	油圧装置の圧力が低下し、完全に開閉されていないバリオルーフが倒れ込もうとしている。 ▶ バリオルーフを完全に閉じるか、完全に開いてください。
	ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ﾌﾙｵｰﾌﾟﾝ / ﾌﾙｸﾛｰｽﾞ	バリオルーフが完全にロックされていない状態で走行を開始した。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車してください。 ▶ バリオルーフを完全に閉じるか、完全に開いてください。

ディスプレイ表示		可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
	ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻﾄﾞｳﾁｭｳ ｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ！	バッテリーの電圧が低下している。 ▶ エンジンを始動してください。
		バリオルーフの開閉操作が何度も繰り返されたため、安全のためにルーフの開閉機能が一時的に停止した。 このときは約 10 分後に開閉操作が可能となります。 ▶ エンジンスイッチを **0** の位置にしてから、**2** の位置にするか、エンジンを始動してください。 ▶ バリオルーフスイッチを操作してください。
	ｳｫｯｼｬ ｴｷ ﾎｼﾞｭｳ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ！	リザーブタンクのウォッシャー液量が最低レベルまで減っている。 ▶ ウォッシャー液を補給してください（▷175 ページ）。

トラブルの原因と対応

 事故やけがのおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス･ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス･ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

スイッチやボタンの表示灯 / 警告灯

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
シートヒータースイッチの表示灯が点滅している。 シートヒーターが自動的に停止する。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下している。 ▶ リアデフォッガーやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、シートヒーターは自動的に作動を開始します。
エアスカーフ * が自動的に停止した。 エアスカーフスイッチを押しても作動しない。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下している。 ▶ リアデフォッガーやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 ▶ 再度、エアスカーフスイッチを押してください。
エアコンディショナーの AC スイッチを押しても、表示灯が点灯しなかったり、点滅する。 エアコンディショナーの AC スイッチを押しても、除湿 / 冷房された空気が送風されない。	故障のため、冷房機能が解除されている。 ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
リアデフォッガースイッチの表示灯が点滅している。 リアデフォッガーが短時間で停止する。または作動しない。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下している。 ▶ シートヒーターやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、リアデフォッガーは自動的に作動を開始します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している。	助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートが装着されているため、助手席エアバッグが作動しない状態になっている。
	⚠ **けがのおそれがあります** 上記の理由があてはまらない場合は、チャイルドセーフティシート検知システムが故障している。 エンジンスイッチを **2** の位置にしたときに、SRS 警告灯 [SRS] が点灯するか、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しない。 ▶ 助手席のシート座面に以下のものを置いているときは取り除いてください。 • パソコン • 携帯電話 • 磁気カードや IC カード 電子機器やカードを取り除いても助手席エアバッグオフ表示灯が点灯するとき： ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

メーターパネルの表示灯 / 警告灯

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABS の機能が解除されている。 ESP® と BAS の機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しないため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル		可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
	エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 電圧低下のため、ABS の機能が解除されている。バッテリーが充電されていない可能性がある。 ESP® と BAS の機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しないため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ▶ リアデフォッガーやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、ABS は作動できる状態になります。
	走行中に黄色の ESP® 表示灯が点滅する。	⚠ **事故のおそれがあります** タイヤがグリップを失いかけているか、車が横滑りをしているため、ESP® またはトラクションコントロールが作動している。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESP® の機能を解除しないでください（雪道などでの走行時を除く）。
	エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ESP® の機能が解除されている。 車が横滑りをしたときや車輪が空転したときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができない。 ▶ ESP® を待機状態にしてください(雪道などでの走行時を除く)。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。
	エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯が点灯する。 また、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示される。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP® が作動しない状態になっている。 車が横滑りをしたときや車輪が空転したときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができない。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
SRS	エンジンがかかっているときに赤色のエアバッグシステム警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護装置が故障している。エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。 ▶ ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
走行中に赤色のブレーキ警告灯が点灯し、警告音も鳴った。	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。 警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください ▶ ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージ（▷210 ページ）に従ってください。 ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下に異常がある可能性がある。 • 燃料噴射システム • 排気システム • イグニッションシステム 排出ガスの成分が基準値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。 ▶ すみやかにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯します。 ⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いている。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯します。

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
赤色のシートベルト警告灯が点滅し、警告音も鳴った。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いた状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。 ▶ 安全な場所に停車してから、助手席シートの上に置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

警告音

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
盗難防止警報が作動した。	盗難防止警報システム * が待機状態のときに、運転席ドアまたはトランクをエマージェンシーキーで解錠して開いた。 盗難防止警報システムが待機状態のときに、車内からドアを開くか、ボンネットのロックを解除した。 ▶ キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押してください。 または ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んでください。
警告音が鳴った。	マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示された。 ▶ 故障 / 警告メッセージをご覧ください（▷207 ページ～）。
	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。
	車外ランプを消灯しないでエンジンスイッチからキーを抜き、運転席ドアを開いた。 ▶ ランプスイッチを 0 の位置にしてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
エンジンスイッチを 2 の位置にすると、警告音が約 6 秒間鳴る。	⚠ けがのおそれがあります 運転席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。

事故のとき

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
燃料が漏れている。	⚠ 火災のおそれがあります 燃料供給システム、または燃料タンクが損傷している。 漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがある。 ▶ ただちにエンジンを停止してください。 ▶ エンジンスイッチからキーを抜いてください。 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがあります。 ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
損傷の程度がわからない。	▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
損傷箇所が見当たらない。	▶ 通常通りエンジンを始動してください。

燃料と燃料タンク

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
燃料が漏れている。	⚠ 火災や爆発のおそれがあります 燃料供給システム、または燃料タンクに問題がある。 ▶ ただちにエンジンを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがあります。 ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
燃料給油フラップが開かない。	燃料給油フラップが解錠されていない。 または キーの電池が消耗している。 ▶ リモコン操作で解錠してください。 または ▶ キーの電池を交換してください。
	燃料給油フラップは解錠されているが、開閉機構に異常がある。 ▶ メルセデス·ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジン

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
エンジンが始動しない。 エンジンスイッチを **3** の位置にするとスターターモーターの音がする。	• エンジンの電気システムに異常がある。 • 燃料供給システムに異常がある。 • バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低くなっている。 ▶ エンジンを再始動する前に、エンジンスイッチを **0** の位置に戻してください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。 ただし、エンジン始動操作を長時間何度も行なうと、バッテリーがあがるおそれがあります。 何度始動を試みてもエンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス·ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンが始動しない。 エンジンスイッチを **3** の位置にしてもスターターモーターの音がしない。	バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低下している。 ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷254 ページ）。 エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス·ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	過度の負荷により、スターターモーターが過熱している。 ▶ スターターモーターが冷えるまで、約 2 分間待ってください。 ▶ 再度、始動操作をしてください。 エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス·ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムに異常がある。 ▶ アクセルペダルを踏みすぎないでください。 ▶ ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 触媒を損傷するおそれがあります。
冷却水温度が約 120℃を超えている。	リザーブタンクの冷却水量が不足している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ 周囲の状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車して、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、不足している場合は、補給時の注意を参照しながら、冷却水を補給してください（▷172 ページ）。
	冷却水量が正常なときは、冷却ファンが故障している可能性がある。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下のときは、最寄りのメルセデス･ベンツ指定サービス工場まで走行することができます。 ▶ このときは、山道での走行などでエンジンに大きな負担をかけたり、発進 / 停止を繰り返すような運転は避けてください。

オートマチックトランスミッション

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。 ▶ ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションがエマージェンシーモードになっている。 以下の方法で走行できる場合があります。 ▶ 停車してください。 ▶ セレクターレバーを **P** に入れてください。 ▶ エンジンスイッチを **0** の位置にしてください。 ▶ 約 10 秒以上待ってからエンジンを再始動してください。 ▶ 前進する場合はセレクターレバーを **D** に入れてください。 後退する場合はセレクターレバーを **R** に入れてください。 ▶ ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

パークトロニック *

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯して約 2 秒間警告音が鳴った。 約 20 秒後にパークトロニックが解除され、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯した。	パークトロニックに異常があり、機能が停止している。 ▶ トラブルが続くようであれば、メルセデス･ベンツ指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯して、約 20 秒後にパークトロニックが解除された。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。 ▶ パークトロニックセンサーを清掃してください（▷200 ページ）。 ▶ 再度、エンジンスイッチを **2** の位置にしてください。
	外部の電波や超音波が干渉している可能性がある。 ▶ 場所を変えて、パークトロニックの作動を確認してください（▷137 ページ）。

ヘッドランプ

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
ヘッドランプの内側が曇っている。	外気の湿度が高くなっている。 ▶ ヘッドランプを点灯して走行してください。 しばらく走行すると、ヘッドランプ内側の曇りは取れます。
	ヘッドランプユニットが密閉されていないため、水分が浸入している。 ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場でヘッドランプの点検を受けてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

バリオルーフ

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
バリオルーフが開閉しない。	ラゲッジカバーが開いている状態でバリオルーフを開閉しようとしている。 ▶ ラゲッジカバーを閉じてください。
	トランクが開いている。 ▶ トランクを完全に閉じてください。
	バッテリーの電圧が低くなっている。 ▶ エンジンをかけた状態で開閉操作を行なってください。
	バリオルーフの開閉操作が何度も繰り返されたため、ルーフの開閉機能が自動的に停止した。 このときは約 10 分後に開閉操作が可能になります。 ▶ エンジンスイッチを **0** の位置にしてから、**2** の位置にするか、エンジンを始動してください。 ▶ バリオルーフスイッチを操作してください。
	バリオルーフの開閉機構に異常がある。 ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ワイパー

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
ワイパーが正しく作動しない。	葉や雪など、ウインドウに障害になる物が付着している。 ワイパーモーターの作動が停止している。 ▶ 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ 再度、ワイパーを作動させてください。
ワイパーが作動しない。	⚠ **事故のおそれがあります** ワイパーが故障している。 ▶ コンビネーションスイッチをまわして、別のモードを選択してください（▷87､88 ページ）。 ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。
ウインドウウォッシャー液がフロントウインドウの中央に噴射されない。	ウインドウウォッシャー液の噴射ノズルの角度が適切でない。 ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場で噴射ノズルの角度を調整してください。

ウインドウ

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
ドアウインドウが全閉しない。	ドア内部のガイドレールなどに障害になる物があり、ドアウインドウの上昇を妨げている。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ ドアウインドウが閉じることを確認してください。
	原因が分からない場合。 ▶ ドアウインドウが閉じるまでスイッチを引きます（▷91 ページ）。

ドアミラー

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
ドアミラーが無理に前方 / 後方に曲げられた。	▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ（▷70 ページ）を、ギアが噛み合う音が聞こえるまで押します。

キー

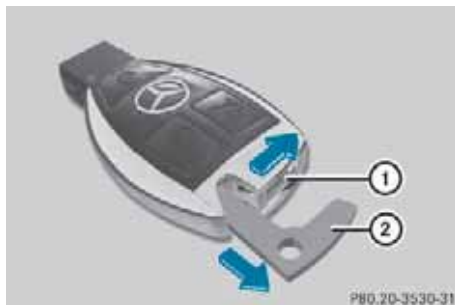
トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
リモコン操作で施錠 / 解錠できない。	キーの電池が消耗している。 ▶ キーの先端を運転席ドアハンドルに向け、至近距離から再度リモコン操作をしてください。 リモコン操作ができないとき： ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを施錠 / 解錠してください（▷227、228 ページ）。 ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください（▷230 ページ）。
	キーに異常がある。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを施錠 / 解錠してください（▷227、228 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
キーを紛失した。	▶ メルセデス·ベンツ指定サービス工場で、紛失したキーを無効にしてください。 新しいキーの入手については、メルセデス·ベンツ指定サービス工場におたずねください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。	▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
エンジンスイッチがまわらない。	エンジンスイッチからキーを抜かずに **0** の位置で長時間放置していた。 ▶ エンジンスイッチからキーを抜き、再度差し込んでください。 ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 ▶ エンジンを始動してください。
エンジンスイッチがまわらない。	バッテリーの電圧が低下している。 ▶ シートヒーターやルームランプなど、必要でない電気装備を停止してから再度エンジンスイッチをまわしてください。 それでもエンジンスイッチがまわらないとき： ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 または ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷254 ページ）。 または ▶ メルセデス·ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

車を使用しないとき

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
エンジンを始動しない期間が約 4 週間以上におよぶとき。	バッテリーが完全にあがると、バッテリーが損傷する可能性がある。 ▶ バッテリーからケーブルを外してください。 ℹ バッテリーの点検はメルセデス･ベンツ指定サービス工場で行なってください。
エンジンを始動しない期間が約 6 週間以上におよぶとき。	車を長期間にわたって使用しないと、不具合が発生する可能性がある。 ▶ 対応について、メルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

非常時の解錠 / 施錠

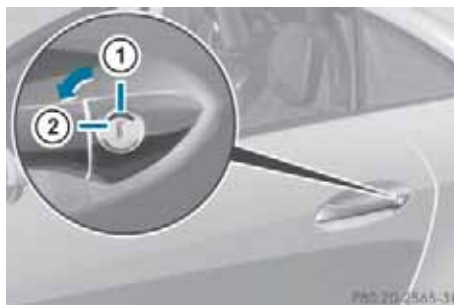
エマージェンシーキー

キーに収納されています。

リモコンが作動しない場合に、運転席ドアを解錠 / 施錠するとき（▷227、228 ページ）やトランクを解錠するとき（▷229 ページ）、トランクを独立施錠するとき（▷61 ページ）に使用します。

エマージェンシーキーを使用する

▶ ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② をキーから引き抜きます。

収納するときは元の位置に差し込みます。

エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠する

左ハンドル車

リモコン操作で車を解錠できないときは、運転席ドアハンドルのキーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込み、解錠できます。

解錠する

▶ エマージェンシーキーを運転席ドアハンドルのキーシリンダーに差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを解錠の位置 ②（前方）にまわします。

ℹ 左ハンドル車は反時計まわりに、右ハンドル車は時計まわりに回します。

運転席ドアのロックノブが上がり、運転席ドアが解錠されます。

▶ エマージェンシーキーを ① の位置にまわして抜きます。

ℹ 助手席ドアハンドルにはキーシリンダーはありません。

! エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠しても、助手席ドア、トランク、燃料給油フラップ、グローブボックス、アームレストの小物入れは解錠されません。

! 盗難防止警報システム装備車では、リモコン操作で施錠した後に、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。警報を停止するには、キーの施錠ボタンか解錠ボタンを押すか、キーをエンジンスイッチに差し込みます。

非常時の車の施錠

左ハンドル車

リモコン操作で車を施錠できないときは、以下の方法で車を施錠してください。

施錠する

▶ 助手席ドアとトランクを閉じます。

▶ 運転席ドアを開いた状態で、ドアロックスイッチ（施錠）（▷58 ページ）を押します。

ドアロックスイッチが作動しないときは、助手席ドアのロックノブを押し込みます。

▶ 車から降りて、運転席ドアを閉じます。

▶ エマージェンシーキーを運転席ドアハンドルのキーシリンダーに差し込み、施錠の位置 ②（後方）にまわします。

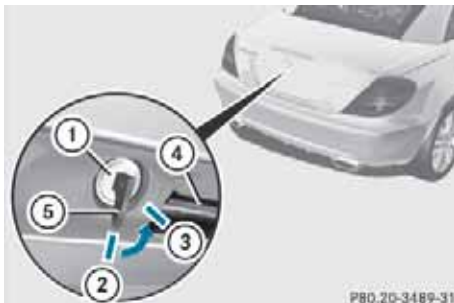
i 左ハンドル車は時計まわりに、右ハンドル車は反時計まわりに回します。

▶ 運転席ドアのロックノブが下がったことを確認します。

▶ エマージェンシーキーを ① の位置にまわして抜きます。

! ドアロックスイッチが作動せず、ロックノブを押し込んで車を施錠したときには、トランクが施錠されていないことがあります。このときは、トランクを独立施錠（▷61 ページ）してください。

! エマージェンシーキーで運転席ドアを施錠しても、助手席ドア、トランク、燃料給油フラップ、グローブボックス、アームレストの小物入れは施錠されません。

エマージェンシーキーでのトランクの解錠

リモコン操作でトランクを開いたり、解錠できないときはエマージェンシーキー（▷227 ページ）で解錠します。

! トランクを開くときは、後方に十分な空間があることを確認してください。

▶ 図のような向きで、トランクのキーシリンダー ① にエマージェンシーキー ⑤ を差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを解錠の位置 ③ にまわします。

▶ ハンドル ④ を引きます。

トランクが開きます。

▶ エマージェンシーキーを ② の位置にまわして抜きます。

! 盗難防止警報システム装備車では、エマージェンシーキーでトランクを解錠して開くと、盗難防止警報が作動します。警報を停止するには、キーの施錠ボタンか解錠ボタンを押すか、キーをエンジンスイッチに差し込みます。

! エマージェンシーキーで解錠したときはトランクを閉じると再び施錠されます。このときは、エマージェンシーキーの閉じ込みに注意してください。

i エマージェンシーキーでトランクを解錠しても、ドア、燃料給油フラップ、グローブボックス、アームレストの小物入れは解錠されません。

パーキングロックの解除

セレクターレバーを P から動かせないときは、以下の方法で動かすことができます。

故障時に車をけん引されるときなどにパーキングロックを解除します。

左ハンドル車
① カバー
② ロック解除ノブ

パーキングロックを解除する

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ カバー ① の左端部を内側にずらしながら持ち上げます。

▶ ロック解除ノブ ② を押し下げながら、セレクターレバーを P から他の位置に動かします。

! セレクターレバーの開口部には角の鋭い部分が露出していますので、けがをしないように十分注意してください。

! この方法でセレクターレバーを動かせないときは、メルセデス·ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! セレクターレバーを動かすことができたときでも、メルセデス·ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

キーの電池交換

リモコンの作動可能範囲が短くなったり作動しない場合は、キーの電池の消耗が考えられます。メルセデス·ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠ **中毒のおそれがあります**

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。子供の手の届かないところに保管してください。

誤って電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

環　境

電池を家庭用ゴミとして廃棄しないでください。電池には非常に強い有毒物質が含まれています。

使用済みの電池は、新しい電池をお買い求めになった販売店に処分を依頼するか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

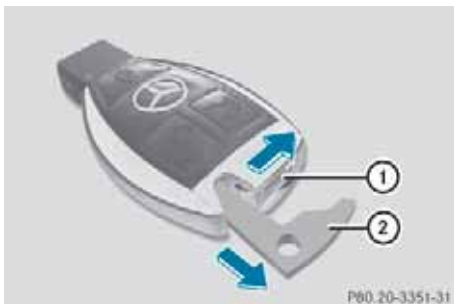
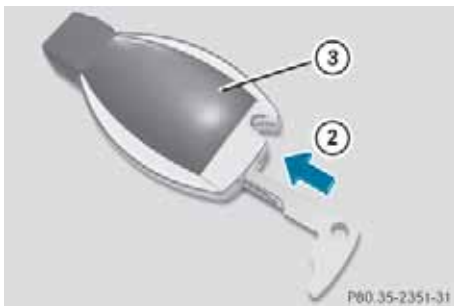
キーの電池を点検する

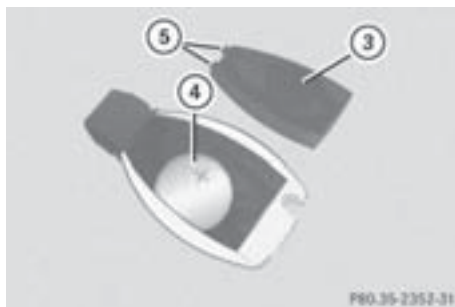
▶ キーのいずれかのボタンを押します。

キーの表示灯が一回点滅すれば電池は正常です。

i キーの電池が消耗したときは、エマージェンシーキーで解錠 / 施錠できます（▷227、228 ページ）。

電池の交換手順

リチウム電池（CR2025 3V）を用意します。

▶ ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② を抜き取ります。

▶ エマージェンシーキー ② を図の位置に差し込み、カバー ③ が浮き上がるまで、エマージェンシーキーを矢印の方向に押します。

ℹ 指でカバー ③ を押さえないようにしてください。カバーが浮き上がりません。

▶ カバー ③ を取り外します。

▶ 電池側が下になるようにキーを手の上に載せて、電池 ④ が外れるまでキーを軽くたたきます。

▶ 電池のプラス（＋）面が見えるようにして、新しい電池を取り付けます。このとき、脂分を含まないきれいな布で電池を持つようにしてください。

ℹ 電池の表面に汚れや脂分が付着していないことを確認してください。

▶ カバー ③ の凸部 ⑤ をキーに差し込んでから、カバーを押してロックします。

▶ エマージェンシーキー ② をキーに収納します。

▶ キーのすべての機能が作動することを確認します。

電球の交換

⚠ **けがのおそれがあります**

- 電球を交換するときは、防護眼鏡や手袋などを着用して、直接手で電球に触れないようにしてください。

  電球は高温になるため、電球の表面に油などが付着すると切れやすくなります。電球に触れたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で電球をよく拭いてください。
- 電球は子供の手の届かないところに保管してください。
- 落下したり、衝撃が加わった電球を使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球が熱くなっているときは、電球に触れたり、電球を取り外さないでください。電球には圧力のかかったガスが封入されているため、破裂するおそれがあります。
- エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、エンジンスイッチが **2** の位置のときは、バイキセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。

  高電圧の発生部分や高温部分があり、それらに触れると非常に危険です。
- バイキセノンヘッドランプのバルブ交換は、必ずメルセデス･ベンツ指定サービス工場で行なってください。その他の電球の交換についても、メルセデス･ベンツ指定サービス工場に作業を依頼することをお勧めします。

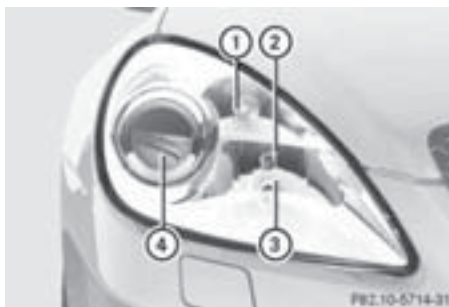
! 指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になります。

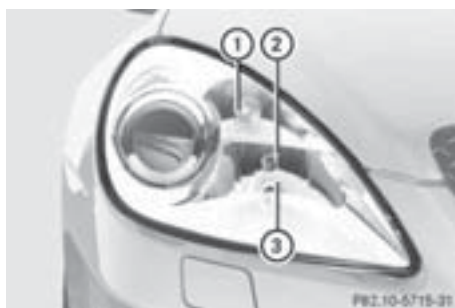
! 電球の交換を行なうときは、車両に装着されている電球の規格を確認してください。

ℹ マルチファンクションディスプレイにランプに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷211ページ）をご覧ください。

お客様自身で交換できる電球は以下の通りです。交換できない場合や、その他の電球の交換については、必ずメルセデス･ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

ヘッドランプ

ハロゲンヘッドランプ装着車

ランプ		ワット数（規格）
①	フロント方向指示灯	21W（黄色）
②	ヘッドランプ（上向き）	55W（H7）
③	車幅灯 / フロントパーキングランプ	5W
④	ヘッドランプ（下向き）	55W（H7）

バイキセノンヘッドランプ装着車

ランプ		ワット数（規格）
①	フロント方向指示灯	21W（黄色）
②	ヘッドランプ（上向き）	55W（H7）
③	車幅灯 / フロントパーキングランプ	5W

テールランプ

ランプ		ワット数（規格）
①	リアフォグランプ（右側のみ）	21W
②	リア方向指示灯	21W（黄色）
③	バックランプ	21W

ライセンスランプ

ランプ		ワット数（規格）
①	ライセンスランプ	5W

ワイパーブレードの交換

⚠ 事故のおそれがあります

ワイパーブレードのゴムが劣化すると、ウインドウの水滴を十分に拭き取れず、視界を妨げて事故の原因になります。

ワイパーブレードは年に 2 回の目安で交換してください。

⚠ けがのおそれがあります

ワイパーブレードを交換するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! 損傷を避けるため、ワイパーアームを起こすときは、ワイパーブレードのゴムに触れないでください。

ワイパーブレードを取り外す

▶ ワイパーを作動させます。

▶ ワイパーが作動している途中で、エンジンスイッチを **0** の位置して、ワイパーを途中で停止させます。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ ワイパーアーム④を起こします。

! ワイパーアームを起こすときにボンネットと接触するときは、ワイパーを停止する位置が不適切です。ボンネットを損傷するおそれがありますので、再度ワイパーを作動させ、適切な位置でワイパーを停止させてください。

▶ クリップ②を両側から押し込んでロックを外し、ワイパーブレード①を③の方向にまわします。

▶ ワイパーブレード①を⑤の方向に押してワイパーアーム④から取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける

▶ 新しいワイパーブレード①の取り付け部⑥をワイパーアーム③の先端⑤に合せます。

▶ クリップ②がロックされるまで、ワイパーブレード①を矢印③の方向に押し込みます。

▶ ワイパーブレードが、ワイパーアームに確実に固定されていることを確認します。

▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

パンクしたとき

⚠ 事故や火災のおそれがあります

- パンクしたときは、あわててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全な場所に停車してください。
- パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱して、火災が発生するおそれがあります。

タイヤの修理およびタイヤ交換の準備

▶ 安全を確保できる、かたくてすべりにくい、水平な場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ セレクターレバーを P に入れます。

▶ 周囲の状況に注意しながら乗員を車から降ろして、ただちに安全な場所に避難させます。

▶ エンジンを停止します。

エンジンスイッチからキーを抜き、ステアリングがロックされたことを確認します。

▶ 車から降ります。

▶ ドアを閉じます。

▶ 車の後方に停止表示板を置きます。

ⓘ 高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

応急用スペアタイヤが車載されている車種

パンクしたタイヤを応急用スペアタイヤに交換します。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 応急用スペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、応急用スペアタイヤを装着した場合、走行性能が大きく変化します。十分注意して走行してください。
- 応急用スペアタイヤに交換したときは、必ず 80km/h 以下で走行してください。
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、ESP® オフスイッチで ESP® の機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤは短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。
- 応急用スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。

! 応急用スペアタイヤは各車種専用です。他車のものは使用しないでください。

! 応急用スペアタイヤを取り出すときや、タイヤ交換をするときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

! タイヤを交換するときは、エンジンを始動しないでください。

! 車速感応ドアロックを設定した状態で車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを **0** の位置にしてください。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

タイヤ交換の準備

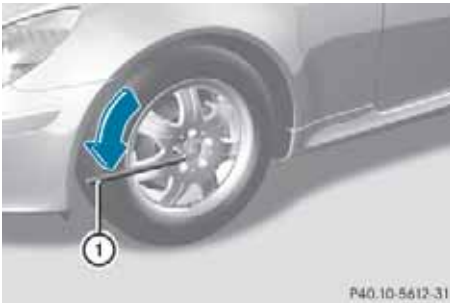
▶ タイヤ交換に必要な準備を行ないます（▷235 ページ）。

▶ ステアリングを直進の位置にします。

▶ 応急用スペアタイヤ、車載工具、輪止め、ジャッキ、電動エアポンプ、ガイドボルトを準備します（▷202 ページ）。

▶ 作業中に車が動き出すのを防ぐため、交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。

▶ やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、交換するタイヤの反対側の両輪の下り側に輪止めをします。

ℹ 輪止めは 1 個車載されています。もう 1 個必要なときは、適切な大きさの木片か石を輪止めとして使用してください。

▶ ホイールレンチ ① で、交換するタイヤのホイールボルト（5 本）を約 1 回転ほどゆるめます。

この時点では、ホイールボルトを取り外しません。

! ホイールレンチを使用するときに、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

ジャッキアップする

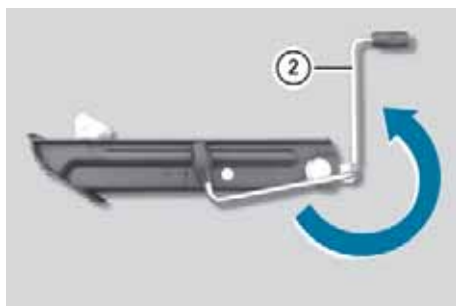
⚠ **けがのおそれがあります**

- 車載のジャッキは、この車のタイヤ交換で一時的にジャッキアップするためだけに設計されています。
- ジャッキは、かたくてすべりにくい、水平な場所で使用してください。また、ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした車が落下するおそれがあります。
- ジャッキアップしているときは、エンジンを始動したり、ドアやトランク、バリオルーフを開閉したり、パーキングブレーキを解除しないでください。車が落下するおそれがあります。
- ジャッキに不具合や損傷があるときは使用しないでください。
- 傾斜の急な斜面ではジャッキアップしないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。
- 車が車載のジャッキだけで支えられているときは、決して車の下に身体を入れないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。ジャッキは車を一時的に持ち上げるときだけに使用してください。

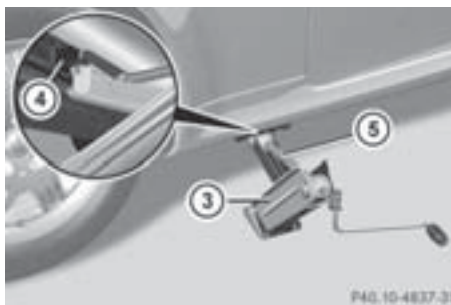
⚠ **けがのおそれがあります**

ジャッキサポート以外の場所にはジャッキを使用しないでください。ジャッキが外れてけがをしたり、車両を損傷するおそれがあります。

ジャッキは交換するタイヤに適した位置のジャッキサポートで使用してください。また、ジャッキを使用する前に、ジャッキサポートに異物や汚れがないことを確認してください。

! ジャッキアップする前に乗員や荷物を車から降ろしてください。

▶ ジャッキ（▷203 ページ）を取り出します。

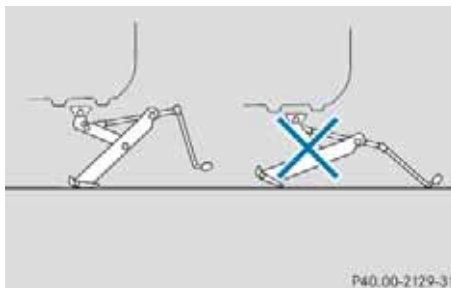
▶ ハンドル ② を矢印の方向に起こしてから、時計回りにまわします。

ジャッキアームが上がります。

▶ ジャッキ ③ のジャッキアーム ⑤ の先端を、車体のジャッキサポート ④ の位置に合わせます。

ℹ ジャッキサポートは前輪の後方、後輪の前方のボディ下部 4 カ所に設けられています。

⚠ **けがのおそれがあります**

ジャッキアームがジャッキサポートに正しく取り付けられていることを確認してください。ジャッキが外れると、けがをしたり車を損傷するおそれがあります。

▶ ジャッキの底面が、ジャッキサポートの真下にあり、確実に路面に接地していることを確認します。

（左）正しい取り付けかた
（右）間違った取り付けかた

▶ ジャッキハンドルを時計回りにまわし、タイヤが地面から離れるまでゆっくりとジャッキアップします。

ジャッキアップしたときのタイヤの高さは、地面から約 3cm 以内にしてください。

▶ 上側のホイールボルトを 1 本外します。

▶ そのネジ穴に車載工具のガイドボルト ⑥ をねじ込みます。

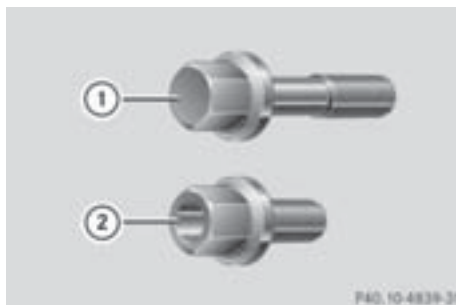
▶ 残りのホイールボルトを外して、タイヤを取り外します。

! ホイールやホイールボルトを外したときは、以下の点に注意してください。

- ホイールボルトに砂や泥が付着しないように注意してください。
- タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。ホイールに傷が付くおそれがあります。
- ホイールを外したときは、ホイールの内側を十分に清掃し、点検をしてください。リムの凹みや曲がりは空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。

応急用スペアタイヤを取り付ける

⚠ 事故のおそれがあります

- ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。また、ネジ山には決してオイルやグリスを塗布しないでください。ホイールボルトがゆるむおそれがあります。
- ホイールハブのネジ山が損傷しているときは走行しないで、メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
- 標準タイヤ用ホイールボルトで応急用スペアタイヤを取り付けないでください。ホイールを確実に取り付けることができず、ブレーキシステムを損傷したり、走行中にホイールが外れて事故を起こすおそれがあります。
- ホイールボルトは、ホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故につながるおそれがあります。

① 標準タイヤ用ホイールボルト
② 応急用スペアタイヤ用ホイールボルト

▶ 応急用スペアタイヤを取り付けるためのホイールボルトを用意します。

応急用スペアタイヤ用ホイールボルト②（短いホイールボルト）を使用してください。

ⓘ 応急用スペアタイヤ用ホイールボルトには、ボルト頭部が中空になっていないものもあります。

ⓘ 応急用スペアタイヤ用ホイールボルトは、応急用スペアタイヤに添付されています。

応急用スペアタイヤに添付された、応急用スペアタイヤ用ホイールボルト

※ 応急用スペアタイヤ用ホイールボルトの車載位置は予告なく変更されることがあります。

▶ 応急用スペアタイヤのホイールおよびハブの接合面に砂や汚れなどがないことを確認します。

▶ ガイドボルト③に合わせて応急用スペアタイヤ④を取り付けます。

▶ 4本のホイールボルトを取り付け、軽く締め付けます。

▶ ガイドボルトを取り外し、5本目のホイールボルトを取り付け、軽く締め付けます。

⚠ **けがのおそれがあります**

ジャッキアップした状態で、ホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いで、ジャッキが外れるおそれがあります。

応急用スペアタイヤに空気を入れる

車種や仕様により車載されている電動エアポンプが異なります。

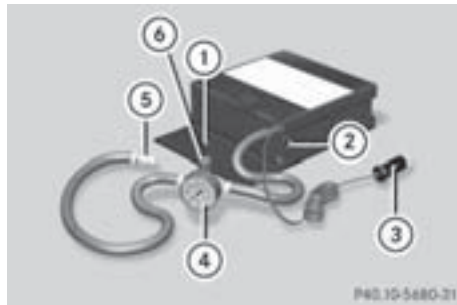
⚠ **事故のおそれがあります**

必ず応急用スペアタイヤに空気を入れてからジャッキダウンしてください。ジャッキダウンしたときにホイールリムを損傷するおそれがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

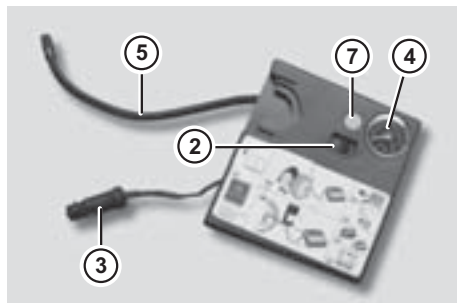
- 電動エアポンプを作動させるときは、電動エアポンプに記載されている取扱方法も参考にしてください。
- 応急用スペアタイヤを取り付ける前に、応急用スペアタイヤに空気を入れないでください。
- 電動エアポンプを作動させているときはエンジンを始動しないでください。
- 電動エアポンプやエアホースは作動中に金属部分などが熱くなります。必ず手袋を着用して作業してください。

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、メルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

空気圧ゲージ別体型

① フラップ
② 電源スイッチ
③ 電源プラグ
④ 空気圧ゲージ
⑤ エアホース
⑥ 空気圧調整バルブ

▶ フラップ ① を開いて電源プラグ ③ と空気圧ゲージ ④ を取り出します。

▶ 空気圧ゲージ ④ の空気圧調整バルブ ⑥ が閉じていることを確認します。

空気圧ゲージ一体型

② 電源スイッチ
③ 電源プラグ
④ 空気圧ゲージ
⑤ エアホース
⑦ 空気圧調整ボタン

▶ 電源プラグ ③ とエアホース ⑤ を取り出します。

▶ 応急用スペアタイヤのバルブキャップを取り外します。

▶ 電動エアポンプのエアホース ⑤ を応急用スペアタイヤのバルブに取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ② を 0（停止の位置）にします。

▶ ライターソケット（▷161 ページ）に、電源プラグ ③ を差し込みます。

! この車以外のライターソケットや電源ソケットなどには差し込まないでください。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ② を I（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、応急用スペアタイヤに空気が送り込まれます。

▶ 規定の空気圧になったら、電動エアポンプの電源スイッチ ② を 0（停止の位置）にします。

! 電動エアポンプの最大連続作動時間を守ってください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

最大連続作動時間は、電動エアポンプに貼付されているステッカーに記載されています。

i 応急用スペアタイヤの空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールに貼付されているラベル、またはタイヤに記載されています。

規定の空気圧を超えたときは、空気圧調整バルブ ⑥ または空気圧調整ボタン⑦で空気を抜いて調整します。

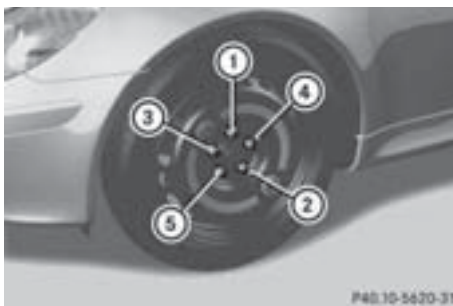
▶ ライターソケットから電源プラグ ③ を抜き、応急用スペアタイヤのバルブからエアホース ⑤ を取り外します。

▶ 応急用スペアタイヤのバルブキャップを取り付けます。

! 電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

ジャッキダウン

▶ ジャッキハンドルを反時計回りにまわし、ゆっくりボディを下げてタイヤを接地させます。

▶ ジャッキを外します。

▶ 図の順番でホイールボルトを均等に締め付けます。

▶ ホイールボルトの締め付けトルクの規定値は 11kg-m（110 Nm）です。

⚠ **事故のおそれがあります**

ホイールを交換した後は、ただちにホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

! ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

また、パイプを継ぎ足してまわすなど、必要以上にホイールボルトを締め付けないでください。ホイールボルトやネジ山を損傷するおそれがあります。

▶ ジャッキを元の状態に戻し、車載工具や輪止めなどとともに元の位置に戻します。

ℹ 応急用スペアタイヤを装着して走行したときは、タイヤ空気圧警告システムは正常に作動しません。

パンクしたタイヤをトランクに収納する

バリオルーフが閉じているときに、パンクしたタイヤをトランクに収納することができます。

▶ バリオルーフが閉じていることを確認します。

▶ 車載工具からタイヤ収納カバー（▷203 ページ）を取り出します。

▶ パンクしたタイヤをタイヤ収納カバーに入れ、トランク内に収納します。

! 応急用スペアタイヤの収納場所にパンクしたタイヤを収納することはできません。

! パンクしたタイヤをトランク内に収納して走行する場合は、速度を落とし十分注意して走行してください。収納したタイヤが動き、トランク内を損傷するおそれがあります。

応急用スペアタイヤを元に戻す

パンクしたタイヤを修理して、応急用スペアタイヤを元に戻すときは、以下の手順に従ってください。

この作業はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼することをお勧めします。

▶ バルブキャップを取り外します。

▶ 車載工具からバルブリムーバー（▷203 ページ）を取り出します。

▶ バルブリムーバーを使用してバルブを取り外し、完全に空気を抜きます。

ⓘ 完全に空気が抜けるまでには数分間かかります。

▶ バルブリムーバーを使用してバルブを取り付けます。

▶ バルブキャップを取り付けます。

▶ 応急用スペアタイヤを元の場所に収納し、スクリューで固定します。

! 応急用スペアタイヤは十分乾燥させてからトランク内に収納してください。

! 応急用スペアタイヤを収納するときはスクリューで確実に固定してください。

タイヤフィットが車載されている車種

応急用スペアタイヤが車載されていない車種は、タイヤフィットでパンクしたタイヤを修理します。

パンクしたタイヤをタイヤフィットで修理すると、一時的に走行することができます。

タイヤフィットは外気温度が－ 20℃以上のときに使用できます。

応急用スペアタイヤが車載されている場合は、パンクしたタイヤを応急用スペアタイヤに交換します。詳しくは（▷236 ページ）をご覧ください。

⚠ 事故のおそれがあります

- タイヤフィットによるパンク修理は、応急的なものです。修理後は、空気圧が適正であっても、必ず標準タイヤに交換してください。
- 以下の状況のときはタイヤフィットでタイヤを修理することができません。他の方法で車両を移動させてください。
  - ◇ タイヤの傷が約 4mm 以上の場合や、凹み、亀裂、ひびなどがある場合
  - ◇ タイヤの接地面以外に傷がある場合
  - ◇ ホイールに損傷がある場合
  - ◇ タイヤの空気圧が非常に低かったり、空気が完全に抜けた状態のタイヤで走行した場合

  絶対に走行しないでください。メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! タイヤを修理するときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

! タイヤを修理するときは、エンジンを始動しないでください。

! 異常のない適正な空気圧のタイヤには、タイヤフィットを使用しないでください。タイヤの空気圧でタイヤフィットが漏れ出すおそれがあります。

※ タイヤフィットは、日本仕様には装備されません。

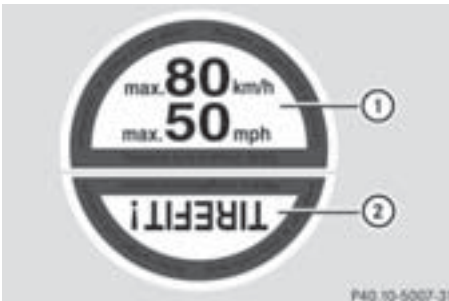
! タイヤフィットが塗装面に付着した場合は、ただちに湿らせた布で拭き取ってください。

! タイヤフィットで修理したタイヤは必ず交換してください。そのまま使用することはできません。

! タイヤフィットには使用期限があります。期限が過ぎたときは新品に交換してください。また、タイヤフィットの使用期限が過ぎている場合は使用しないでください。

タイヤフィットの準備

▶ タイヤに刺さった、パンクの原因と思われるクギまたはネジなどは取り除かないでください。

▶ トランクフロアボードの下からタイヤフィット、電動エアポンプを準備します。

▶ タイヤフィットに付属の最高速度のステッカー ① をはがし、運転者の見やすい場所に貼ります。

▶ 修理するタイヤのバルブ付近にステッカー ② を貼ります。

⚠ けがのおそれがあります

タイヤフィットは、身体や衣服に付着しないように注意してください。

- 眼や皮膚に付着した場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流してください。
- 衣服に付着した場合は、ただちに付着した衣服を着替えてください。
- アレルギー症状が出た場合は、ただちに医師の診断を受けてください。

タイヤフィットは、子供の手が届かない場所に保管してください。

- 万一、子供がタイヤフィットを飲み込んだ場合は、ただちに水で口を十分すすぎ、水を大量に飲ませてください。
- タイヤフィットを吐かせないでください。ただちに医師の診断を受けてください。
- タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。

ℹ タイヤフィットが漏れ出た場合は、そのまま乾燥させてください。乾燥すればフィルム状になり、剥がすことができます。

衣類にタイヤフィットが付着した場合は、すみやかに洗濯してください。

タイヤを修理する

車種や仕様により、車載されている電動エアポンプが異なります。

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> 使用上の注意を記載したステッカーが、電動エアポンプに貼付してあります。使用する前に内容を確認してください。

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なることがあります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

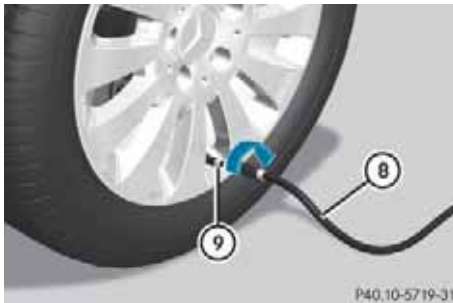
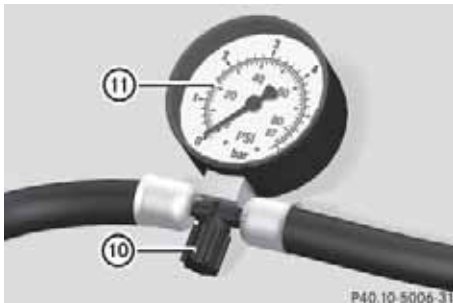
空気圧ゲージ別体型

▶ 電動エアポンプのフラップ ② を開きます。

▶ 電源プラグ ⑤ とエアホース ⑥ を取り出します。

▶ エアホース ⑥ をタイヤフィット ① のバルブ ⑦ に確実に取り付けます。

! 電動エアポンプのエアホースはタイヤフィットのバルブに確実に取り付けてください。電動エアポンプの作動時に接続部からタイヤフィットが漏れ、身体や衣類に付着するおそれがあります。

▶ タイヤフィット ① のバルブ ⑦ を下にして持ち、電動エアポンプの凹部 ③ に差し込みます。

▶ パンクしたタイヤのバルブ ⑨ からバルブキャップを取り外します。

▶ 空気圧調整バルブ ⑩ が閉じていることを確認します。

▶ タイヤフィットのホース ⑧ を、パンクしたタイヤのバルブ ⑨ に確実に取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ④ が 0（停止の位置）になっていることを確認します。

▶ 電源プラグ ⑤ をライターソケット（▷161 ページ）に差し込みます。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ④ を I（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、タイヤが膨らみはじめます。

ℹ 最初にパンクしたタイヤにタイヤフィットが送り込まれます。このとき、空気圧が一時的に約 5 バールまで高まることがあります。

この間は電動エアポンプの電源スイッチ ④ を 0（停止の位置）にしないでください。

▶ 電動エアポンプを約 5 分間作動させます。空気圧が少なくとも 1.8 バールに達していることを確認してください。

! 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

電動エアポンプを約 5 分間作動させても、空気圧が 1.8 バールに達しない場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ④ を 0（停止の位置）にして、タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外し、タイヤフィットがタイヤ内に行き渡るように、低速で車を約 10m 前進または後退させます。

▶ 電動エアポンプからタイヤフィット ① を取り外します。

▶ タイヤに空気を入れ直します。

⚠ **事故のおそれがあります**

電動エアポンプを約 5 分間作動させても空気圧が 1.8 バールに達しない場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

空気圧が 1.8 バールに達している場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ④ を 0（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ ライターソケットから電源プラグ ⑤ を抜きます。

▶ タイヤのバルブ ⑨ からタイヤフィットのホース ⑧ を取り外します。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

▶ 修理したタイヤのバルブキャップを取り付けます。

▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

▶ ただちに走行します。

タイヤフィットがタイヤ内に行き渡り、損傷箇所が固まりやすくなります。

▶ 約 10 分間走行した後、電動エアポンプのエアホース ⑥ を修理したタイヤのバルブに取り付けて、空気圧ゲージ ⑪ でタイヤ空気圧を点検します。

⚠ **事故のおそれがあります**

空気圧が 1.3 バール以下になっている場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

▶ 空気圧が 1.3 バール以上の場合は、規定の空気圧に調整します。規定の空気圧は燃料給油フラップ裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベルを参照してください。

規定の空気圧に達していない場合は、電動エアポンプでタイヤに空気を入れます。

規定の空気圧を超えている場合は、空気圧ゲージ ⑪ の空気圧調整バルブ ⑩ を緩めて調整します。

▶ 最寄りのメルセデス･ベンツ指定サービス工場まで走行し、パンクしたタイヤを交換します。

▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場ですみやかに新品のタイヤフィットに交換します。

⚠ **事故のおそれがあります**

タイヤフィットでタイヤを修理した後に走行するときの最高速度は約 80km/h です。

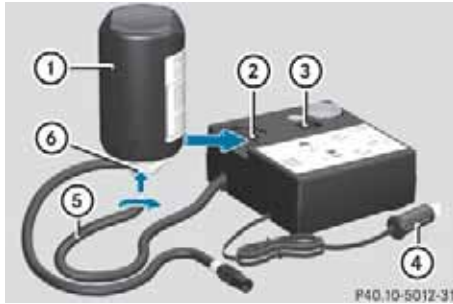
最高速度のステッカー "max. 80km/h" は、必ず運転者の見やすい場所に貼ってください。

車両操縦性に変化が現れることがあります。カーブ走行時やブレーキ時には慎重に運転してください。

環　境

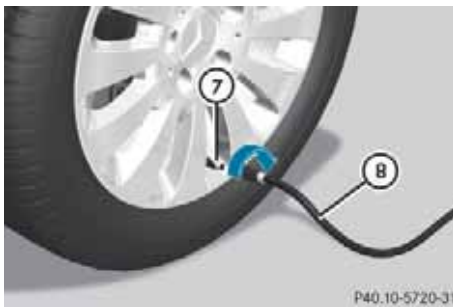
タイヤフィットやそのボトルの廃棄は、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で行なってください。

▶ タイヤフィットは、4 年ごとにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で交換してください。

空気圧ゲージ一体型

▶ 電動エアポンプの背面から電源プラグ ④ とエアホース ⑤ を取り出します。

▶ エアホース ⑤ をタイヤフィット ① のバルブ ⑥ に確実に取り付けます。

! 電動エアポンプのエアホースはタイヤフィットのバルブに確実に取り付けてください。電動エアポンプの作動時に接続部からタイヤフィットが漏れ、身体や衣類に付着するおそれがあります。

▶ タイヤフィット ① のバルブ ⑥ を下にして持ち、電動エアポンプの凹部 ② に差し込みます。

▶ パンクしたタイヤのバルブ ⑦ からバルブキャップを取り外します。

▶ タイヤフィットのホース ⑧ を、パンクしたタイヤのバルブ ⑦ に確実に取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ③ が 0（停止の位置）になっていることを確認します。

▶ 電源プラグ ④ をライターソケット（▷161 ページ）に差し込みます。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ③ を I（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、タイヤが膨らみはじめます。

! 最初にパンクしたタイヤにタイヤフィットが送り込まれます。このとき、空気圧が一時的に約 5 バールまで高まることがあります。

この間は電動エアポンプの電源スイッチ ③ を 0（停止の位置）にしないでください。

▶ 電動エアポンプを約 5 分間作動させます。空気圧が少なくとも 1.8 バールに達していることを確認してください。

! 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

電動エアポンプを約 5 分間作動させても、空気圧が 1.8 バールに達しない場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ③ を 0（停止の位置）にして、タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外し、タイヤフィットがタイヤ内に行き渡るように、低速で車を約 10m 前進または後退させます。

▶ 電動エアポンプからタイヤフィット ① を取り外します。

▶ タイヤに空気を入れ直します。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> 電動エアポンプを約 5 分間作動させても空気圧が 1.8 バールに達しない場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

空気圧が 1.8 バールに達している場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ③ を 0（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ ライターソケットから電源プラグ ④ を抜きます。

▶ タイヤのバルブ ⑦ からタイヤフィットのホース ⑧ を取り外します。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

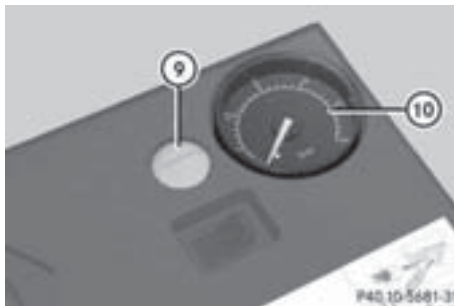
▶ 修理したタイヤのバルブキャップを取り付けます。

▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

▶ ただちに走行します。

タイヤフィットがタイヤ内に行き渡り、損傷箇所が固まりやすくなります。

▶ 約 10 分間走行した後、電動エアポンプのエアホース ⑤ を修理したタイヤのバルブに取り付けて、電動エアポンプの空気圧ゲージでタイヤ空気圧を点検します。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> 空気圧が 1.3 バール以下になっている場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

▶ 空気圧が 1.3 バール以上の場合は、規定の空気圧に調整します。規定の空気圧は燃料給油フラップ裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベルを参照してください。

規定の空気圧に達していない場合は、電動エアポンプでタイヤに空気を入れます。

規定の空気圧を超えている場合は、空気圧ゲージ ⑩ の横にある空気圧調整ボタン ⑨ を押して調整します。

▶ 最寄りのメルセデス･ベンツ指定サービス工場まで走行し、パンクしたタイヤを交換します。

▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場ですみやかに新品のタイヤフィットに交換します。

⚠ 事故のおそれがあります

タイヤフィットでタイヤを修理した後に走行するときの最高速度は約 80km/h です。

最高速度のステッカー "max. 80km/h" は、必ず運転者の見やすい場所に貼ってください。

車両操縦性に変化が現れることがあります。カーブ走行時やブレーキ時には慎重に運転してください。

環　境

タイヤフィットやそのボトルの廃棄は、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で行なってください。

▶ タイヤフィットは、4 年ごとにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で交換してください。

バッテリー

バッテリー取り扱いの一般的な注意

バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分充電されていることが必要です。

車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多いときは、通常よりも頻繁にバッテリー液量などを点検してください。

バッテリーの爆発を防ぐため、バッテリーは必ず指定品を使用してください。

車を長期間使用しないときの保管方法などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

	爆発の危険があります。
	バッテリーを取り扱っているときは、火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。
	バッテリー液は腐食性があります。皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。 手袋やエプロン、マスクを着用してください。 バッテリー液が付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
	バッテリーを取り扱うときは保護眼鏡を着用してください。
	子供を近付けないでください。
	取扱説明書の指示に従ってください。

⚠ けがのおそれがあります

爆発や火傷を防ぐため、バッテリーを取り扱うときは以下の事項を守ってください。

- バッテリーを傾けたり横倒しにしないでください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。バッテリーがショートして可燃性のガスに発火し、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- 静電気を防ぐため、合成繊維の衣服を着用しないでください。また、カーペットの上などでバッテリーを引きずらないでください。
- バッテリーに触れるときは、先に車体などに触れて、身体の静電気を放電させてください。
- 布などでバッテリーを拭かないでください。静電気や火花が発生して、バッテリーが爆発するおそれがあります。

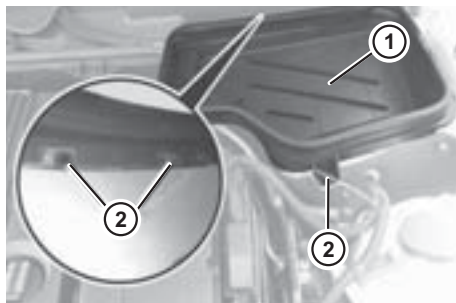
❗ 安全のため、バッテリー端子をゆるめたり外すときは、エンジンスイッチを **0** の位置にして、エンジンスイッチからキーを抜いてください。電気系部品やオルタネーターを損傷するおそれがあります。

バッテリーの点検や交換は、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で行なってください。少なくとも 2 年ごとまたは 20,000km ごとに点検･交換を行なってください。

ℹ バッテリー端子の取り外し、バッテリーの取り外し、充電、交換については、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で作業することをお勧めします。

環　境

環境保護のため、使用済みのバッテリーを廃棄するときは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼してください。

バッテリーの位置

右ハンドル車

バッテリーはエンジンルーム内の助手席側のバッテリーカバー ① の下にあります。

バッテリーカバー ① は 3 カ所のノブ ② を約 90 度まわして取り外します。

❗ 定期的にバッテリーの点検を行なってください。バッテリー液が減っているときはバッテリー液を補給してください。

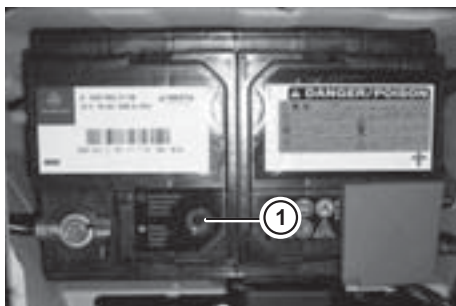
❗ バッテリーを充電するときは車から取り外してください。

❗ バッテリー端子の取り付けボルトは確実に締め付けてください。

❗ バッテリーの接続が一時的に断たれたときは以下のような作業が必要になることがあります。

- COMAND システムの再設定
- 施錠時のドアミラー格納機能のリセット
- ドアウインドウのリセット

ℹ エンジンスイッチにキーを差しているときは、わずかに電力を消費しています。走行しないときは、バッテリー保護のためエンジンスイッチからキーを抜いてください。

インジケーター付きバッテリー

ケースが黒色で、上面にインジケーター①があるバッテリーは、バッテリー液の補充はできません。

インジケーター①は、バッテリーの液量や充電状態が適正なときは黒色に、バッテリーの交換が必要なときは白色になります。

インジケーターが白色になったときは、メルセデス･ベンツ指定サービス工場に交換を依頼してください。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

バッテリーがあがったとき

バッテリーの電圧が低下し、エンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーを電源として始動することができます。

ブースターケーブルは、エンジンルーム内にあるブースターケーブル専用の[+]端子と[−]端子に接続します。

作業を始める前に、必ず以降に記載する説明を読んでください。

- エンジンと触媒が冷えているときに行なってください。
- バッテリーが凍結しているときはエンジン始動を行なわないでください。
- 救援車のバッテリーが、12V バッテリーであることを確認してください。
- 十分な容量と太さがあり、絶縁されたクランプを持つブースターケーブルを使用してください。

⚠ けがのおそれがあります

- 他車のバッテリーを電源として始動しているときは、バッテリーをのぞき込まないでください。万一、爆発したときにけがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動するときは、バッテリーを傾けないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

⚠ 爆発のおそれがあります

たばこなどの火気を近付けたり、火花を発生させたりしないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

ℹ バッテリーが凍結しているときは、火気を近付けずにバッテリー全体を暖め（50℃以下）、バッテリー液を解凍してからエンジンを始動してください。

ℹ 他車のバッテリーを電源としたエンジン始動について、詳しくはメルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! バッテリーがあがっているときは、ドアを開いたときにドアウインドウは下降しません。

このときは、無理にドアを閉じないでください。ドアやウインドウ、シール部などを損傷するおそれがあります。

! バッテリーには直接ブースターケーブルを接続しないでください。電気装備を損傷するおそれがあります。

! エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。

エンジン始動を 2 ～ 3 回試みても始動できないときはメルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジンを始動できたときも、すみやかにメルセデス･ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を行なってください。

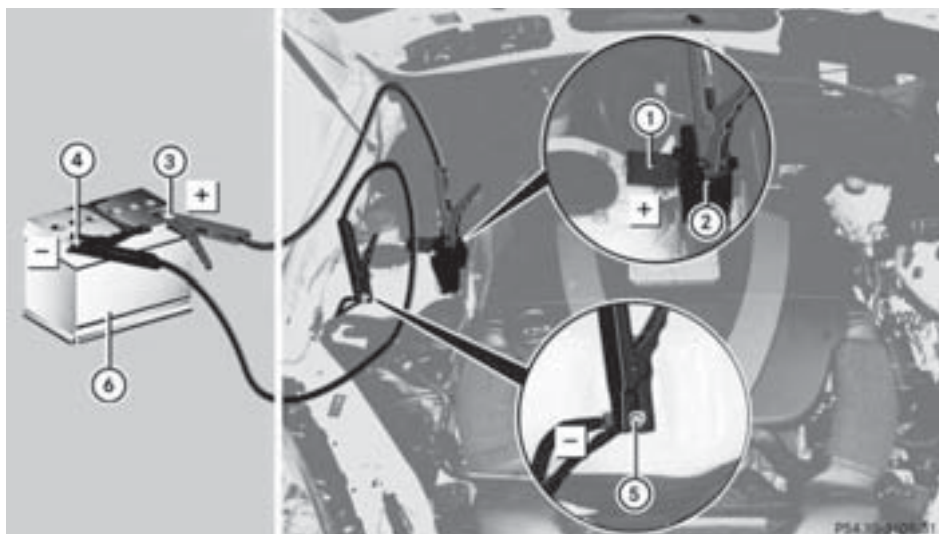
! 急速充電器によりエンジン始動を行なわないでください。

! エンジンが暖まっているときは、他車のバッテリーを電源として始動しないでください。

! ブースターケーブルは、ケーブル部分や絶縁部分が損傷しているものは使用しないでください。

! ブースターケーブルがラジエター冷却ファンや回転ベルトに巻き込まれないようにしてください。

! 救援車により接続方法が異なることがあります。接続前に救援車の取扱説明書もお読みください。

始動の方法

左ハンドル車

- ▶ 自車と救援車が接触していないことを確認します。
- ▶ パーキングブレーキを効かせます。
- ▶ セレクターレバーを P に入れます。
- ▶ 両車の電気装置をすべて停止します。
- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ 自車の⊕端子カバー ① を開きます。
- ▶ 自車のバッテリーの⊕端子 ② に赤色ブースターケーブルを接続します。
- ▶ 救援車のバッテリー ⑥ の⊕端子 ③ に赤色ブースターケーブルの反対側を接続します。
- ▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。
- ▶ 救援車のバッテリー ⑥ の⊖端子 ④ に黒色ブースターケーブルを接続します。
- ▶ 自車の⊖端子 ⑤ に黒色ブースターケーブルの反対側を接続します。
- ▶ 自車のエンジンを始動します。
- ▶ 両車の⊖端子を接続しているケーブルを取り外し、次に両車の⊕端子を接続しているケーブルを取り外します。

  いずれのケーブルを取り外すときも、自車の端子から先に取り外します。
- ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

けん引

けん引時の注意

⚠ 事故のおそれがあります

- エンジンがかかっていないときはブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- けん引されるときは、エンジンスイッチからキーを抜かないでください。

! けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で移送してください。

! けん引されるときは、ゆっくり発進し、車両に過大な力をかけないでください。車を損傷するおそれがあります。

! 一般道では 30km/h 以下の速度で、距離は 50km 以内に限り、けん引走行することができます。距離が 50km を超えるときは、必ず車両運搬車を利用してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! けん引されるときは、エンジンスイッチにキーを差し込み、エンジンスイッチを **2** の位置にしてからセレクターレバーを N に入れます。そして、エンジンスイッチを **0** の位置にして、キーは抜かないでください。

! やむを得ず、他車にけん引してもらうときは以降に記載する説明に従い、最寄りのメルセデス･ベンツ指定サービス工場に移送してください。

! オートマチックトランスミッションを損傷しているときは、プロペラシャフトを外してけん引してください。

! けん引する距離が長くなるときは、必ずリアをつり上げてください。

! フロントまたはリアをつり上げてけん引するときは、必ずエンジンスイッチを **0** の位置にしてください。ESP® が作動して接地している車輪にブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

! けん引される前に、バッテリーが接続されていて、電圧が低下していないことを確認してください。エンジンスイッチを **2** の位置にすることができないため、セレクターレバーを P 以外に入れられなくなります。また、エンジンが停止していると、ステアリングやブレーキの操作に非常に大きな力が必要になります。

i セレクターレバーを P から動かせないときは、パーキングロックを手動で解錠できます。詳しくは（▷229 ページ）をご覧ください。

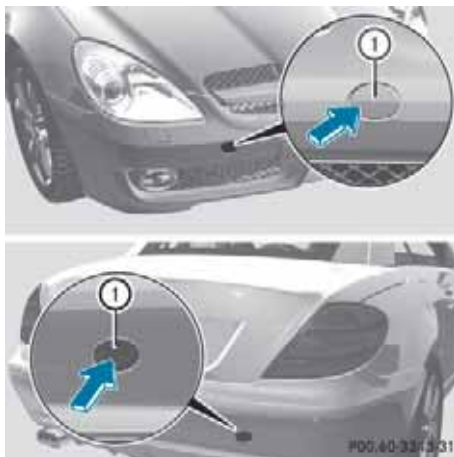
❗ けん引されるときは、車速感応ドアロックを解除してください（▷122 ページ）。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

❗ けん引されるときは、けん引防止警報機能 * を解除してください。

❗ けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。

- ロープは両車ともできるだけ同じ側につないでください。
- ロープの長さは 5m 以内とし、ロープの中央に白布（30cm × 30cm 以上）を付けて 2 台の車がロープでつながれていることを周囲に明示してください。
- ロープに無理な力や衝撃がかからないようにしてください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- 走行中、ロープをたるませないように前車のブレーキランプに注意しながら車間距離を調整してください。
- ワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。

けん引フックの取り付け

取り付け位置

フロントの取り付け部は、フロントバンパーの向かって左側にあります。

リアの取り付け部は、リアバンパーの向かって右側にあります。

▶ カバー ① のマーク部を押して、カバーを外します。

※ 車種や仕様により、カバー ① の形状やマーク部 ② の位置は異なります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

けん引フックを取り付ける

▶ 車載工具（▷202 ページ）からけん引フックとホイールレンチを取り出します。

▶ 内部のネジ穴にけん引フックをねじ込み、止まるまで手で締め込みます。

▶ さらに、ホイールレンチの柄の部分をけん引フックのリング部分に差し込み、確実に締め付けます。

けん引する

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ ブレーキペダルを踏みながらセレクターレバーを **N** に入れます。

! 距離は 50km 以内に限り、けん引走行することができます。距離が 50km を超えるときは、必ず車両運搬車を利用してください。

! フロントまたはリアをつり上げてけん引するときは、必ずエンジンスイッチを **0** の位置にしてください。ESP® が作動して接地している車輪にブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

けん引フックを取り外す

▶ 車載工具（▷202 ページ）からホイールレンチを取り出します。

▶ ホイールレンチの柄の部分をけん引フックのリング部分に差し込み、反時計回りにまわします。

▶ けん引フックを取り外します。

▶ けん引フックのカバーを取り付けます。

▶ けん引フックとホイールレンチを車載工具に収納します。

車を運搬する

けん引フックは、車両運搬車に車を積載するときにも使用できます。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ ブレーキペダルを踏みながらセレクターレバーを **N** に入れます。

! 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをサスペンションなどのメンバー部分にかけないでください。車体を損傷するおそれがあります。

ヒューズ

ヒューズ交換についての注意

電気装備に異常が発生するとヒューズが切れて電気装備への接続が切断されます。これにより電気装備は作動しなくなります。

⚠ **火災のおそれがあります**

規格や容量の異なるヒューズ、改造や修理をしたヒューズを使用しないでください。電気回路に負荷がかかり、火災の原因になります。

ヒューズ切れの原因の点検や修理はメルセデス･ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

ℹ 以下のようなときは、ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- ヒューズを交換してもすぐに切れるとき
- ヒューズに異常はないが、電気装備が作動しないとき

ヒューズの位置

ヒューズボックスは以下の場所にあります。

- インストルメントパネル左側面
- エンジンルーム内運転席側
- トランクルーム内

ヒューズ交換の準備

▶ 停車して、すべての電気装備を停止します。

▶ エンジンスイッチを **0** の位置にします。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ ワイパーが停止位置になっていることを確認します。

! ヒューズボックスのカバーを脱着するときは、以下の点に注意してください。

- カバーを取り外したとき、内部に水分や雨などが入らないようにしてください。
- カバーを取り付けたとき、カバー側のシールが正しく密着するようにしてください。

インストルメントパネル左側面のヒューズボックス

ヒューズボックスのカバーを取り外す

▶ 左側ドアを開きます。

▶ 矢印の位置にヘラなどを差し込み、カバー ① を開きます。

ヒューズの配置表（英文）が入っています。

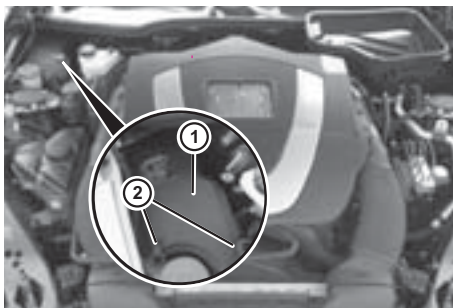
! カバーを開くときは、ドライバーなど先端の尖ったものを使用しないでください。ダッシュボードを損傷するおそれがあります。

ヒューズボックスのカバーを取り付ける

▶ カバー ① の前部をダッシュボードに差し込みます。

▶ カバー ① を押し込んで固定します。

▶ 運転席ドアを開きます。

エンジンルーム内のヒューズボックス

右ハンドル車

※ 左ハンドル車はフック ② の位置が異なります。

エンジンルーム内のヒューズボックスは運転席側にあります。

ヒューズボックスのカバーを取り外す

▶ ボンネットを開きます（▷167 ページ）。

▶ カバー ① に水分や汚れが付着しているときは、布などで拭き取ります。

▶ 2 カ所のフック ② を外します。

▶ ヒューズボックスのカバー ① を取り外します。

ヒューズボックスのカバーを取り付ける

▶ カバー ① の後部を先に差し込み、手前側を密着させます。

▶ フック ② を止めます。

▶ ボンネットを閉じます。

トランクルーム内のヒューズボックス

トランク内のヒューズは見ることはできません。メルセデス·ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ヒューズを交換する

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ ヒューズ一覧を参考に、作動しない電気装備に該当するヒューズを確認します。

▶ 該当ヒューズを取り外します。

▶ ヒューズを点検し、心線部が切れている（溶断）ときは同じ電流値（色）のヒューズと交換します。

ヒューズ一覧

ヒューズボックス 1（インストルメントパネル左側面）

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
21	5A	リアクォーターウインドウ、バリオルーフ
22	5A	盗難防止警報システム、自動防眩ルームミラー、ルームランプ、ドアミラー、レインセンサー、バニティミラー照明、読書灯
23	5A	オプション
24	-	未使用
25	40A	サウンドシステム
26	25A	COMAND システム
27	25A	セントラルロッキングシステム、乗降用ランプ、ドアミラー、ドアウインドウ、スイッチ照明
28	25A	セントラルロッキングシステム、乗降用ランプ、ドアミラー、ドアウインドウ、スイッチ照明
29	40A	エアコンディショナー、ブロアモーター
30	5A	メーターパネル
31	15A	オプション
32	25A	リアクォーターウインドウ
33	5A	ABS/ASR/BAS/ESP®、オートマチックトランスミッション、ホーン、マルチファンクションステアリング、電動ステアリング調整、方向指示灯、ワイパー
34	30A	シート調整、電動ステアリング調整
35	30A	シート調整
36	15A	エンジンエレクトロニクス、ステアリングロック、スターター
37	7.5A	エアコンディショナー、エアスカーフ、盗難防止警報システム、チャイルドセーフティシート検知システム、セントラルロッキングシステム、ドアミラー、非常点滅灯、リアデフォッガー、パークトロニック、シートヒーター、スイッチ照明、けん引防止警報機能、バリオルーフ
38	40A	バリオルーフ
39	25A	リアクォーターウインドウ
40	5A	診断ソケット
41	5A	COMAND システム
42	5A	ABS/ASR/BAS/ESP®、オートマチックトランスミッション、ホーン、マルチファンクションステアリング、電動ステアリング調整、方向指示灯、ワイパー

ヒューズボックス 2（エンジンルーム内）

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
43	15A	ホーン
44	5A	エアコンディショナー、グローブボックスランプ
45	7.5A	エアバッグシステム、チャイルドセーフティシート検知システム
46	40A	ワイパー
47	15A	ライター、COMAND システム、グローブボックスランプ
48	15A	エンジンエレクトロニクス
49	7.5A	エアバッグシステム
50	5A	ランプスイッチ、ヘッドランプ、スイッチ照明
51	5A	ブロアモーター、エンジン冷却ファン、ヘッドランプ照射角度調整、メーターパネル
52	15A	スターター
53	25A	エンジンエレクトロニクス
54	15A	エンジンエレクトロニクス、エンジン冷却ファン
55	7.5A	オートマチックトランスミッション、ヘッドランプ照射角度調整
56	5A	ABS/ASR/BAS/ESP®
57	5A	エンジンエレクトロニクス、ステアリングロック、スターター
58	—	未使用
59	50A	ABS/ASR/BAS/ESP®
60	40A	ABS/ASR/BAS/ESP®
61	—	未使用

62	5A	診断ソケット、ランプスイッチ、ヘッドランプ
63	5A	ランプスイッチ、ヘッドランプ
64	10A	COMAND システム
65	40A	オプション

（2007-02-21・A 171 545 03 00）

ℹ 1 ～ 20 のヒューズはトランク内にありますが見ることはできません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

純正部品 / 純正アクセサリー

Daimler AG では、点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。

純正部品は厳格な基準により品質管理されています。点検や整備、修理のときは、必ず純正部品を使用してください。

アクセサリーについても、Daimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社が指定する製品だけを使用してください。

⚠ 事故のおそれがあります

どんな場合でも、ブレーキ関連部品などの重要保安部品や走行系統に使用する部品には、純正部品以外のものを使用しないでください。事故や故障の原因になります。

! 車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。事故や故障の原因になります。また、関連する他の装備にも悪影響を与えるおそれがあります。

! 車載無線機など電装アクセサリーを装着するときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談してください。装着方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えるおそれがあります。また、電気配線を間違えると、火災や故障の原因になります。

! 以下の場所の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナーの本体、乗員保護装置のコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。これらの部位にオーディオなどを追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、乗員保護装置の作動に悪影響を与えるおそれがあります。

- エアバッグ収納部
- シートベルト
- インストルメントパネル
- センターコンソール
- ドア
- シート
- ピラー付近
- サイドシル付近

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

環　境

Daimler AG では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

i 純正部品以外の部品を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

ビークルプレート

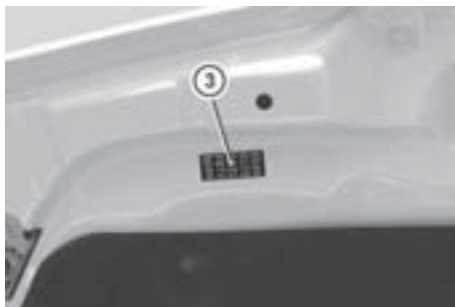
純正部品を注文するときに車台番号やエンジン番号などが必要になることがあります。車台番号やエンジン番号などは図の箇所に記されています。

ニューカープレート

運転席側または助手席側のドア開口部の車体側に、車台番号およびカラーコードなどを記載したニューカープレート ① が貼付されています。

車台番号

車台番号 ② は、右側シート後方のセンタートンネル側面に打刻してあります。

オプションコードプレート

ボンネット裏側

オプションコードを記載したオプションコードプレート ③ は、ボンネット裏側に貼付してあります。

エンジン番号

エンジン番号はエンジンブロックの右側後部に打刻してあります。

詳しくはメルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オイル・液類 / バッテリー

オイル・液類に関する注意

オイル・液類には以下のものが含まれます。

- 燃料
- 冷却水
- ブレーキ液
- 油脂類（エンジンオイル、オートマチックトランスミッションオイル、パワーステアリングオイルなど）
- ウォッシャー液

点検や整備、修理のときは、必ず Daimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社の指定品のみを使用してください。

詳しくは、メルセデス·ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ⓘ 指定品以外のオイル・液類を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

⚠ けがのおそれがあります

オイル・液類は子供の手の届かない場所に保管してください。また、火気の近くには保管しないでください。

オイル・液類が目や粘膜、傷に触れないようにしてください。万一目に入ったり皮膚に付着したときは、すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

環　境

オイル・液類は、環境に配慮して廃棄してください。

燃料

⚠ 爆発のおそれがあります

燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

⚠ 健康を害するおそれがあります

燃料が皮膚や衣類に触れないように注意してください。

燃料が皮膚に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康に悪影響を与えます。

燃料タンク容量

燃料タンク容量	約 70 ℓ
警告灯点灯時の残量	約 9.0 ℓ

! 軽油を給油しないでください。また、軽油を混ぜたガソリンを給油しないでください。少量でも軽油を給油すると、燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。誤って軽油を給油して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! 指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷などによりエンジンを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。指定以外の燃料を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

燃料消費について

以下のような状況では、燃料をより消費します。

- 気温が非常に低いとき
- 市街地を走行するとき
- 短い距離を走行するとき
- 山道や坂道を走行しているとき

! 燃料に添加剤を使用しないでください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

環　境

CO_2（二酸化炭素）の排出は、地球温暖化の大きな原因となります。

緩やかな運転を心がけ、定期的に点検・整備を行なうことにより、CO_2 排出量を最小限に抑えることができます。

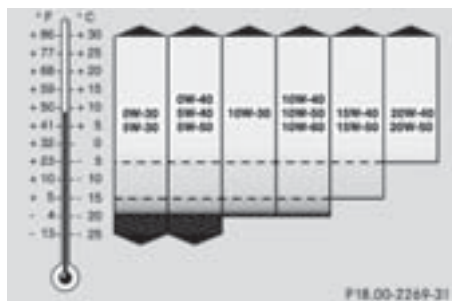
エンジンオイル

! エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! エンジンオイルは、使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給もしくは交換してください。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくはメルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

グレードと粘度は、下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選択してください。

エンジンオイル容量

車種	容量
SLK 200	約 5.5 ℓ
SLK 350	約 8.0 ℓ

ℹ 容量は、オイルフィルター分を含む交換時の数値です。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルの交換については、別冊「整備手帳」を参照してください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

! オートマチックトランスミッションオイルに添加剤を使用しないでください。トランスミッション内部の摩耗が進んだり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! オートマチックトランスミッションオイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。詳しくはメルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

また、冷却水の補給が必要なときは必ず指定品を使用して補給してください。

⚠ **火災のおそれがあります**

冷却水をエンジンルームにこぼさないでください。発火するおそれがあります。

不凍液の濃度

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域の最低気温によって濃度を変えます。

不凍液混合率	凍結温度
約 50%	− 37℃
約 55%	− 45℃

! 不凍液の濃度は約 50% から約 55% の間にしてください。濃度を約 55% 以上にすると、冷却性能が低下します。

ブレーキ液

定期的にメルセデス･ベンツ指定サービス工場で交換をしてください。詳しくはメルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

指定品目	純正ブレーキ液
規格	DOT 4 プラス規格

⚠ 事故のおそれがあります

ブレーキ液を補給するときは、ゴミや水分がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、過酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ベーパーロックとは、長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

! ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

i ウォッシャー液には夏用と冬用があります。夏用には油膜を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー液のリザーブタンクは兼用です。

⚠ 火災のおそれがあります

ウォッシャー液は可燃性の高い液体です。ウォッシャー液を取り扱うときは、火気を近付けたり、近くで喫煙しないでください。

バッテリー

車載バッテリーの電圧 / 容量

電圧	12V
容量	62Ah / 74Ah

※ バッテリーの容量は、予告なく変更されることがあります。

ビークルデータ

積載荷物の制限重量

車種	ルーフ	トランク
全車	50kg	100kg

! ルーフラックを使用するときは、必ずバリオルーフを閉じてください。

! ルーフラックを取り付けているときは、バリオルーフを開かないでください。バリオルーフやルーフラックを損傷するおそれがあります。

i ルーフの制限重量には、ルーフラックやアタッチメントの重量も含まれます。

バリオルーフ操作時の全高

車種	全高
SLK 200	約 1544mm
SLK 350	約 1545mm

トランクを開いたときの高さ

① トランクを開いたときの高さ

トランクをいっぱいまで開いたときの高さは、以下のようになります。

①	1751 ～ 1761 mm

i タイヤ、積載荷物、オプション装備品やサスペンションの状態などにより、数値が異なります。

タイヤとホイール

! タイヤとホイールは必ず純正品および承認された製品を使用してください。詳しくはメルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ABS や ESP® などの装備は、純正品および承認された製品を使用することで効果が発揮されます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、安全性の保証はできません。

! 純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、車両操縦性や騒音、燃料消費などに影響を与えるおそれがあります。また、指定されたサイズ以外のタイヤやホイールを装着すると、フェンダーの内側やサスペンションなどに接触し、車やタイヤを損傷するおそれがあります。

i 燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷178 ページ）。

i 左右には必ず同サイズのタイヤ / ホイールを装着してください。

i タイヤフィットについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i タイヤやホイールに関して、詳しくはメルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

標準タイヤ

! 標準タイヤ / ホイールにはスノーチェーンを取り付けないでください。

! タイヤローテーションは行なわないでください。

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
SLK 200	前輪 205 / 55R16 後輪 225 / 50R16	前輪 7J × 16 後輪 8J × 16	前輪 34mm 後輪 30mm
SLK 350	前輪 225 / 45R17 後輪 245 / 40R17	前輪 7.5J × 17 後輪 8.5J × 17	前輪 36mm 後輪 30mm
SLK 200 スポーツパッケージ	前輪 225 / 40R18 後輪 245 / 35R18	前輪 7.5J × 18 後輪 8.5J × 18	前輪 36mm 後輪 30mm
SLK 350 AMG スポーツパッケージ	前輪 225 / 40R18 後輪 245 / 35R18	前輪 7.5J × 18 後輪 8.5J × 18	前輪 37mm 後輪 30mm

オプションまたは仕様により、以下のタイヤ / ホイールが装着される場合があります。

	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
16 インチホイール	前輪 205 / 55R16 後輪 225 / 50R16	前輪 7J × 16 後輪 8J × 16	前輪 34mm 後輪 30mm
17 インチホイール	前輪 225 / 45R17 後輪 245 / 40R17	前輪 7.5J × 17 後輪 8.5J × 17	前輪 36mm 後輪 30mm
18 インチホイール	前輪 225 / 40R18 後輪 245 / 35R18	前輪 7.5J × 18 後輪 8.5J × 18	前輪 36mm 後輪 30mm
18 インチホイール	前輪 225 / 40R18 後輪 245 / 35R18	前輪 7.5J × 18 後輪 8.5J × 18	前輪 37mm 後輪 30mm

ウィンタータイヤ

ウィンタータイヤのサイズは Daimler AG が指定するもので、日本国内で発売されているスタッドレスタイヤは、表記のサイズに対応していないことがあります。

ウィンタータイヤやスノーチェーンについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

スノーチェーンはウィンタータイヤの後輪に装着することができます。

車種	ウィンタータイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
SLK 200	205 / 55R16 M+S	7J × 16	34mm
	225 / 45R17 M+S	7.5J × 17	36mm
SLK 350	225 / 45R17 M+S	7.5J × 17	36mm
	225 / 40R18 M+S	7.5J × 18	36mm

※ 前輪と後輪で同サイズのウィンタータイヤを装着してください。

応急用スペアタイヤ

! 応急用スペアタイヤには、スノーチェーンを装着しないでください。

応急用スペアタイヤの空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールに貼付されているラベルまたはタイヤに記載されています。

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット	空気圧
SLK 200 SLK 350	145 / 70-17	4.5B × 17	12mm	3.5bar/ 51psi

対象モデル
SLK 200 KOMPRESSOR SLK 350

※この取扱説明書の内容は、2011 年 1 月現在のものです。

総輸入元
メルセデス・ベンツ日本株式会社
〒106-8506 東京都港区六本木一丁目9番9号 六本木ファーストビル

環境保護のため、この取扱説明書は再生紙を使用致しました。

MBJCSD 32070-011100120 N
6515 3298 20 RE2009/12a, 01/11